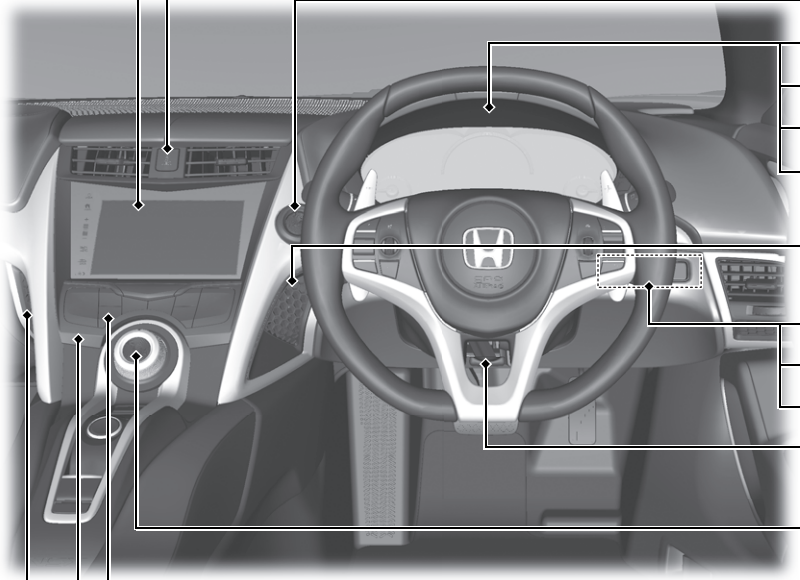
HONDA

NSX

オーナーズマニュアル

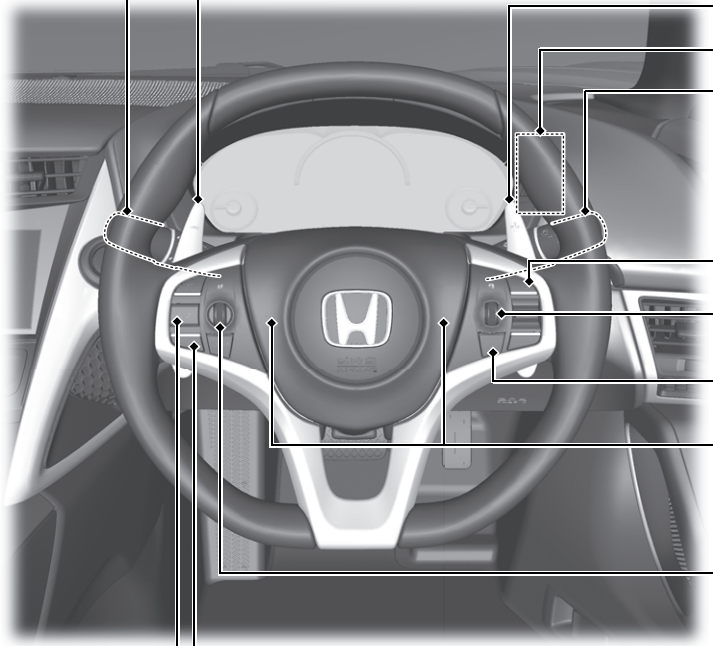
クイックガイド
安全なドライブ
計器の見かた
各部の操作
オーディオ
運転
メンテナンス
万一の場合には
資料
索引

ビジュアル目次



- オーディオインフォメーション画面※
- Honda インターナビシステム※
- 非常点滅表示灯（ハザードスイッチ）
- ENGINE START/STOP スイッチ P. 111
- メーター P. 81
- 警告灯 P. 57
- 表示灯 P. 66
- マルチインフォメーションディスプレイ P. 84
- MID ベント P. 139
- (VSA OFF)スイッチ P. 183
- (車両接近通報 OFF)スイッチ P. 181
- パーキングセンサースイッチ P. 202
- ハンドル位置調節レバー P. 123
- インテグレーテッドダイナミクスシステム モードスイッチ P. 170
- リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ P. 120
- オートエアコン P. 139
- MID ベント P. 139

※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。



ワイパー/ ウォッシャースイッチ P. 117

シフトスイッチ(シフトダウン) P. 169

シフトスイッチ(シフトアップ) P. 169

イルミネーションコントロールボタン P. 119

方向指示器(ウィンカー)/ ライトスイッチ P. 114, 115

クルーズコントロールスイッチ P. 177

インフォメーション(ⓘ)ホイール P. 84

TRIP ボタン P. 85

ホーンスイッチ(📯 周辺)

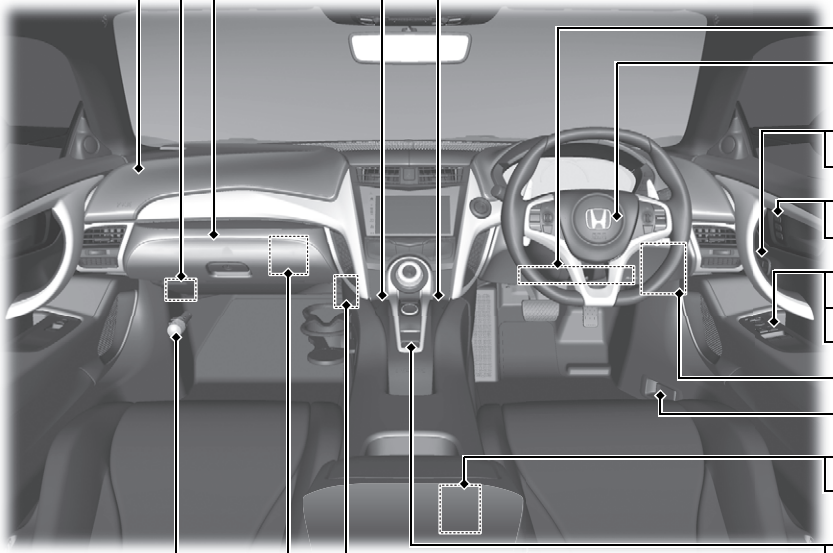
オーディオリモートコントロールスイッチ※

発話スイッチ※

取り消しスイッチ※

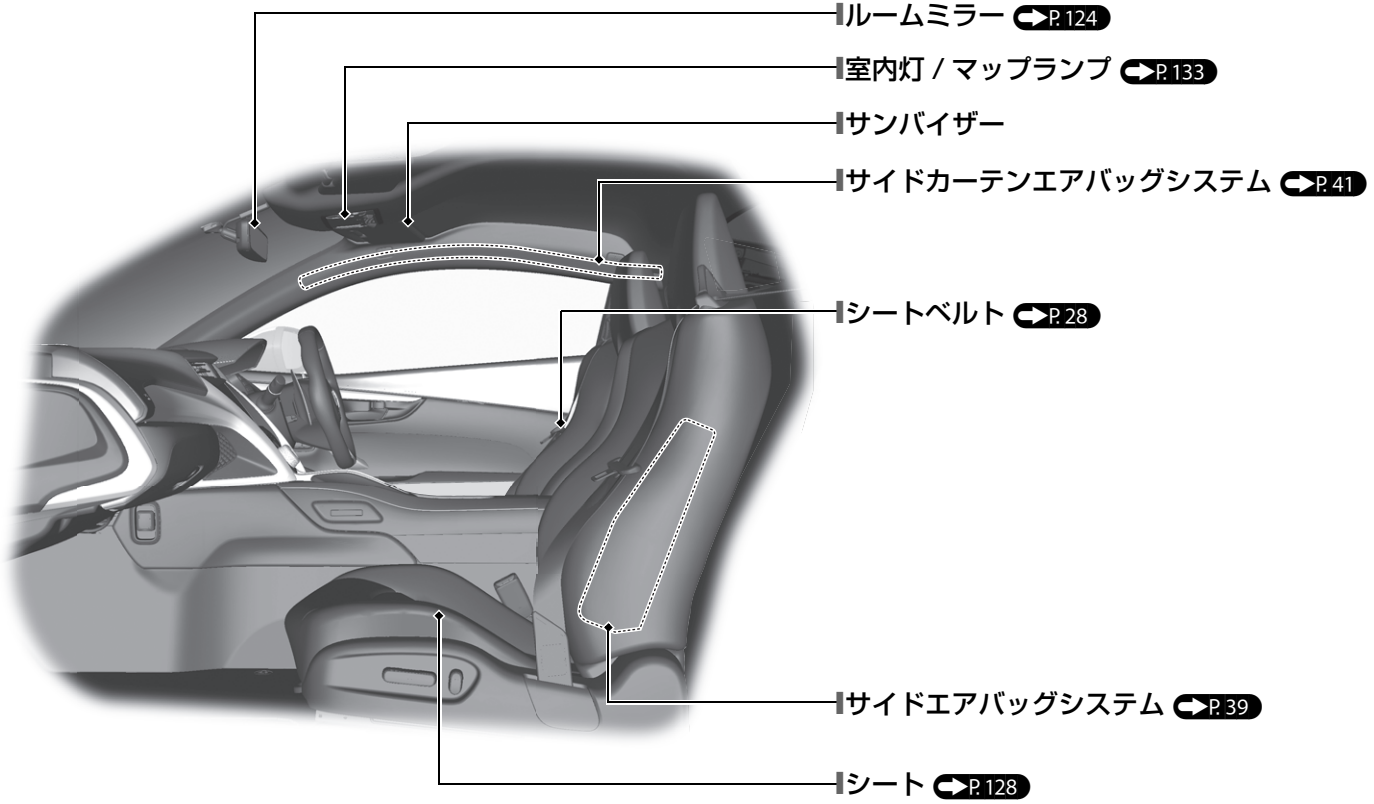
※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。

ビジュアル目次



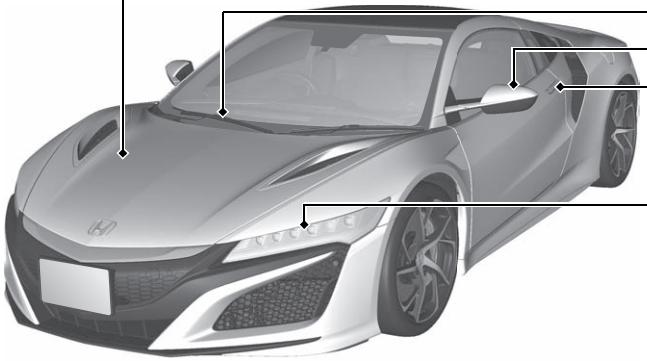
SRS エアバッグシステム(助手席用) P. 34
室内助手席側ヒューズボックス P. 283
グローブボックス P. 134
シートヒータースイッチ* P. 138
運転席ニーエアバッグ P. 37
SRS エアバッグシステム(運転席用) P. 34
ハッチオープナー P. 102
フューエルリッドオープナー P. 207
メモリーボタン* P. 122
セットボタン* P. 122
ドアミラー調節スイッチ P. 125
マスタードアロックスイッチ P. 98
パワーウィンドースイッチ P. 108
室内運転席側ヒューズボックス P. 282
ボンネット解除ノブ P. 220
USB ジャック ※1
HDMI ジャック ※1
電子制御シフトポジションスイッチ P. 162
パーキングブレーキスイッチ P. 192
オートマチックブレーキホールドスイッチ P. 194
アクセサリーソケット P. 137
USB ジャック ※1
ハッチメインスイッチ P. 104
ETC 車載器 ※2
非常信号灯 P. 251

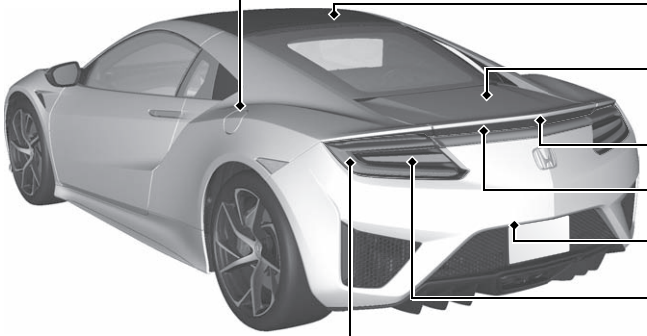
※1：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。
※2：別冊「ETC 車載器」を参照してください。



この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次





ボンネット内のメンテナンス P. 217
ワイパー P. 117, 229
ドアミラー P. 125
ドアの施錠 / 解錠 P. 91
ヘッドライト P. 115, 227
ウィンカー P. 114, 227
車幅灯 P. 115, 227
給油のしかた P. 207, 289
ハイマウントストップランプ P. 228
ハッチの開閉 P. 101
ハッチ内のメンテナンス P. 217
リアカメラシステム※ P. 205
尾灯 P. 228
番号灯 P. 228
後退灯 P. 228
ウィンカー P. 114, 228
制動灯 / 尾灯 P. 228

※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。

SH-AWD 四輪駆動力自在制御システム

SH-AWD 四輪駆動力自在制御システム車は、モーターとガソリンエンジンを搭載しており、その両方を動力源として使用します。そして、モーターは高電圧バッテリーから供給された電力により作動します。

走行モード	EV 走行(発進加速時)※	エンジン走行	EV 走行(低速クルーズ時)※	ハイブリッド走行
走行状態	発進加速時 • フロント側モーターの動力のみで走行	ゆるやかな加速時 • エンジンの動力のみで走行	低速クルーズ時 • フロント側モーターの動力のみで走行	しっかりとした加速時 • エンジンとモーターの動力で走行
ツインモーターユニット	作動	出力なし	作動	作動
ダイレクトドライブモーター	停止	発電 / 出力なし	停止	発電 / 作動
エンジン	停止	作動	停止	作動
高電圧バッテリー	放電	充電 / 放電	放電	放電

※：インテグレーテッドダイナミクスシステムが SPORT+ モードまたは TRACK モードのときは、EV 走行は行いません。
※：シフトポジションがDのときにパドルスイッチを操作すると、EV 走行がキャンセルされます。

走行モード	エンジンクルーズ走行	回生	AWD モード
走行状態	高速クルーズ走行中 • エンジンの動力のみで走行	減速中 • モーターが回生ブレーキで得た電力を高電圧バッテリーへ供給します。	滑りやすい状況 • エンジンとフロント側モーターの動力で走行
ツインモーターユニット	出力なし	回生	作動
ダイレクトドライブモーター	発電 / 作動	停止	発電 / 作動
エンジン	作動	作動 / 停止	作動
高電圧バッテリー	充電 / 放電	充電	充電 / 放電

エネルギー効率について

通常のガソリンエンジン搭載車と同じように、この車の燃費や航続可能距離は、運転のしかたによって変わります。急加速をおこなうと、動力源がエンジンへ切り換わりやすくなります。また暖房負荷や冷房負荷が高いとき、航続可能距離が変わります。いずれの場合も高電圧バッテリーの残量は早く低下します。

バッテリーのタイプ

2 種類のバッテリーが装備されています。エアバッグ、ライト類や電気アクセサリーを使用するための 12V バッテリーと、モーターの駆動と 12V バッテリーを充電する高電圧バッテリーです。

回生エネルギーと回生ブレーキ

減速時または下り坂では、モーターは発電機として働き、加速時に使った電力を回生エネルギーとして取り戻します。
この回生ブレーキ機能は、エンジンブレーキと同じような働きをします。

ハイブリッド車について

高電圧部位や高電圧配線部は電磁シールド構造になっています。
従来の車や家電製品と比べて電磁波が多いということはありません。

エンジンの自動停止・始動

エンジンが自動的に始動や停止します。そのため、停車時にエンジンが停止状態から始動することがあります。特に、次のようなときは、エンジンが自動的に停止しないことがあります。

●インテグレーテッドダイナミクスシステムが SPORT+ モードまたは TRACK モードのとき
●急加速、登坂、高速走行時など、瞬間的に駆動力が足りず補助が必要なとき
●暖房負荷や冷房負荷が高いとき
●高電圧バッテリーの温度が高いとき、または低いとき
●高電圧バッテリーの充電量が低いとき
●エンジン冷却水の温度が低いとき
●運転席のシートベルトを外し、運転席のドアを開けたとき
●シフトポジションが M（マニュアル）のとき

車両の動作制限温度について
外気温が－ 20 ℃より低下した場合、以下のシステム動作が制限されます。

➔ 高電圧バッテリー ➔P. 73
➔ デュアルクラッチトランスミッション ➔P. 161
➔ シフト操作 ➔P. 162

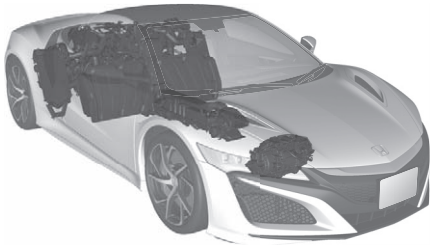
• ハイブリッド車特有の音について

パワーシステム起動時や走行中に、次のような音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

聞こえるとき	状況
エンジンの始動・停止時	トランスミッションの作動音が車両後方から聞こえます。
加速時	モーター作動音、エンジン作動音がエンジンルーム内、車両前方から聞こえます。
減速時	エネルギーを回生するために、モーター回生動作音がエンジンルーム内、車両前方から聞こえます。 また、低速走行でブレーキを踏んだときやブレーキシステムが切り換わるときにブレーキ装置から、音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
エアコン、ヒーター作動時	コンプレッサーやヒーターシステムの作動音がエンジンルーム内から聞こえます。
室内側エアコン非作動時	エアコンで高電圧バッテリーを冷却するシステムが搭載されているため、ファンの作動音が車両前方から聞こえます。

エアコンで高電圧バッテリーを冷却するシステムについて
●デフロスターが ON のときは、システムは作動しません。
●極端な高温や低温状態では、電動コンプレッサー保護のため十分に高電圧バッテリーの冷却性能が確保できない場合があります。
●作動しているときは、エアコンの効きが弱くなる場合があります。

ご使用時の注意



高電圧システムには触れない

高電圧システムを分解や配線取り外しなどを行うと感電するおそれがあります。点検・修理は、Honda 指定販売店にご相談ください。

事故が起きたとき

●感電に注意する

▶ 車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがあります。高電圧部位やそれらを接続する配線（オレンジ色）には、絶対に触れないでください。

●高電圧バッテリー液に触れない

▶ 高電圧バッテリー液がもれているときは、バッテリー液が目や皮膚に付くとその部分が侵されますので、十分に注意してください。万一付着したときは、すぐに清浄な水で数分間洗浄した後、ただちに医師の診察を受けてください。

●火災が発生したら電気火災用消火器を使用する

▶ 少量の水での消火は、かえって危険な場合がありますので、水はかけないでください。

●Honda 指定販売店で修理を受ける。

▶ 車体が損傷を受けたときは、Honda 指定販売店で修理を受けてください。

高電圧遮断システム

事故などにより車体が衝撃を受けたときに、高電圧遮断システムが作動する場合があります。システムが作動すると、高電圧システムが自動的に OFF になり、走行可能状態になりません。高電圧システムを再始動するには、Honda 指定販売店にご連絡ください。

高電圧バッテリーは、リチウムイオンバッテリーを使用しています。廃棄処分については特別な取り扱いが必要です。廃車するときは、必ず下記にご相談ください。

（株）ホンダトレーディング 0120-910574（フリーダイヤル）

安全なドライブ P. 26

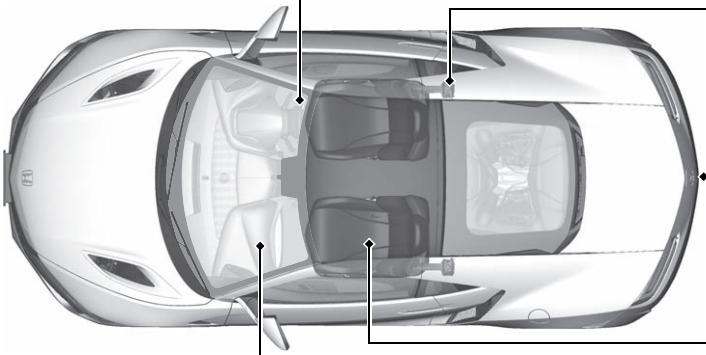


●正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
●同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
●妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

運転を始める前の確認

P. 27

●運転前にシートの位置、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。



シートベルト P. 28

排気ガスについて P. 55

●車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではパワーシステムを起動しないでください。

お子さまの安全 P. 47

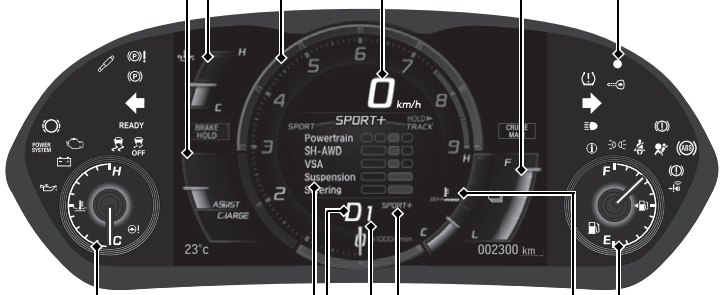
●お子さまは後席のある車に乗せてください。この車にお子さまを乗せることはおすすめしません。
●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。

エアバッグ P. 34

●万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

計器の見かた P.56

警告灯 P.57/ 表示灯 P.66/ メーター P.81/ マルチインフォメーションディスプレイ P.84



警告灯 / 表示灯

- EPS システム警告灯
- PGM-FI 警告灯
- 油圧警告灯
- VSA 警告灯
- VSA OFF 警告灯
- イモビライザーシステム表示灯
- Honda スマートキーシステム警告灯
- 12V バッテリー充電警告灯
- オートマチックブレーキホールドシステム表示灯
- オートマチックブレーキホールド表示灯
- 電子制御パーキングブレーキシステム警告灯
- 電子制御パーキングブレーキ作動警告灯
- アクティブダンパーシステム警告灯
- ブレーキパッド摩耗警告灯*

警告灯 / 表示灯

- タイヤ空気圧警報システム警告灯
- インフォメーション表示灯

警告灯 / 表示灯

- ライト点灯表示灯
- ハイビーム表示灯

警告灯 / 表示灯

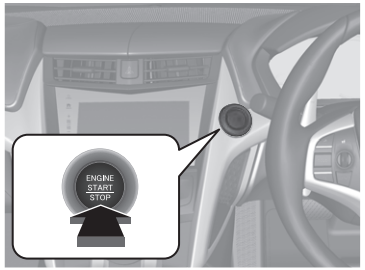
- 方向指示器表示灯
- エアバッグシステム警告灯
- ABS 警告灯
- ブレーキ警告灯(レッド)
- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)
- 燃料残量警告灯
- シートベルト非着用警告灯
- READY 表示灯
- パワーシステム警告灯
- クルーズメイン表示灯
- クルーズコントロール表示灯

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

各部の操作 P. 89

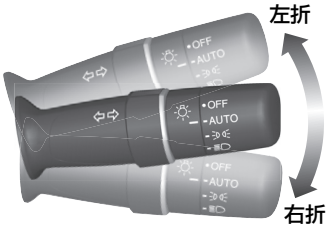
ENGINE START/STOP スイッチ P. 111

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



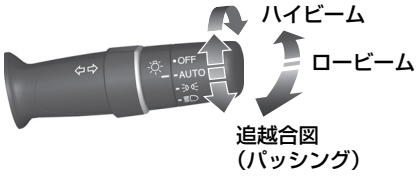
ウィンカー P. 114

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



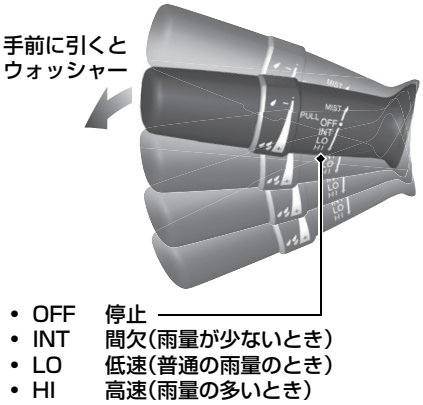
ライト P. 115

ライトスイッチ



ワイパー P. 117

ワイパー/ ウォッシャースイッチ

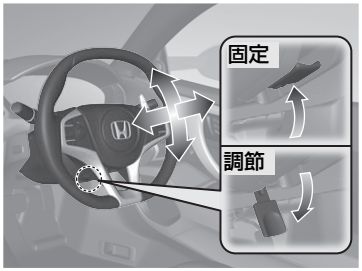


- OFF　停止
- INT　間欠(雨量が少ないとき)
- LO　低速(普通の雨量のとき)
- HI　高速(雨量の多いとき)

ハンドル位置の調節

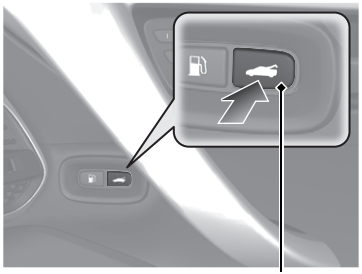
P. 123

●ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルの位置を調節します。



ハッチ P. 101

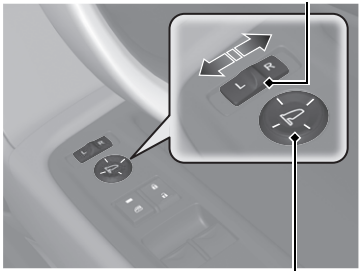
●ハッチは、運転席ドアにあるハッチオープナーを押すか、キーレスエントリーのハッチ解錠ボタン、ハッチオープンスイッチを押して開きます。



ハッチオープナー

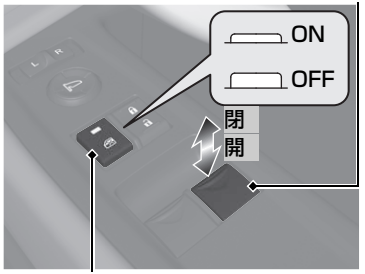
ドアミラー P. 125

●パワーモードが ON モードのとき、左右のドアミラーの角度の調節ができます。



パワーウィンドー P. 108

●パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。

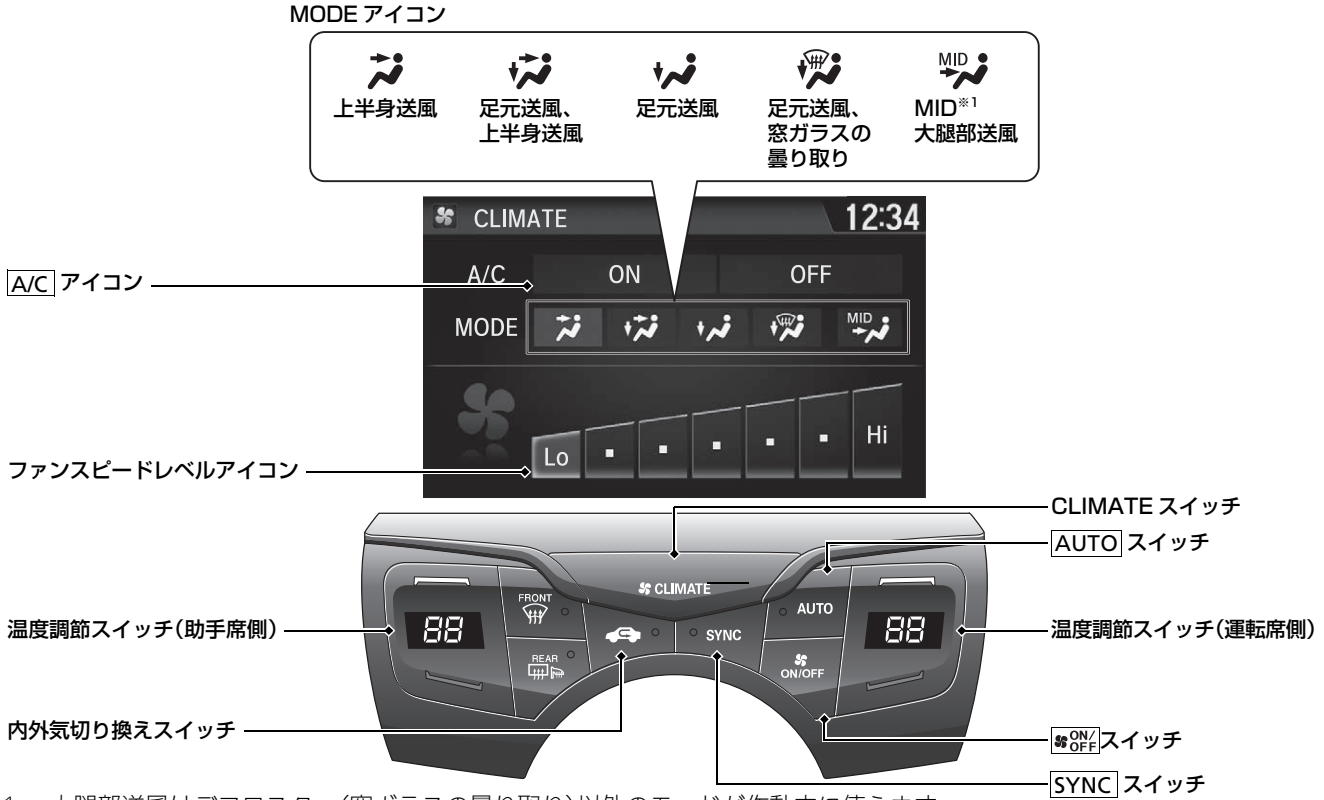


パワーウィンドーロックボタン

- ON　運転席以外のウィンドーが非作動
- OFF　全てのウィンドーが作動

エアコン P.139

●AUTO を押すと、オートエアコンが作動します。
●ON/OFF を押すと、止まります。
●前面ガラスの曇りを取るには、FRONT を押します。
●CLIMATE スイッチを押すと、オーディオ / インフォメーションスクリーンに A/C、MODE、ファンスピードが表示されます。

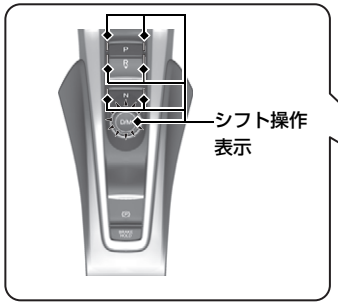


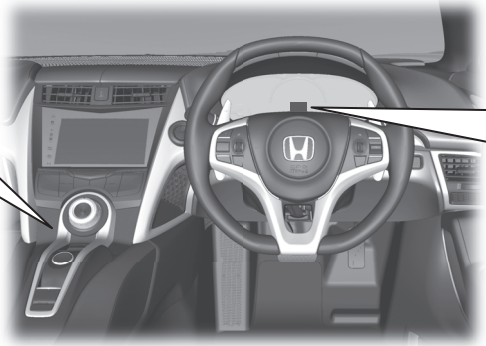
※1：大腿部送風はデフロスター(窓ガラスの曇り取り)以外のモードが作動中に使えます。

運転 P.146

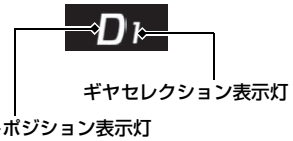
電子制御シフトポジションスイッチ P.162

●パーキングスイッチを押し、ブレーキを踏みながらパワーシステムを起動します。
●シフトポジションの選択





シフトポジション表示灯 / ギヤセレクション表示灯
選択されたシフトポジションと現在のギアポジションが表示されます。





P パーキング
駐車またはパワーシステムを起動するとき

R リバース
車を後退

N ニュートラル
エンジンとモーターからの駆動力が伝達されない状態

D/M ドライブ / マニュアル
D/M スイッチを押すたびに D(ドライブ)と M(マニュアル)が切り換わります。

D(ドライブ)
- 通常走行(1 速から 9 速まで自動変速)
- 一時的にシーケンシャルモードにするとき

M(マニュアル)
- シーケンシャルモードにするとき

シフトスイッチ P.169

ハンドルにあるシフトスイッチで、ハンドルから手を離さずに手動で 1 ～ 9 速まで変速することができます。
EV 走行中は、シフトスイッチによるシフトアップ、シフトダウンはできません。

D(ドライブ)



ギヤセレクション表示灯
シフトポジション表示灯

D- パドル



ギヤセレクション表示灯
シフトポジション表示灯

M(マニュアル)



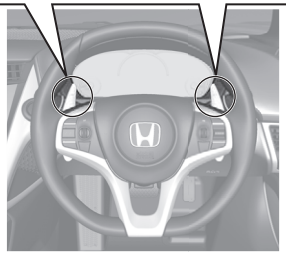
ギヤセレクション表示灯

－シフトスイッチ
シフトダウン



＋シフトスイッチ
シフトアップ





シフトポジションが D(ドライブ)のとき

シフトスイッチを引くと、一時的にシーケンシャルモードとなり、ギヤセレクション表示灯が大きな表示になります。
以下の状態になると、シーケンシャルモードは自動的に解除され、ギヤセレクション表示灯がもとの大きさに戻ります。

- ＋のシフトスイッチ(右側)を数秒間引き続けたとき
- 定速走行の状態になったとき
- 車両が完全に停止したとき
- インテグレーテッドダイナミクスシステムのモードを切り換えたとき

以下の状態になると、自動的に変速します。

- アクセルペダルを節度感のある位置以上に踏み込んだとき
- エンジンの回転がタコメーターのレッドゾーン(限界回転数)近くに達したとき
- 減速してエンジン回転がアイドリング状態になったとき

シフトポジションが M(マニュアル)のとき

シフトスイッチを引くと、シーケンシャルモードとなり、シフトポジション表示灯が消灯し、ギヤセレクション表示灯のみの表示になります。
モードを解除する場合は、D/M スイッチを押すか、＋のシフトスイッチ(右側)を数秒間引き続けてください。また、インテグレーテッドダイナミクスシステムのモードをQUIETモードにしてもシーケンシャルモードが解除され、ギヤセレクション表示灯のみの表示から、シフトポジション表示灯とギヤセレクション表示灯の同時表示になります。
1 速から 2 速へは自動的にシフトアップしますが、2 速から 9 速の間は自動的にシフトアップしません。

VSA P. 182

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- パワーシステムを起動すると自動的に VSA は ON になります。

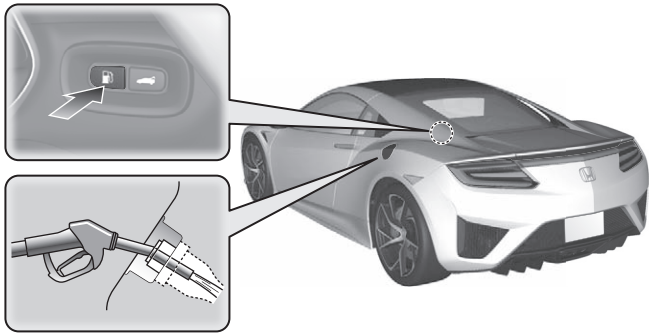
タイヤ空気圧警報システム(TPMS) P. 189

- TPMS はタイヤの空気圧を監視します。
- TPMS はパワーシステムを起動するごとに自動的に作動します。

ガソリンを入れる P. 206

指定燃料：
無鉛プレミアムガソリン
プレミアムバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)
タンク容量：59 リットル

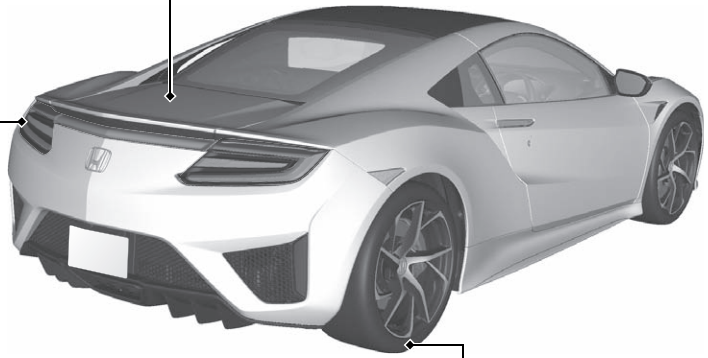
1. 運転席ドアにあるフューエルリッドオープナーを押してリッドを開ける。
2. 給油ノズルの自動停止後、約5秒待ってから給油ノズルを抜く。



メンテナンス P. 210

ハッチ P. 217

●冷却水の補給を行います。



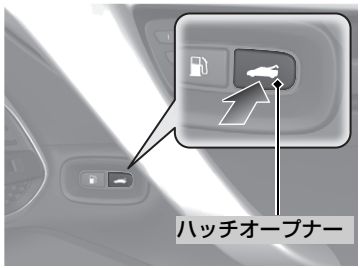
ライト P. 227

●テールライト電球などの点検、交換は Honda 指定販売店に依頼してください。
●ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。

タイヤ P. 232

●タイヤ、ホイールを点検します。

運転席ドアにある、ハッチオープナーを押す。

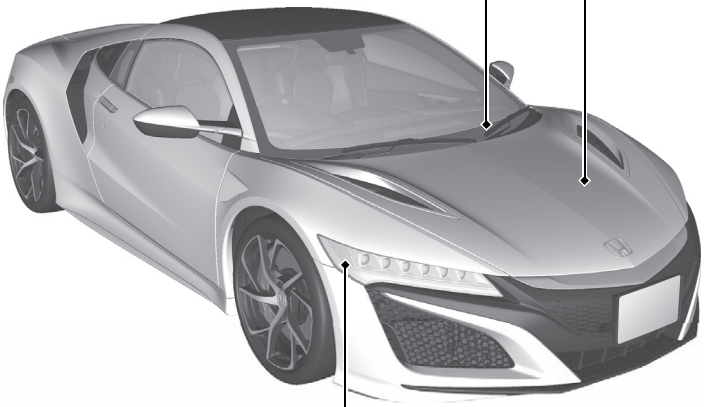


ボンネット P. 217

●ウォッシャー液の補給を行います。
●12V バッテリーを点検します。

ワイパーブレード P. 229

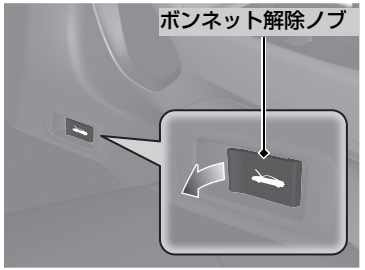
●拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。



ライト P. 227

●ヘッドライト電球などの点検、交換はHonda 指定販売店に依頼してください。
●ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。

❶ 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。



❷ レバーを押してボンネットを開ける。



万一の場合には P. 249

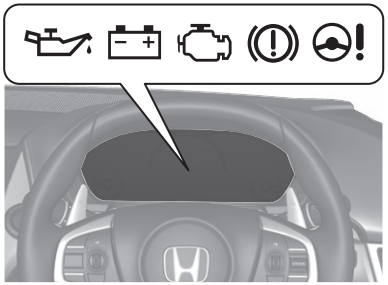
パンクした P. 252

●安全な場所に停車し、タイヤパンク応急修理キットで応急修理します。



警告灯が点灯した P. 274

●詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



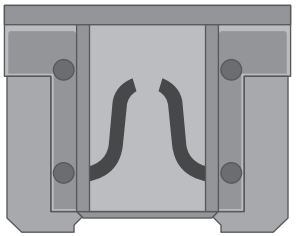
パワーシステムが起動しない P. 265

●バッテリーあがりが考えられます。救援車のバッテリーを利用してパワーシステムを起動します。



ヒューズが切れた P. 279

●室内とボンネット下にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



オーバーヒートした

P. 272

●安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければハッチを開けてください。



けん引してもらいたい

P. 286

●必ず専門業者に依頼してください。



こんなときは

Q **ドアを解錠したはずなのに施錠されている**

A
- Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q **運転席ドアを開けるとブザーが鳴る**

A
- パワーモードをアクセサリー モードにしていませんか？
- ライトを消し忘れていませんか？



Q **走行するとブザーが鳴る**

A
- 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？

Q カーボンセラミックブレーキ非装備車
走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

A
- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 指定販売店で点検を受けてください。

Q **パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない**

A
- ブレーキペダルを踏んでスイッチを操作していますか？

Q **アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない**	**A** • 運転席シートベルトを着用していますか？ • シフトポジションが、P、N以外になっていますか？
Q **車を後退させるとき、後方を確認するために運転席ドアを開けるとシフトポジションがPになって車が停止した**	**A** • 運転席シートベルトを着用していますか？ 運転席ドアを閉めて、改めてシフト操作を行ってください。 ▶ ドア Open 自動パーキング選択制御 P.164
Q **プレミアム(ハイオク)ガソリン仕様車にレギュラーガソリンを使用しても大丈夫ですか？**	**A** • プレミアムガソリンが入手できないときはレギュラーガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能を発揮できません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの
⚠警告	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
⚠注意	指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

HondaおよびHondaが委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。
なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

HondaおよびHondaが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

目次

安全なドライブ P.26

安全なドライブのために 27　シートベルト 28　エアバッグ 34
ポップアップフードシステム 44　お子さまの安全 47　排気ガスの危険性 55

計器の見かた P.56

警告灯と表示灯 57　メーターとインフォメーションディスプレイ 81

各部の操作 P.89

時刻の設定 90　ドアの施錠と解錠 91　ハッチの開閉 101　セキュリティシステム 105
ウィンドーの開閉 108　ハンドルまわりのスイッチ操作 111
ミラー類の調節 124　シートの調節 128　室内灯 / 室内装備品 132
エアコン 139

オーディオ P.144

オーディオ装置 145

運転 P.146

運転の前に 147　運転操作 154　ブレーキ操作 192　駐停車操作 199
給油 206　ターボ車について 209

メンテナンス P.210

メンテナンスの前に 211　オイルモニターシステム 213　ハッチ / ボンネット内のメンテナンス 217
電球の交換 227　ワイパーブレードラバーの点検と整備 229　タイヤの点検と整備 232
Honda スマートキー 237　エアコンのお手入れ 239　清掃 240　アクセサリーと改造 245
保管 247

万一の場合には P.249

工具、非常信号灯 250　パンクしたとき 252　ジャッキの取り扱い 262
パワーシステムが起動しない 265　ジャンプスタート 269　オーバーヒート 272
警告灯の点灯 / 点滅 274　ヒューズ 279　けん引 286
フューエルリッドが解錠できないとき 287　ハッチが開かないとき 288
給油 289

資料 P.290

仕様 291

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。



安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を
確保してください。

安全なドライブのために 27
シートベルト
シートベルトについて 28
シートベルトの着用..... 31
シートベルトの点検..... 33
シートベルトのアンカーポイント 33
エアバッグ
エアバッグの種類 34
SRS エアバッグ 34
運転席ニーエアバッグ 37
サイドエアバッグ 39
サイドカーテンエアバッグ..... 41
エアバッグシステム警告灯..... 43
エアバッグのお手入れ..... 43
ポップアップフードシステム
ポップアップフードシステムのしくみ 44
ポップアップフードシステムのお手入れ.....46
お子さまの安全
お子さまの安全を守るために 47
乳幼児の安全 48
大きなお子さまの安全..... 53
排気ガスの危険性
一酸化炭素について..... 55

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、トランクは完全に閉まっているか？
  ▶すべてのドア、トランクが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
  車内での施錠 / 解錠 P.98
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
  ▶正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置の調節をしてください。
  シート P.128
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
  ▶ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
  シート P.128
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ▶運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  シートベルトの着用 P.31
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
  ▶エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
  エアバッグ P.34
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ▶お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  お子さまの安全 P.47
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしているか？
  ▶さらにタイヤに輪止めをすると効果があります。
  シフト操作 P.162

安全のための確認事項

ドアやトランクが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
ドア、トランクをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。
ドア / トランク開閉警告 P.72

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

シートベルトについて

⚠警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。
正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 指定販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■シートベルトリマインダー



パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

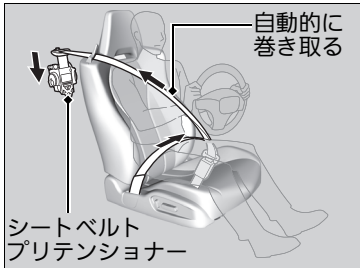
シートベルトリマインダー

- 運転席または助手席のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- シフトポジションをRにしたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。
- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席シートにお子さまや小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。

次ページに続く

■シートベルトプリテンショナー

シートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



▶シートベルトプリテンショナー

⚠注意

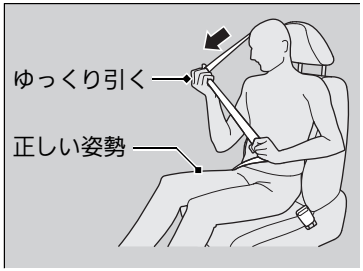
シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda 指定販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

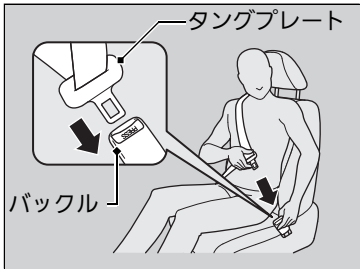
側面からの衝突により、シートベルトプリテンショナーが作動します。

SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

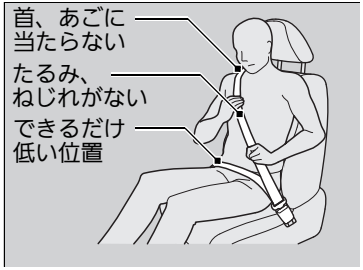
シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

次ページに続く

シートベルトの着用

⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

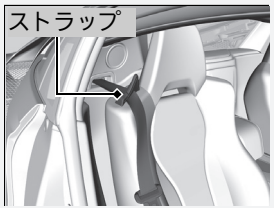
ベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

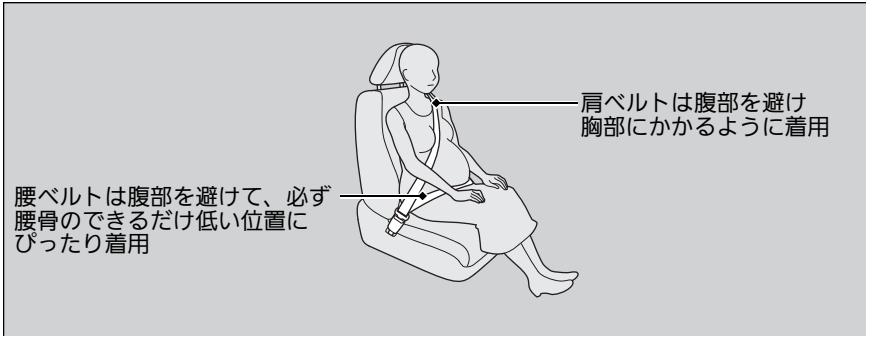
シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

シートベルトを使用するときは、必ずベルトをストラップの中に通してください。



■妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



▶妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

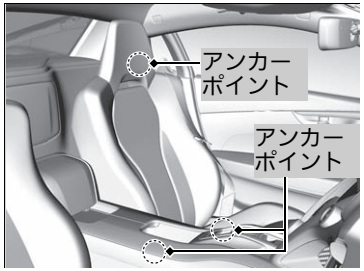
- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
シートには三点式シートベルトが使われています。

シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードがONモードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。
エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：シートの前方向エアバッグ
- **運転席ニーエアバッグ**：ハンドルの下にあるエアバッグ
- **サイドエアバッグ**：シートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ**：窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストレイントシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

≫エアバッグの種類

⚠警告

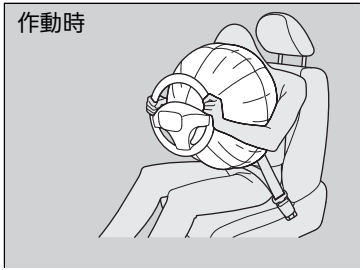
エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

■ SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h 以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

エアバッグの作動は、衝突状況とシートベルト着用の有無により異なります。
そのため、運転席または助手席のエアバッグが片側のみ作動することがあります。

次ページに続く

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

SRS エアバッグの作動

⚠注意

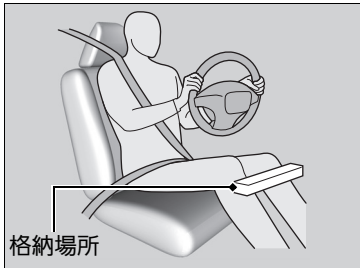
SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

運転席ニーエアバッグ

運転席の膝の前にあるエアバッグです。前方向からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者の衝撃緩和を補助します。

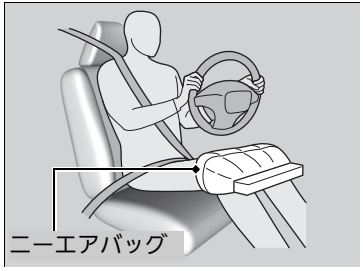
■格納場所



ニーエアバッグは、運転席のハンドル下側に格納されています。

「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ



運転席のSRSエアバッグが膨らむと、ニーエアバッグも膨らみます。

衝突がSRSエアバッグを展開するほどの衝撃でなくとも、ニーエアバッグだけ膨らむことがあります。

≫運転席ニーエアバッグ

⚠注意

運転席のインストルメントパネル下部にステッカーを貼ったり、アクセサリーをつけたりしない。

ニーエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだ時にものが飛んでけがをする原因になります。

次ページに続く

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、ニーエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、ニーエアバッグが作動しないことがあります。

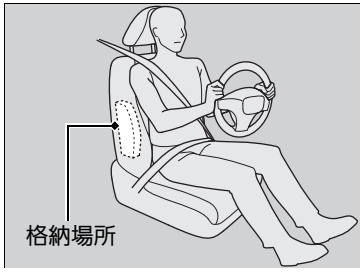
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とニーエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

サイドエアバッグ

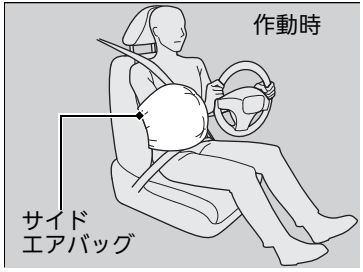
シートの背もたれの外側にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ



サイドエアバッグは、約 30km/h 以上の速度で自車と同等の車が真横から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたときに運転席または助手席のサイドエアバッグが膨らみます。

車両側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグが作動するときの車速は高くなります。

次ページに続く

サイドエアバッグ

⚠注意

ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
シートへのシートカバー装着にあたってはHonda 指定販売店にご相談ください。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

▶サイドエアバッグ

⚠注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。

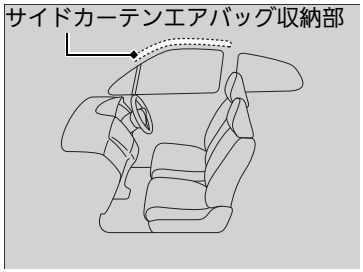
サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

サイドカーテンエアバッグ

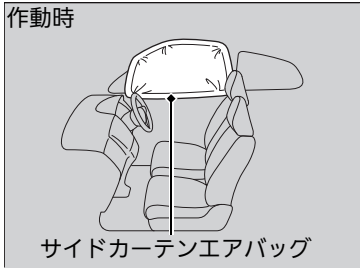
窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。
どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ



サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

➔ **作動条件** P.40

サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。

サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

次ページに続く

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

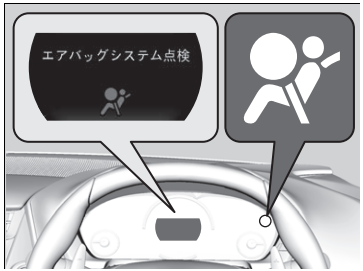
サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。
収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 指定販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■エアバッグシステム警告灯



■パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。 ただし、以下の場合は Honda 指定販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグシステム警告灯

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 指定販売店で点検を受けてください。
パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

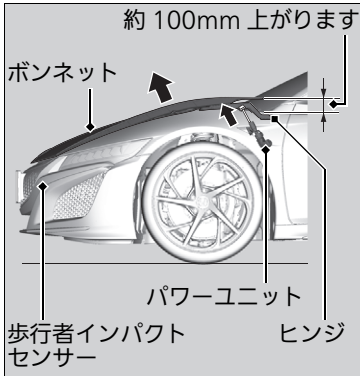
ポップアップフードシステムのしくみ

ポップアップフードシステムは前方向からの衝突時にボンネットを持ち上げてボンネット内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃緩和を補助します。

■作動のしくみ

設定速度以上の走行時に車両が歩行者やその他の物体に衝突したときに作動します。

■どのように作動するか



歩行者インパクトセンサーが一定以上の衝撃を検知すると、ポップアップフードシステムが作動し、ボンネットの後部が持ち上がります。

▶ポップアップフードシステムのしくみ

⚠警告

ポップアップフードシステムが作動した後は、パワーユニットが非常に熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。冷めるまではパワーユニットに触れないでください。

ポップアップフードシステムが作動した後はボンネットを開けないでください。システム作動後、持ち上がったボンネットが視界の妨げにならないことを確認した後、速度を落とし十分に注意して運転してください。

ボンネットが完全に閉まっていないと、十分な効果を得られない場合があります。
走行前にボンネットが完全に閉まっていることを確認してください。

システムは以下の状況でも作動することがあります。
- 車両下側に大きな衝撃を受けたとき
- 高速で突起物の上を乗り越えたとき、または深い溝の上を乗り越えたとき
- 歩行者インパクトセンサーに物がぶつかったとき

システムは以下の状況では作動しないことがあります。
- 後部または横方向からの衝突
- 横転または転覆
- 斜め方向や横からの歩行者との衝突

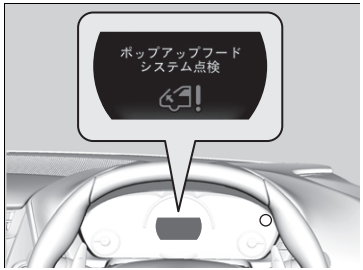
ポップアップフードシステムは、衝突時の位置、角度、車速などその他の条件によって作動しないことがあります。

ポップアップフードシステムのしくみ

ポップアップフードシステムが正常に機能するために、以下のことをお守りください。
- 四輪とも同一指定サイズのタイヤをお使いください。サイズの異なるタイヤを使用すると、システムが車両速度を誤認識することがあります。
- パワーユニットに荷重を加えないでください。ボンネットを激しく閉めるとパワーユニットが損傷するおそれがあります。
- フロントバンパー内の歩行者インパクトセンサーに衝撃を与えないでください。

次ページに続く

■ポップアップフードシステム警告表示



■パワーモードを ON モードにしたとき

ポップアップフードシステムに異常があると考えられる場合、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

ポップアップフードシステムのお手入れ

ポップアップフードシステムは、お客様自身でのメンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。

ただし、ポップアップフードシステムが作動したときは、Honda 指定販売店でコントロールユニットやその他の関連部品の交換を依頼してください。

▶ポップアップフードシステム警告表示

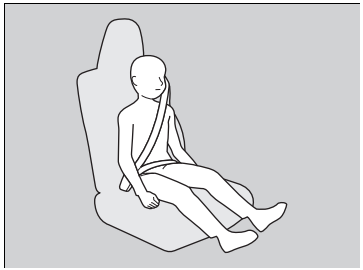
⚠警告

警告表示を無視すると、ポップアップフードシステムの異常につながることがあります。
異常が発生すると、歩行者との衝突時に、歩行者の深刻な傷害や死亡につながるおそれがあります。
ポップアップフードシステムの警告が表示されたときはすみやかに Honda 指定販売店で点検を受けてください。

フロントバンパー周辺を損傷したときは、システムが作動していなくても Honda 指定販売店で点検を受けてください。

お子さまの安全を守るために

お子さまはリヤシートのある車に乗せてください。



▶この車にお子さまを乗せることはおすすめしません。SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。また、お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。

やむをえずお子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。 正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ▶走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶やむをえず幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。

お子さまの安全を守るために

⚠警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■乳児のチャイルドシート

この車に設置することはできません。

■幼児のチャイルドシート

助手席にチャイルドシートを設置すると、衝突したときに SRS エアバッグで強い衝撃を受けるおそれがあります。

やむをえずチャイルドシートを設置するときは、この取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

≫乳児のチャイルドシート

⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

≫幼児のチャイルドシート

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること。
  UN-ECE R44 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

»チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

ご購入、ご使用に際しては Honda 指定販売店にご相談ください。

次ページに続く

■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。
次の表を参照して、それぞれの着席位置でどのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ベルト固定タイプ チャイルドシート 重量区分	前席 助手席
グループ 0 ～ 10kg	X
グループ 0 ＋ ～ 13kg	X
グループ I 9kg ～ 18kg	X
グループ II 15kg ～ 25kg	L※1
グループ III 22kg ～ 36kg	L※1

記号の説明

X　：チャイルドシートを装備できないことを示す。
L　：汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを備えることができることを示す。
※1 ：Honda ジュニアシートが前向きに取り付け可能です。

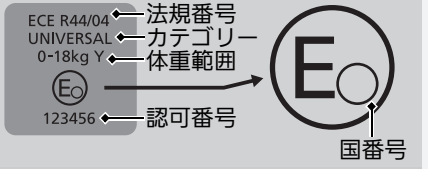
▶▶シートベルトで固定するチャイルドシートについて

チャイルドシートに関する国連の安全基準であるUN-ECE R44に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、質量グループに一致したものをお選びください。

U と UF のチャイルドシートには、UN-ECE R44 認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL (汎用)と案内されているものもあります。

EC 認可表示(例)



シートの種類や取り付けの向きにより固定金具(ロッキングクリップ)が必要になる場合があります。

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

■汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシート 重量区分	サイズ等級	固定具	座席位置 前席 助手席
キャリコット	F G	ISO/L1 ISO/L2	X
グループ 0 ～ 10kg	E	ISO/R1	X
グループ 0 ＋ ～ 13kg	E D C	ISO/R1 ISO/R2 ISO/R3	X
グループ I 9kg ～ 18kg	D C B B1 A	ISO/R2 ISO/R3 ISO/F2 ISO/F2X ISO/F3	X
グループ II 15kg ～ 25kg	—	—	X
グループ III 22kg ～ 36kg	—	—	X

記号の説明

X　：ISOFIX チャイルドシートを取り付けできません。

▩汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高

次ページに続く

■ i-Size チャイルドシートについて

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

	座席位置 前席 助手席
i-Size チャイルドシート	X

記号の説明

X　：i-Size チャイルドシートを装備できないことを示す。

大きなお子さまの安全

■シートの使用について

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

大きなお子さまの安全

⚠警告

三点式シートベルトが正しく着用できないお子さまは助手席に乗せない。
お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。

次ページに続く

■ジュニアシートについて



ジュニアシートを使用する場合、安全のため、お子さまが使用に適した範囲に入っているか確認してください。

■やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

▶ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。
以下の場合は、排気ガスのもれがないか Honda 指定販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

一酸化炭素について

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。
ガレージのドアを閉めたままパワーシステムを起動させないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にパワーシステムを起動するようにしてください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、
メーター類に関する情報を記載しています。

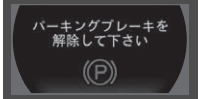


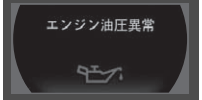
警告灯と表示灯
警告灯 57
表示灯 66
マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ..... 69
メーターとインフォメーションディスプレイ
メーター..... 81
マルチインフォメーションディスプレイ ...84

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキ警告灯（レッド）	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ブレーキフルード量が低下したときに点灯 • ブレーキシステムが異常のときに点灯	• 走行中に点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちにHonda指定販売店で点検を受けてください。 • ABS警告灯と同時に点灯した場合も、ただちにHonda指定販売店で点検を受けてください。 **➡ ブレーキ警告灯（レッド）が点灯した** P.275 • ブレーキシステム警告灯（オレンジ）と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda指定販売店で点検を受けてください。このとき、ブレーキペダルの操作が重くなることがありますので、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。	
	ブレーキシステム警告灯（オレンジ）	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯 • 回生ブレーキシステム、電動サーボブレーキシステム、ヒルスタートアシストシステムのいずれかが異常のときに点灯 • ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、高速走行や急停止を避けて、ただちにHonda指定販売店で点検を受けてください。 • 運転中に点灯したときは、ただちにHonda指定販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。	

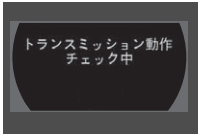
次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
(P)	電子制御パーキングブレーキ作動警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯(パーキングブレーキをかけているときは点灯)	• 電子制御パーキングブレーキが異常のとき、電子制御パーキングブレーキシステム警告灯の点灯と同時に点滅することがあります。この場合、パーキングブレーキが作動しないことがあります。	
		• 走行中、パーキングブレーキスイッチを引き続けたとき	• パーキングブレーキを解除してください。 ➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.192	
		• ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを押したとき点灯	• ブレーキペダルを踏んでパーキングブレーキスイッチを押してください。 ➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.192	
		• パワーモードが OFF モードのとき、パーキングブレーキスイッチを引くと約 15 秒間点灯し消灯 • パーキングブレーキがかかっていると、パワーモードを OFF モードにしたとき、約 15 秒間点灯し消灯	—	—
(P)!	電子制御パーキングブレーキシステム警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 電子制御パーキングブレーキが異常のときに点灯	• 点灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。 ➡ **電子制御パーキングブレーキシステム警告灯が点灯した** P.276	

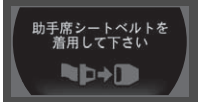
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
POWER SYSTEM	パワーシステム警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • パワーシステムが異常のときに点灯	• **走行中に点灯**＝ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。	
	油圧警告灯	• パワーモードをONモードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯 • エンジンオイル油圧システムが異常のときに点灯	• **走行中に点灯**＝ただちに安全な場所に車を停車し、パワーモードをOFFモードにして Honda 指定販売店にご連絡ください。	
	PGM-FI 警告灯	• パワーモードをONモードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 パワーシステムを起動していないときは数十秒後消灯 • エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	• **走行中に点灯**＝高速走行を避けてただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。 • **走行中に点滅**＝枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上パワーモードをOFFモードにして冷えるのをお待ちください。 ➡ **PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した** P.274	
		• トランスミッションのギヤシフト機構が異常のときに点灯	• トランスミッション警告灯と同時に点灯したときは、ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。	

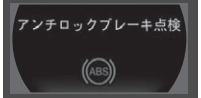
次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	12Vバッテリー充電警告灯	• パワーモードをONモードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • 12V バッテリーが充電されていないと点灯	• **走行中に点灯**＝電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 **➡ 12V バッテリー充電警告灯が点灯した** P.274	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	トランスミッション警告灯	• トランスミッションを調整しているときに全てのシフトポジションが点灯	• 点灯中は、一時的に加速ができません。 • 異常がなければ数秒後に消灯します。 • 消灯後は通常通り走行できます。	
		• トランスミッションが異常のときに選択しているシフトポジションが点滅	• 急発進、急加速を避けて、ただちにHonda 指定販売店で点検を受けてください。	
		• トランスミッションの異常で走行できないとき、選択しているシフトポジションもしくは全てのシフトポジションが点滅	• ただちに安全な場所に車を停車してください。 ➡ **非常時のけん引** P.286 • Honda指定販売店で点検を受けてください。	
		• トランスミッションの異常が発生し、シフトポジションを P にできないとき、選択しているシフトポジションもしくは全てのシフトポジションが点滅	• 応急的にパワーシステムを起動できる場合があります。 ➡ **トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した** P.278 • 停車するときはパーキングブレーキをかけてください。 • ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	シートベルト非着用警告灯	• 運転席または助手席のシートベルトを着用しないと点灯 • パワーモードを ON モードにしたときに、運転席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅 • 走行中に運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	• シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 • シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ➔ **シートベルトリマインダー** P.29	 
	Honda スマートキーシステム警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • Honda スマートキーシステムが異常のときに点灯	• 下記のような場合、ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。 • 運転中に点灯した • パワーシステム起動後も消灯しない • パワーモードがOFFモードのときに数秒間点灯した • パワーモードをOFFモードにしたときに数秒間点灯した	
	燃料残量警告灯	• 燃料の残量が少なくなると点灯 • 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 8 リットルになったときです • 燃料計に異常があるときは点滅	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点滅したときは、ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。	 

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ABS が異常のときに点灯	• 点灯したときは、ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 **➔ ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.197	
	エアバッグシステム警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 下記のとき点灯 • エアバッグシステムの異常 • プリテンショナーシステムの異常	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。	
	VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA が作動しているときは点滅 • ブレーキアシストシステム、ヒルスタートアシストシステム、VSA システムのいずれかが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 **➔ VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.182	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	VSA OFF 警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA OFF スイッチを押して VSA のモードを変更すると点灯 • インテグレーテッドダイナミクスシステムモードスイッチでTRACKモードにすると点灯	**VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.182 **インテグレーテッドダイナミクスシステム** P.170	
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	• パワーモードを ON モードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • EPS システムの機能に異常があると点灯	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。 **EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した** P.275	
	タイヤ空気圧警報システム警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • いずれかのタイヤの空気圧が著しく低いときに点灯 • タイヤ空気圧警報システムに異常があるときに約 1 分間点滅したあと、点灯	• 走行中に点灯したときは、ただちに安全な場所に車を停車し、タイヤの空気圧を点検してください。 • タイヤの空気圧が低いときは、指定空気圧まで空気を補充してください。 **タイヤ空気圧の補充** P.260 • 点滅したあと点灯したときは、Honda 指定販売店で点検を受けてください。	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	アクティブダンパーシステム警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • アクティブダンパーシステムに異常があるときに点灯 • 点灯すると車速が制限されます	• 点灯したときはただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。 点灯した場合、アクティブダンパーの機能は停止していますが、通常のダンパー機能は確保されています。 ➡ **インテグレーテッドダイナミクスシステム** P.170	
	ブレーキパッド摩耗警告灯✤	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ブレーキパッドの摩耗を検知すると点灯	• ブレーキパッドの交換が必要です。Honda 指定販売店で点検を受けてください。	

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	方向指示器表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅	• 点滅しない/点滅の周期が速いときは、ただちにHonda指定販売店で点検を受けてください。。 ➡ **電球の交換** P.227, 228	—
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトを上向きにしたときに点灯	—	—
	ライト点灯表示灯	• ライトスイッチが OFF 以外のときに点灯(AUTO のときは車幅灯点灯時に点灯)	• ライトを点灯したままパワーモードをOFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。	—
	シフトポジション表示灯 / ギヤセレクション表示灯	• 現在のポジションで点灯 • ギヤ位置を表示	➡ **シフト操作** P.162	—

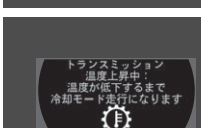
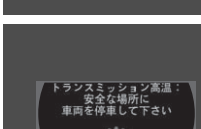
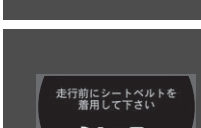
表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	イモビライザーシステム表示灯	• パワーモードをONモードにすると一瞬点灯し、すぐに消灯 • イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• 一瞬の点灯は異常ではありません。 • 点滅しているときは、パワーシステムを起動することはできません。パワーモードをいったんOFFモードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 指定販売店で点検を受けてください。 • ENGINE START/STOP スイッチのそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。	—
	インフォメーション表示灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 異常を検知すると警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に点灯	• メッセージが表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 • メッセージは、警告が解除されるか、インフォメーション(🛈)ホイールを回すまで通常表示に戻りません。 • 点灯しているときにインフォメーション(🛈)ホイールを回すと、メッセージを再表示させる事ができます。	—

次ページに続く

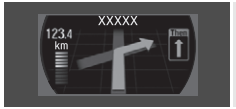
表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	セキュリティアラームシステム作動表示灯	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	**セキュリティアラームシステム** P.105	—
	クルーズメイン表示灯	• CRUISE スイッチを押して、クルーズコントロールをONにすると点灯	**クルーズコントロール** P.177	—
	クルーズコントロール表示灯	• クルーズコントロールで自動定速走行しているときに点灯	**クルーズコントロール** P.177	—
	READY 表示灯	• 走行の準備が完了すると点灯	**パワーシステムの起動** P.154	
	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	• オートマチックブレーキホールドシステムが ON のとき点灯	**オートマチックブレーキホールド** P.194	
	オートマチックブレーキホールド表示灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートマチックブレーキホールドが作動しているとき点灯	**オートマチックブレーキホールド** P.194	—

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ

下記のメッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。
再表示させるときはインフォメーション(🛈)ホイールを回してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーモードがONモードのときに、外気温が3℃以下になると1回のみ表示	—
	• トランスミッションの温度が作動温度の上限近くまで高温になると表示 • 車の性能を制限します	• この画面が表示しているときはシフトスイッチは使用できません。 • システムを冷却させるために、この画面が消えるまで、車速を落として走行してください。
	• トランスミッションの温度が高温になり、通常走行ができないときに表示	• 加速しにくくなる場合や、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 • ただちに安全な場所に車を停車し、シフトポジションをPにしてください。 • メッセージが消えるまでアイドリングでトランスミッションを冷やしてください。
	• シートベルトを着用しないで、パワーモードをONモードにすると表示	• 運転するときは、シートベルトを正しく着用してください。
	• ドアオープン自動パーキング選択制御により自動でPになった後、ドアを閉めずにシートベルトを装着しないままシフト操作し、ブレーキペダルを離すと表示	**自動パーキング選択制御** P.164
	• ラジエーターシステムが異常のときに表示	• オーバーヒートを避けるため車速を落として走行し、ただちにHonda指定販売店で点検を受けてください。

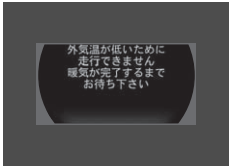
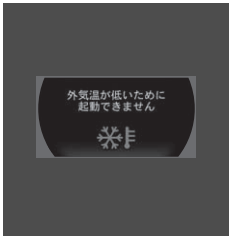
次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• エンジンオイルの交換時期が近くなると表示 • その後、「エンジンオイルを交換して下さい」、「エンジンオイル交換時期を過ぎています」と表示	➡ **オイルモニターシステム** P.213
	• ルート案内の際に、交差点案内表示が表示	➡ **Honda インターナビシステム**
	• パワーモードがアクセサリーモードのときに表示	—
	• パワーモードがONモードで、Hondaスマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示	• Honda スマートキーを車内に戻してドアを閉めると表示が消えます。 ➡ **Honda スマートキー持ち去り警告** P.113
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示	➡ **Honda スマートキーの取り扱いと電池交換** P.237

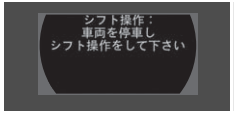
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 車が動いているときに ENGINE START/STOP スイッチを押すと表示	• 約6秒経過後か、パワーモードをOFFモードにすると表示が消えます。
	• ヘッドライトの機能に異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ただちにHonda 指定販売店で点検を受けてください。
	• オートライトコントロールシステムに異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda 指定販売店で点検を受けてください。 ➡ **ライトスイッチ** P.115
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときや Honda スマートキーが車内にないときに、警告音と同時に表示	➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.267
	• 「キーでスイッチに触れて下さい」と表示された後、Honda スマートキーを ENGINE START/STOP スイッチに接触させた数秒後に表示 ▶ その後、「エンジン始動：ブレーキを踏みスイッチを押す」と表示されます。	➡ **ENGINE START/STOP スイッチ** P.111
	• パワーモードがアクセサリーモードまたはONモードのときに表示	➡ **パワーシステムの起動** P.154

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーモードがアクセサリーモードのときに運転席のドアを開けると表示	• ブレーキペダルを踏まずに ENGINE START/STOP スイッチを 2 回押して、パワーモードを OFF モードにしてください。 ➡ **パワーシステムの起動** P.154
	• 12V バッテリーセンサーの機能に異常があると表示 • 12V バッテリーが充電されていないと表示	• ただちにHonda指定販売店で点検を受けてください。 • **12V バッテリー充電警告灯が同時に点灯しているとき**＝電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 ➡ **12V バッテリー充電警告灯が点灯した** P.274
	• 12V バッテリー充電警告灯点灯後に表示	• 加速しにくくなります。また、上り坂などで発進が困難になる場合があります。 • ただちにHonda指定販売店で点検を受けてください。
	• ドア / ハッチ(トランク)が完全に閉まっていないときに表示	• ドア/ハッチ(トランク)を完全に閉めてください。
	• ポップアップフードシステムに異常があると表示	• ただちにHonda指定販売店で点検を受けてください ➡ **ポップアップフードシステム** P.44

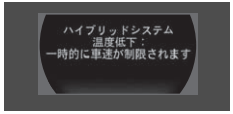
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 外気温の影響によりトランスミッションの温度が著しく低いときに表示(ー 25 ℃以下)	• エンジンを始動するとトランスミッションが暖まり、走行可能になるまでの時間を短縮できます。 • アクセルを踏んでもエンジン回転数はあがりません。
	• 高電圧バッテリーの温度が極端に低いとき(ー20℃以下)に表示	• ガレージ内で保管するなど、高電圧バッテリーが極低温状態にならないようにしてください。 • 必要に応じてHonda指定販売店にご相談ください。 • この車の最低動作保証環境温度は -20 ℃です。

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 車両接近通報システムに異常があると表示	• ただちにHonda指定販売店で点検を受けてください。
	• パワーシステムを起動するときにPを以外のシフトポジションが選選択されているときに表示	• パーキングスイッチを押してください。
	• ドアオープン自動パーキング選択制御により自動でPになった後、ドアを閉めずにシートベルトを装着しないままシフト操作すると表示	• 車から離れるときは、パーキングスイッチを押してください。
	• ブレーキペダルを踏まずに、シフトポジションのPNから他のシフトポジションを選択したときに表示	• ブレーキペダルを踏んで、シフトポジションの操作を行ってください。
	• アクセルペダルから足を離さずに、シフトポジションのPNから他のシフトポジションを選択したときに表示	• アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んで、シフトポジションの操作を行ってください。
	• 停車させずにパーキングスイッチを押したとき • 走行中、停車させずに進行方向と反対のシフトポジションを選択したときに表示	• シフトポジションを操作する時は、はじめに停車させてください。

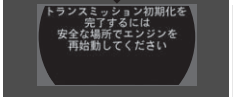
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 電気系統に失陥の可能性があると表示 • 走行中にパワーモードを OFF モードにすると表示	• ただちに安全な場所に車を停車してパーキングブレーキをかけてください。 • メッセージが消えれば異常はありません。 • 異常があるとトランスミッション警告灯が点灯 / 点滅します。 ➔ **トランスミッション警告灯** P.61
	• 停車後にシフトポジションを N にし、5 秒以内に ENGINE START/STOP スイッチを押したときに表示	• シフトポジションは N で保持されますが、約15分経過すると自動的に P になります。 ➔ **アクセサリーモード時のNポジション保持制御** P.164
	• 車両が停止中に運転者がシートベルトを外し、車両が動く可能性があるときに表示	• 停車中や車外に出るときは、ブレーキペダルから足をはなす前にパーキングスイッチを押してください。 ➔ **シフト操作** P.162
	• パーキングセンサーシステムが異常のときに表示	• センサー周辺に泥、氷、雪などの付着物がないか確認してください。付着物を取り除いても表示される場合は、Honda 指定販売店で点検を受けてください。 ➔ **パーキングセンサーシステム** P.201

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にオートマチックブレーキホールドが停止したときに表示 • 警報音が鳴ることがあります	• ただちにブレーキペダルを踏んでください。
	• オートマチックブレーキホールドスイッチを押して、オートマチックブレーキホールドシステムをOFFにすると表示	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.194
	• 運転席のシートベルトを着用せずに、オートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示	• 運転席のシートベルトを着用してください。 ➔ **オートマチックブレーキホールド** P.194
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、ブレーキペダルを踏まずにオートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示	• ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押してください。 ➔ **オートマチックブレーキホールド** P.194
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にパーキングブレーキがかかったときに表示	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.194 ➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.192
	• ツインモーターユニットオイルの温度が著しく低いときに表示	• ツインモーターユニットオイルの温度が上がるまで、車速がおよそ 175 km/h までに制限されます。

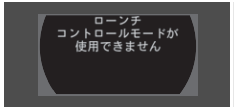
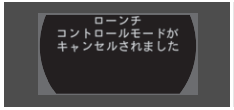
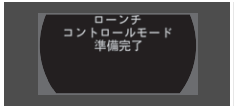
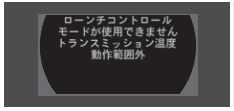
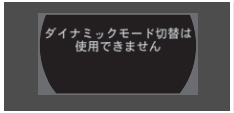
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• ハイブリッドシステムまたは駆動力配分システムの異常により、SH-AWD 四輪駆動力自在制御システムに異常があるときに表示	• このメッセージが表示されているときは後輪のみの駆動となります。Honda 指定販売店で点検を受けてください。
	• ウィンドウォッシャー液量が少なくなると表示	• ウォッシャー液を補給してください。 ➡ **ウィンドウォッシャー液の補給** P.226
	• エンジン回転中にエンジンオイル量が低下すると表示	• 運転中に表示したときは、ただちに安全な場所に車を停車してください。 ➡ **エンジンオイルレベル警告メッセージが表示した** P.278
	• エンジン回転中にオイルレベルセンサーに異常があると表示	• ただちにHonda指定販売店で点検を受けてください。
	• エンジン冷却水の温度が異常に上がると表示	➡ **オーバーヒート** P.272

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 燃料供給システムに異常があると表示 • エンジン出力が制限されます	• 運転中に表示したときは、ただちに安全な場所に車を停車し、パワーモードをいったんOFFモードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 再度、メッセージが表示されるときは、Honda 指定販売店で点検を受けてください。
	• トランスミッションに一時的な問題が発生し、初期化が必要なときに表示	• ブレーキペダルを踏んで、シフトポジションを P にしてください。
	• トランスミッションの初期化中に表示	• ブレーキペダルを踏み続けてください。
	• 一時的な問題が解消されると表示	• 初期化が完了したら、エンジンを再始動してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• トランスミッションに異常が発生し、シフトポジションを[R]にできないときに表示	• Honda 指定販売店で点検を受けてください。
	• 高電圧バッテリーの充電量が極端に低いため、パワーシステムを起動できないときに表示	• Honda 指定販売店で点検を受けてください。
	• エンジンによる走行ができないときに表示	• ただちに安全な場所に車を停車し、Honda 指定販売店にご連絡ください。
	• エンジンの温度が低いため、限界回転数が制限されているときに表示	• エンジンが温まるまで、エンジン回転数を抑えて走行してください。
	• ブレーキの制動力が低下しているときに表示	• 減速して走行してください。ブレーキが冷却され、通常の状態に戻るとメッセージが消えます。
	• 高速走行時にタイヤの空気圧が不足しているときに表示	• メッセージが消えるまで減速してください。

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 始動システムが高温のときに表示	• メッセージが消えるまでお待ちください。
	• 車両の状態によりローンチコントロールモードが使用できないときに表示	➔ **ローンチコントロール** P.175
	• ローンチコントロールモードが準備完了しているときに使用可能な条件から外れたときに表示	➔ **ローンチコントロール** P.175
	• ローンチコントロールモードの準備が完了すると表示	➔ **ローンチコントロール** P.175
	• トランスミッションの温度がローンチコントロールモードが使用できる範囲から外れているときに表示	➔ **ローンチコントロール** P.175
	• システムの異常や車両の走行状態などにより、インテグレーテッドダイナミクスシステムのモードが切り換えられないときに表示	➔ **インテグレーテッドダイナミクスシステム** P.170

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。

■タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

■REV インジケーター

エンジン回転数がタコメーターのレッドゾーンに入る前にお知らせします。
エンジン回転数が 7,000 rpm を超えるとタコメーターのリングが赤色に点滅します。

■水温計

エンジン冷却水の温度を表示します。通常は H のマークにまで上がらない状態で走行します。

次ページに続く

燃料計

燃料計が E に近づいたら、早めに給油してください。
燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

タコメーター

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。
特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

シフトポジションがRのときや、空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

水温計

水温計が H のマークを示した場合、オーバーヒートのおそれがあります。
ただちに安全な場所に停めて、エンジンを冷やしてください。
➔ **オーバーヒート** P.272

■高電圧バッテリー残量計



高電圧バッテリー内の充電量を表示します。

■アシスト / チャージメーター表示

■アシストメーター(ASSIST)

モーターアシストの状態をバーグラフで表示します。

■チャージメーター(CHARGE)

高電圧バッテリーへの充電の状態をバーグラフで表示します。

≫高電圧バッテリー残量計

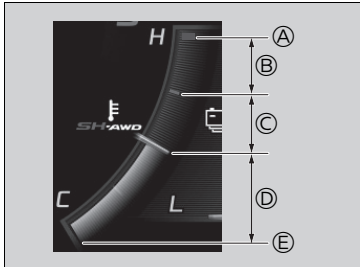
次のような場合は、高電圧バッテリー残量表示が下がることがあります。

- 12V バッテリーを交換したとき
- 12V バッテリーの端子を外したとき
- 高電圧バッテリー制御システムが残量の誤差を補正したとき

高電圧バッテリーの温度が変化すると、充電容量が上下することがあります。そのため充電量が変わらなくても、高電圧バッテリー残量計の表示が変化することがあります。

■ SH-AWD システム温度表示

インテグレーテッドダイナミクスシステムがSPORT+モードまたはTRACKモードのときに、SH-AWD システムの温度を表示します。



Ⓐ：システムの温度が高すぎるため、性能が制限されています。安全な場所に停車し、Honda 指定販売店へご連絡ください。
Ⓑ：システムの温度が高いため、性能が制限されています。
Ⓒ：システムの温度が最適な状態です。
Ⓓ：システムの温度が低いため、性能が制限されています。
Ⓔ：システムの温度が低すぎるため、発進できません。

SH-AWD システム温度表示

システムの温度が H のマークまで上がった場合は、ただちに安全な場所に車を停車しシステムを冷やしてください。その後、パワーモードをいったん OFF モードにしてから、もう一度ONモードにしてください。システムが冷えた後もパワーシステム警告灯が点灯したままとなりますので、Honda 指定販売店で点検を受けてください。

■エンジンオイル油温計



インテグレーテッドダイナミクスシステムが SPORT+ モードまたは TRACK モードのときに、油温を表示します。
この表示はオイルの温度を測定したものではないため、実際の温度と異なることがあります。

➡ インテグレーテッドダイナミクスシステム
P.170

エンジンオイル油温計

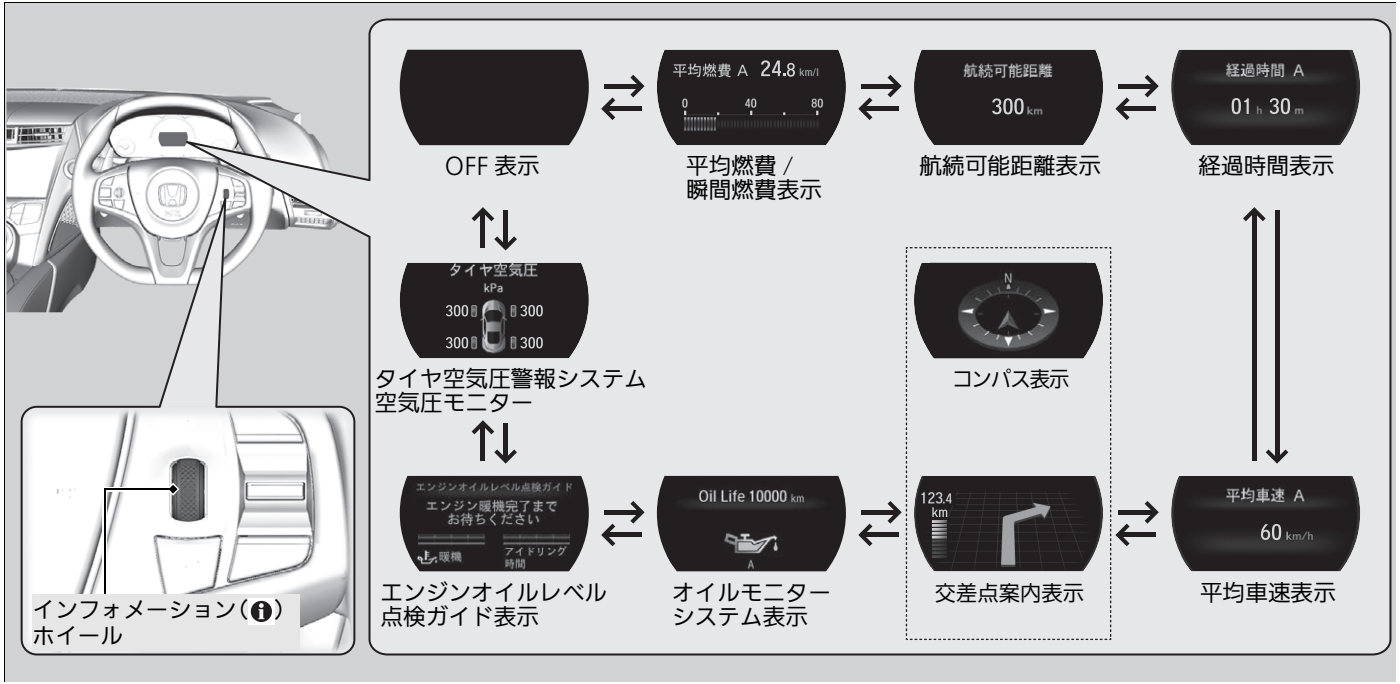
運転中に油温計が H のマークまで上がった場合は、ただちに安全な場所に車を停車し、油温計の表示が通常の状態に下がるまでお待ちください。
エンジンが著しく損傷しているおそれがありますので、Honda 指定販売店にご連絡ください。

マルチインフォメーションディスプレイ

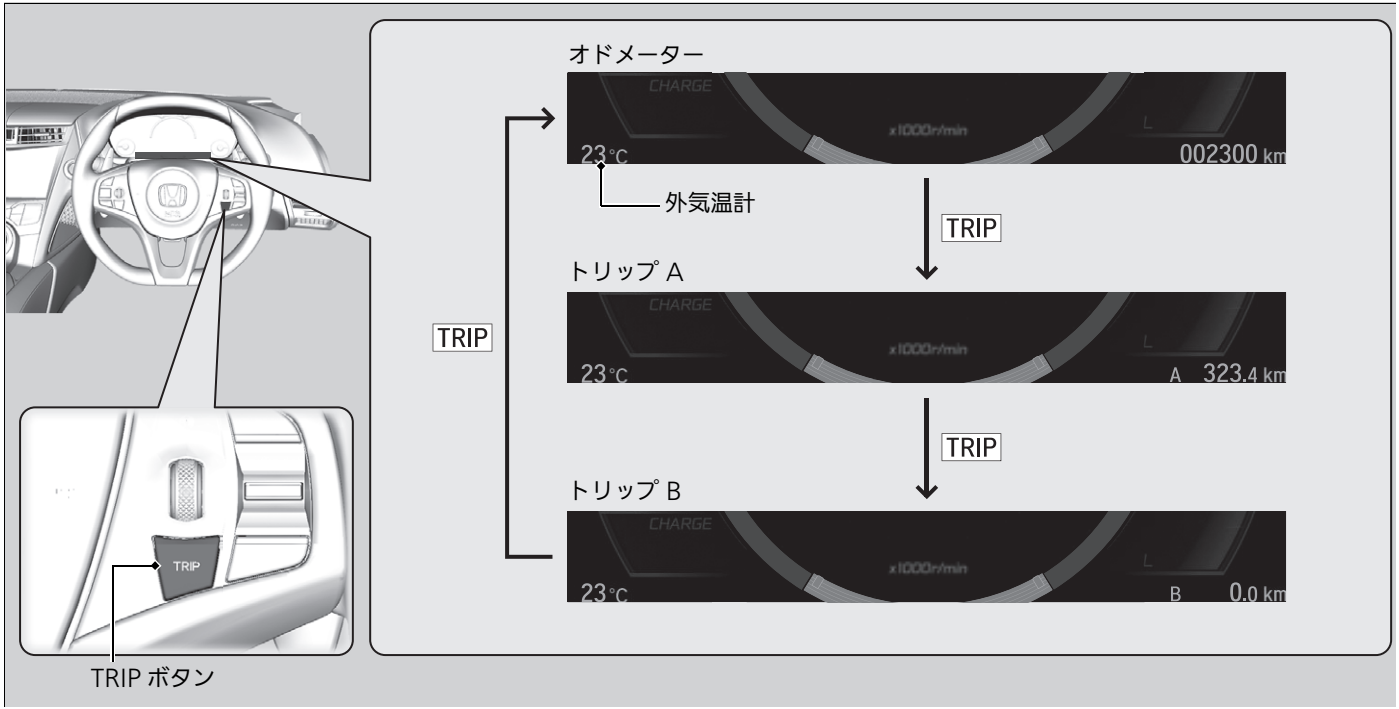
マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示、燃費情報などが表示されます。
また、異常を検知すると警告メッセージが表示されます。

■表示の切り換えかた

インフォメーション(ⓘ)ホイールを回すごとに画面が切り換わります。



TRIP ボタンを押すごとに画面が切り換わります。



次ページに続く

■オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態で、 TRIP ボタンを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。
トリップメーターA、B をリセットすると、平均燃費表示 A、B、平均車速表示 A、B、経過時間表示 A、B も同時にリセットされます。

■瞬間燃費表示

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

■平均燃費表示

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。
トリップメーターA、B をリセットすると、平均燃費表示 A、B、平均車速表示 A、B、経過時間表示 A、B も同時にリセットされます。

トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

トリップメーターA とトリップメーターB は、 TRIP ボタンを押して切り換えられます。

平均燃費表示

表示される平均燃費は、実際に走行した燃費とは異なる場合があります。

トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
➔ Honda インターナビシステム

■航続可能距離表示

高電圧バッテリーの残量と燃料、平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

■経過時間表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの経過時間を表示します。

■平均車速表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

経過時間表示

経過時間表示は 99 時間 59 分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
➔ Honda インターナビシステム

平均車速表示

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
➔ Honda インターナビシステム

次ページに続く

■交差点案内表示 / コンパス表示

ナビゲーションシステムによるルート案内の際に、交差点や分岐点などで進路案内を表示します。

➡ **Honda インターナビシステム**

■オイルモニターシステム表示

エンジンオイルの交換までの距離を表示します。

➡ **オイルモニターシステム** P.213

■エンジンオイルレベル点検ガイド表示

エンジンオイル量点検手順のガイドを表示します。

➡ **エンジンオイル量の点検** P.223

■タイヤ空気圧警報システム空気圧モニター

タイヤの空気圧を表示します。

➡ **タイヤ空気圧警報システム(TPMS)** P.189

■外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、±3℃の範囲で補正することができます。

補正するには、Honda インターナビシステムのカスタマイズ機能を使用します。

➡ **Honda インターナビシステム**

交差点案内表示 / コンパス表示

交差点案内表示を選択しているとき、案内する項目がない場合はコンパスが表示されます。

交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。

➡ **Honda インターナビシステム**

外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。

また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

各部の操作

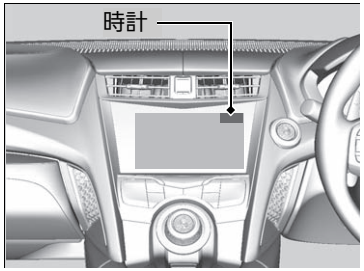
この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。



時刻の設定 90
ドアの施錠と解錠
キーの種類と機能 91
Honda スマートキーの微弱電波 93
車外でのドアの施錠 / 解錠 94
車内での施錠 / 解錠 98
ハッチの開閉 101
セキュリティシステム
イモビライザーシステム 105
セキュリティアラームシステム 105
超音波センサー 107
ウィンドーの開閉 108
ハンドルまわりのスイッチ操作
ENGINE START/STOP スイッチ 111
方向指示器(ウィンカースイッチ) 114
ライトスイッチ 115
ワイパー/ ウォッシャー 117
イルミネーションコントロール 119
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー スイッチ 120
ドライビングポジションシステム✤.....121
ハンドルの調節 123
ミラー類の調節 124
シートの調節 128
シート 128
室内灯 / 室内装備品 132
エアコン
エアコンの吹き出し口 139
オートエアコンの使いかた 140
オートエアコンのセンサー 143

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

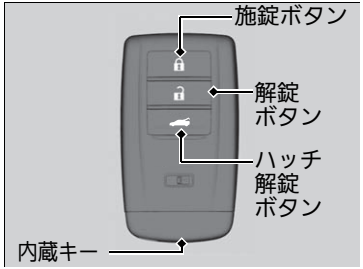
時刻の設定



時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

キーの種類と機能

この車には、以下のキーが付いています。



パワーシステムの起動、停止のほかに、すべてのドア、ハッチの施錠・解錠に使用できます。
また、キーについているボタンで、すべてのドア、ハッチの施錠 / 解錠の操作ができます。

キーの種類と機能

すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。

➔ **イモビライザーシステム** P.105

キーには、精密な電子部品が組み込まれています。

故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

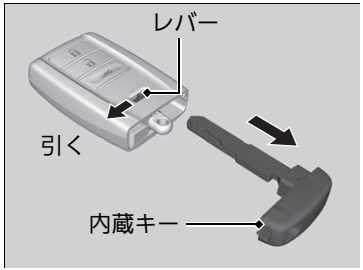
- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、パワーシステムの起動やリモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 指定販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■ Honda スマートキー

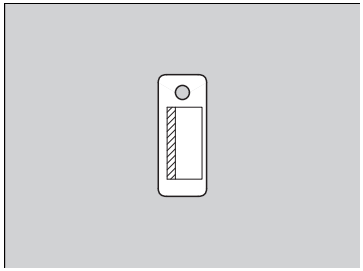


Honda スマートキーの電池が切れたときや車の 12V バッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーは Honda スマートキーに収納しておいてください。

■キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

キーの種類と機能

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.267

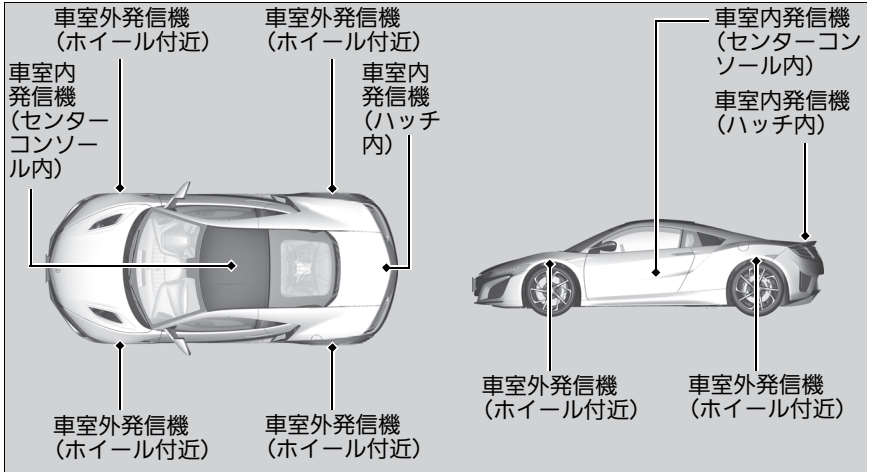
キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 指定販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、ハッチの施錠 / 解錠操作をするときやパワーモードを ON モードにするとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。
そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



Honda スマートキーの微弱電波

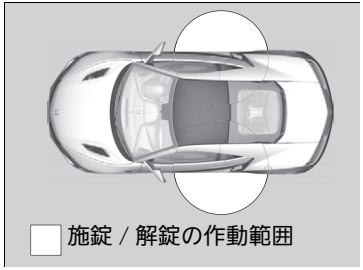
⚠注意

植え込み型心臓ペースメーカおよび植え込み型除細動器を使用しているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

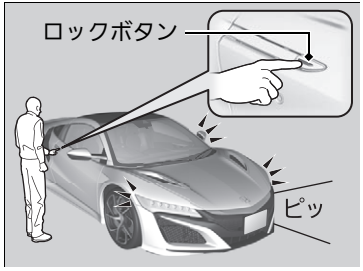
Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。
また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠



Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドルを操作することでドアの施錠や解錠を操作します。
ドアの施錠 / 解錠が作動するのは、運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドルから周囲約 80cm 以内です。



■施錠するには

ドアハンドルのロックボタンを押します。

▶「ピッ」というアンサーバックブザーが鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドアが施錠されます。

»Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

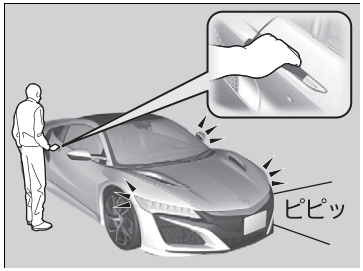
パワーモードが OFF モード以外のときは、Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロックボタンやドアハンドルで施錠 / 解錠操作ができます。
- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内に Honda スマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。
- 施錠後約 2 秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後に引くと、ドアが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおし、解錠されていることを確認してから引いてください。
- ドアハンドルより約80cm以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラスに近づきすぎていると作動しないことがあります。



■解錠するには

ドアハンドルの前側を押します。



ドアハンドルを握ります。

▶「ピピッ」というアンサーバックブザーが鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドアが解錠されます。

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

30 秒以内にドアを開けてください。

Honda スマートキーシステムでドアの解錠操作をした場合、30 秒以内にドアを開けないと、ドアは再び自動的に施錠されます。

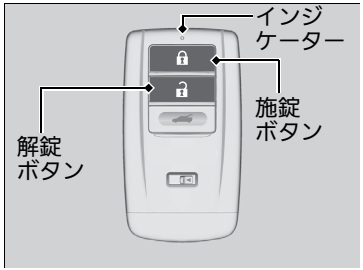
カスタマイズ機能について

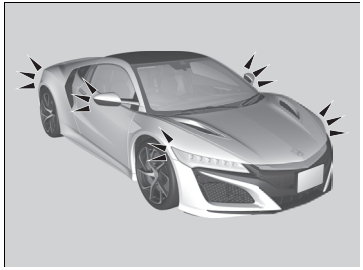
施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、Honda インターナビシステムを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

➔ **Honda インターナビシステム取扱説明書**

次ページに続く

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠





■施錠

施錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドアが施錠されます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドアが解錠されます。

キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

30 秒以内にドアを開けてください。

キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドアを開けないと、ドアは再び自動的に施錠されます。

パワーモードが OFF モード以外のときは、キーレスエントリーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

解錠ボタンを押すと、室内灯が点灯します。

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠ボタンを押すと室内灯が点灯します。

約30秒点灯し、徐々に暗くなります。30秒以内にキーレスエントリーで施錠すると、室内灯はただちに消灯します。

➔ **室内灯** P.132

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

ドアが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときに、インジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

➔ **電池交換のしかた** P.237

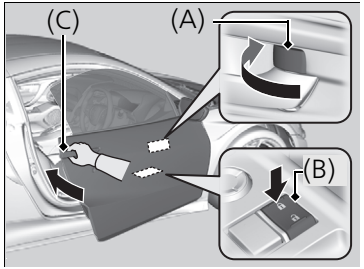
■内蔵キーを差し込んでの施錠 / 解錠

Honda スマートキーの電池がきれたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。



内蔵キーを確実に差し込んで、回します。

■内蔵キーを使わないでの施錠



■運転席のドアの施錠

ノブ(A)を押し込むか、マスタードアロックスイッチ(B)を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル(C)を引いたままドアを閉めます。

■助手席のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

»内蔵キーを差し込んでの施錠 / 解錠

運転席ドアに内蔵キーを差し込んで施錠すると、ほかのすべてのドアとハッチが同時に施錠されます。

内蔵キーでドアを解錠するとセキュリティアラームシステムの警報が鳴ります。ドアは必ず Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムで解錠してください。

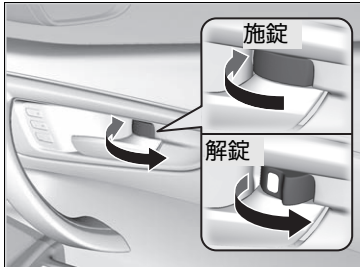
»内蔵キーを使わないでの施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドアとハッチも同時に施錠されます。

キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

車内での施錠 / 解錠

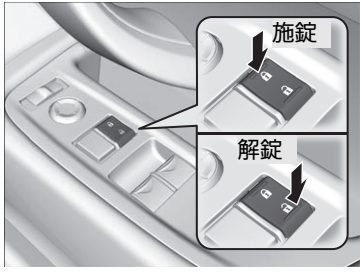
■ノブでの施錠 / 解錠



■施錠するには
ノブを押し込みます。

■解錠するには
ノブを引きます。

■マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠



マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

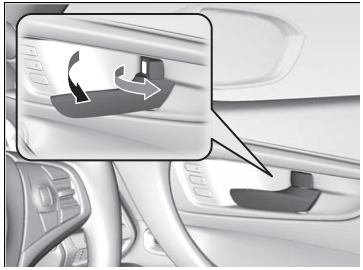
ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠すると、ほかのすべてのドア、ハッチも同時に施錠されます。運転席ドアのノブで解錠すると、運転席ドアのみが解錠されます。

マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

運転席または助手席ドアのマスタードアロックスイッチで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、ハッチも同時に施錠 / 解錠されます。

■運転席ドアハンドルでの解錠



運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、ハッチを解錠するシステムです。
作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ / サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

ハッチ開閉時の注意

ハッチ開閉をするときは、下記の点に注意してください。

■ハッチを開けているとき

- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- ハッチを開けたまま走行しない。

■ハッチを閉めるとき

- Honda スマートキーを、トランク内に置き忘れないように注意する。

ハッチ開閉時の注意

⚠注意

ハッチを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。

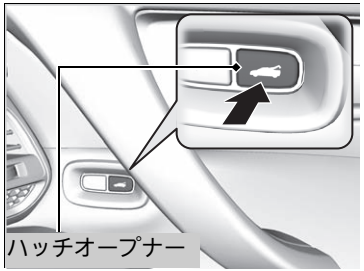
エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

トランクルーム内には、人を乗せない。
ブレーキや加速、衝突のときにけがをするおそれがあります。

トランク内にお子さまが入らないように注意する。

運転席ドアが施錠されているとき：
ハッチを閉めると、ハッチも施錠されます。
運転席ドアが解錠されているとき：
ハッチを閉めても、施錠されません。

ハッチオープナーで開ける



運転席ドアにあるハッチオープナーを押すと、ハッチが解錠され浮き上がります。

ハッチが開かないとき P.288

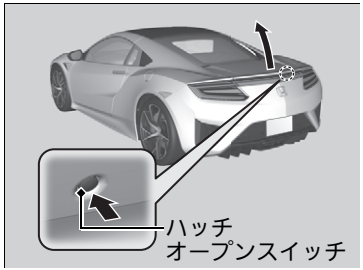
キーレスエントリーシステムで開ける



ハッチ解錠ボタンを約1秒押すと、ハッチが解錠され浮き上がります。

パワーモードが OFF モード以外のときは、キーレスエントリーの解錠ボタンでは開けられません。

ハッチオープンスイッチで開ける



運転席ドアを解錠し、ハッチオープンスイッチを押すとハッチが浮き上がります。Honda スマートキーを携帯して、ハッチオープンスイッチを押すとハッチが解錠され浮き上がります。このときアンサーバックブザーが「ピッ」と 1 回鳴ります。

ハッチオープンスイッチで開ける

- 作動範囲内に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもハッチオープンスイッチでハッチを開けることができます。
- Honda スマートキーは運転者が携帯し、トランク内に置かないようにしてください。
- ハッチオープンスイッチより約80cm以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ハッチに近づきすぎていると作動しないことがあります。
- 運転席ドアが解錠されているときは、ハッチを開けてもアンサーバックブザーは鳴りません。

カスタマイズ機能について

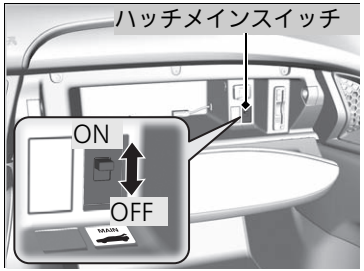
施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、Honda インターナビシステムを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

➔ **Honda インターナビシステム取扱説明書**

トランク内に Honda スマートキーを置いたままハッチを閉めると、ブザーが鳴りハッチが開きます。

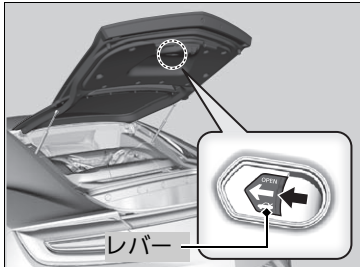
Honda スマートキーを取り出してから、再度ハッチを閉めてください。

ハッチメインスイッチ



グローブボックス内のメインスイッチをOFFにするとハッチを開けることができなくなります。

緊急用ハッチオープナー



安全のためにハッチの内側からハッチを開けることができます。
レバー矢印の方向に動かしてください。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。 ENGINE START/STOP を押すときは、下記の点に注意してください。

- ENGINE START/STOP の近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムを使わずにドア、ハッチ、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■停止させるには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムで解錠するか、パワーモードをONモードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約５分間作動します。
ホーンおよび非常点滅表示灯は、1回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。
状況によっては、5分以上作動する場合があります。

次ページに続く

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードになっている
- ボンネットが閉まっている
- Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーですべてのドアとハッチが施錠されている

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムで解錠するか、パワーモードをONモードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーがあがり、12V バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

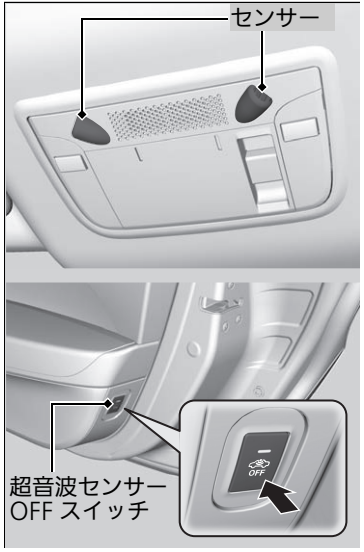
セキュリティシステムがセットされているとき、内蔵キーで解錠するとセキュリティシステムが作動します。

緊急時などで必要な場合以外は、ハッチを内蔵キーで開けないでください。

ハッチが開かないとき P.288

超音波センサー

超音波センサーは、セキュリティアラームシステムをセットしたときに機能します。
不正に車内に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知し、警報装置を作動させるシステムです。ドアを開けず、ガラスを割って乗り込んだ侵入者なども検知できます。



■超音波センサーOFF 機能

セキュリティアラームシステムをセットした際に超音波センサー機能をOFFすることができます。

1. パワーモードを OFF モードにする。
2. 超音波センサーOFF スイッチを押す。
   - ▶ OFF が赤色に点灯します。
   - ▶ もう一度スイッチを押すと、OFF 機能は解除されます。
3. セキュリティアラームシステムをセットする。

➡ **セキュリティアラームシステム** P.105

セキュリティアラームシステムを解除する度に、超音波センサーOFF機能は解除されます。再び超音波センサーOFF機能を使用する場合は、毎回同様の操作を行ってください。

超音波センサー

以下のような場合、超音波センサーが車両の振動や騒音、車内の動きを検知し、セキュリティアラームシステムが作動することがあります。

- 窓が開いているとき
- 機械式立体駐車場に駐車したとき
- フェリー、トレーラーなどで車両を運搬するとき
- 高圧洗浄機や自動洗車機などを使うとき
- マスコットやアクセサリーをぶら下げるなど、動きやすいものが車内にあるとき

超音波センサーを正しく作動させるために以下のことを守ってください。

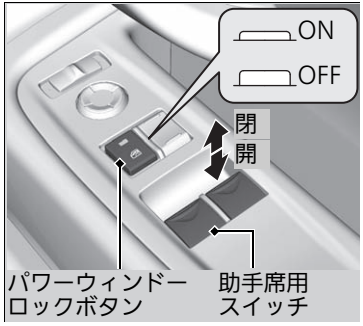
- センサーの穴をふさがない
- センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しない

パワーウィンドーの開閉

パワーモードがONモードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。

運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンをOFF にしてから行います。パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、ボタンにある表示灯が消灯します。
パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

■ウィンドーの開閉



■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す
閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す
閉めるとき：スイッチを強く引き上げる
自動的に全開 / 全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

パワーウィンドーの開閉

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

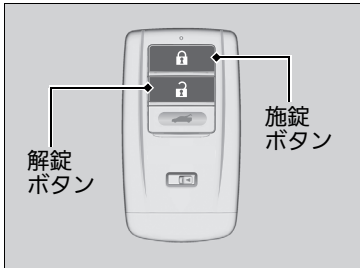
⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。
必ず Honda スマートキーを携帯し、ドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。
パワーモードを OFF モードにしても、約 10 分間はパワーウィンドーを開閉できます。
この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

パワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

■キーレスエントリーでのウィンドーの開閉



パワーモードがOFFモードのときに、キーレスエントリーを使用してパワーウィンドーの開閉が行えます。

開けるとき： キーレスエントリーで解錠後、10 秒以内に再度、解錠ボタンを押し続ける

閉めるとき： キーレスエントリーで施錠後、10 秒以内に再度、施錠ボタンを押し続ける

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。ウィンドーの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

パワーウィンドーの開閉

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。

路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

次ページに続く

■キーシリンダーでウィンドーを閉めるとき

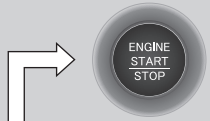


パワーモードがOFFモードのときに、運転席ドアのキーシリンダーを使用してパワーウィンドーを閉めることができます。
運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで施錠後、内蔵キーを戻してから10 秒以内に再度、施錠側いっぱいに内蔵キーを回したままにします。

希望の位置で手を離すことで、ウィンドーの位置を調節します。
ウィンドーを閉めている途中で停止させてしまったときは、再度同じ操作を繰り返してください。

ENGINE START/STOP スイッチ

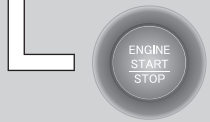
■パワーモードの切り換えかた



OFF モード
- ボタン消灯
- 全ての電源が OFF になります
- ドアを開けるとボタンが白色に点滅



アクセサリーモード
- ボタン点滅(赤色)
- パワーシステムを起動させずに、オーディオシステムなどのアクセサリーを使用するときの位置



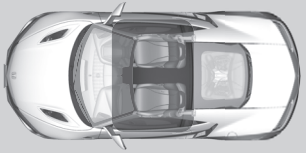
ON モード
- ボタン点滅(赤色)
- すべてのアクセサリーが使用可能

(ブレーキペダルを踏んでいない状態)

⇨スイッチを押す

ENGINE START/STOP スイッチ

Honda スマートキーが車内にある場合パワーモードをONモードにできます。パワーモードのON機能が作動する範囲は、インストルメントパネル上、グローブボックスなどの各種小物入れを除く車内です。



パワーモード ON の作動範囲

Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、パワーモードをONモードにできることがあります。

次ページに続く

■パワーモードオートオフ機能

シフトポジションが P でパワーモードがアクセサリーモードのときに 30 分～60 分経過すると、バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードと同様になります。

■パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

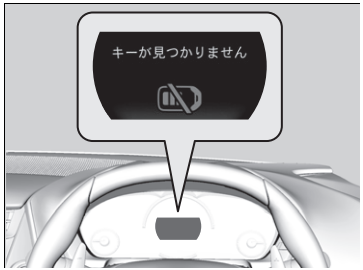
- パワーモードがアクセサリーモードのとき

ENGINE START/STOP スイッチ

Honda スマートキーの電池が消耗したときは、ブザーとともにマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.267

■ Honda スマートキー持ち去り警告



警告ブザーには、車内警告ブザー(ピーッピーッピーッピーッピーッピーッ)と車外警告ブザー(ピピピピピピ)の 2 種類があります。
警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードが ON モードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、マルチインフォメーションディスプレイに警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードがアクセサリーモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

»Honda スマートキー持ち去り警告

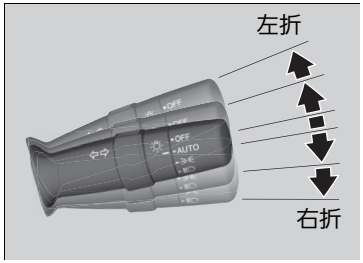
パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。
パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

方向指示器(ウィンカースイッチ)

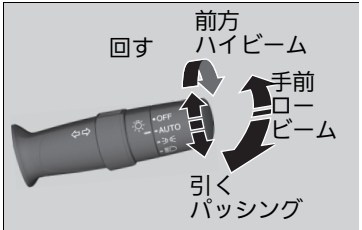


パワーモードがONモードのときに使用できます。

■ワンタッチターンシグナル

レバーを軽く押し下げ / 押し上げて離すと、方向指示器と方向指示器表示灯が3回点滅します。

ライトスイッチ



	車幅灯、尾灯、番号灯が点灯
	ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯
AUTO	パワーモードがONモードのとき車外の明るさに応じて車幅灯、尾灯、番号灯、ヘッドライトが自動で点灯 / 消灯

スイッチを回すとパワーモードの状態に関係なく、点灯 / 消灯します。

■ハイビーム
「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押します。

■ロービーム
ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図(パッシング)
レバーを手前に引き、離します。

■ライトオフ
下記の場合はレバーをOFFの位置に回してください。
- シフトポジションを P にしたとき
- パーキングブレーキをかけているとき

再びライトを点灯させる場合は、ライトオフモードを解除するために、レバーをOFFの位置に回してください。ライトオフモードが解除されない場合も下記の場合は自動でライトが点灯します。
- シフトポジションを P 以外にしたとき
- パーキングブレーキを解除したとき
- 車両が動きだしたとき

次ページに続く

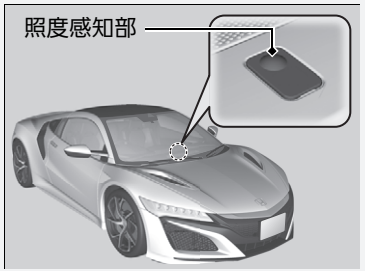
ライトスイッチ

ライトを点灯したまま OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。
➔ **表示灯** P.66

パワーシステムが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、12V バッテリーあがりの原因となります。

照度感知部は、図の位置にあります。感知部の上にものを置かないでください。



■ヘッドライトオートオフ機能

パワーモードをOFF モードにして、Honda スマートキーですべてのドアを施錠すると、ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

▶ 運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

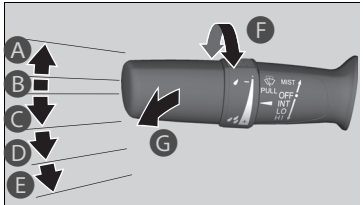
ライトスイッチを AUTO にしているときはパワーモードをOFF モードにすると消灯します。

ライトスイッチ

重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調整するオートレベリング機能が付いています。

ヘッドライト光軸の異常を感じたときはHonda 指定販売店で点検を受けてください。

ワイパー/ ウォッシャー



Ⓐ MIST：（レバーを操作している間作動）
Ⓑ OFF：停止
Ⓒ INT：間欠（雨量が少ないとき）
Ⓓ LO：低速（普通の雨量のとき）
Ⓔ HI：高速（雨量が多いとき）
Ⓕ 間欠時間の調節
Ⓖ ウォッシャー

パワーモードがONモードのときに使用できます。

■MIST

レバーを押し上げている間、作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ワイパースイッチ（OFF、INT、LO、HI）

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■間欠時間の調節

リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。



間欠間隔が長い

間欠間隔が短い

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを1秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

ワイパー/ ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。
間欠時間を短いほうにいっぱいに回している状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

次ページに続く

ワイパー/ ウォッシャー

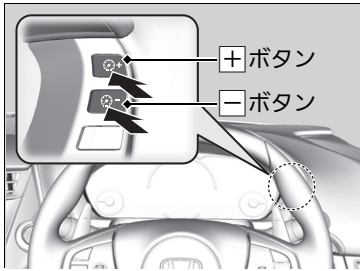
ワイパー作動中に雪などがたまり、ワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。

ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。
数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

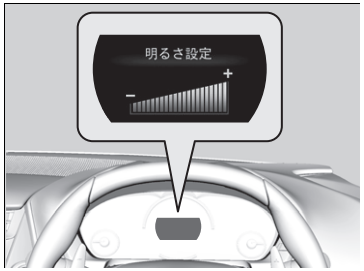
イルミネーションコントロール



パワーモードが ON モードのときに、＋/－ボタンでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする：＋ボタンを押す
暗くする：－ボタンを押す

明るさが最大 / 最小になると電子音が鳴ります。
また、明るさの調節後、数秒経過するとマルチインフォメーションディスプレイが元の表示に戻ります。



■明るさ調節表示
＋/－ボタンを押すとマルチインフォメーションディスプレイが明るさ調節表示に切り換わります。
目盛が右に増えていくほど、インストルメントパネル照明が明るくなります。

»イルミネーションコントロール

ライトスイッチが OFF 以外で周囲が暗いとき、まぶしさを軽減するため、インストルメントパネル照明が減光します。

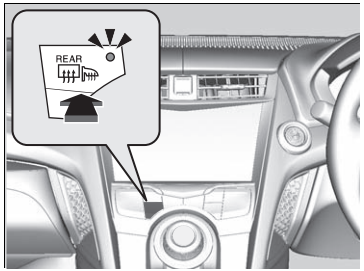
インストルメントパネル照明が減光しているときとしていないときで、それぞれ明るさが調節できます。

インフォメーション(ⓘ)ホイールを操作すると画面が切り替わります。

減光時に目盛が全て表示されるまで＋ボタンを押すと、「ピッ」という音がして減光が解除されます。

車幅灯が消灯しているときに目盛が全て表示されなくなるまで－ボタンを押すと、明るさ表示が最小になります。このとき、走行したり、車幅灯を点灯させると明るさ最小の状態が解除され、元の明るさに戻ります。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ



パワーモードが ON モードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとることができます。

外気温に応じて約 10 ～ 30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が 0℃以下のときは自動的に停止しません。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ

アドバイス

リヤガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷付けないよう注意してください。
必ず、デフロスターの電熱線とアンテナ線に沿って左右方向に拭いてください。

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12V バッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

パワーモードをONモードにしたとき、外気温が5℃以下の場合、ヒーテッドドアミラーのみ約 10 分間作動することがあります。

ドライビングポジションシステム*

シート（ランバーサポート以外）、ドアミラーの位置を2種類記憶させ、それぞれの位置に自動で調節させることができます。

Honda スマートキーで解錠して運転席ドアを開けると、DRIVER1 のキーと DRIVER2 のキーを判別して、記憶したシートおよびドアミラー位置に自動で調節されます。

DRIVER1 で解錠して運転席ドアを開けたとき：メモリーボタン 1 で記憶したドライビングポジションに自動調節

DRIVER2 で解錠して運転席ドアを開けたとき：メモリーボタン 2 で記憶したドライビングポジションに自動調節



降車をしやすくするため、以下の条件のときに運転席が後ろに下がります。

- 停車したとき
- シフトポジションを P にしたとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- 運転席ドアを開けたとき

パワーモードをアクセサリーモードにすると、シートは記憶された DRIVER1 または 2 の位置に調節されます。

ドライビングポジションシステム*

カスタマイズ機能について

Honda インターナビシステムを使って解錠時のメモリーシート連動機能とシート自動乗降機能を解除することができます。

➡ Honda インターナビシステム取扱説明書

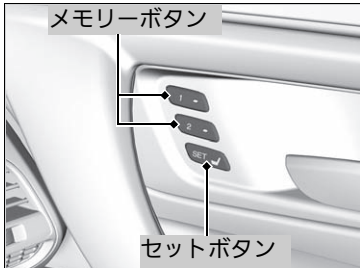
以下のときシステムは作動しません。

- 車速は 5km/h 以上になったとき
- シートが移動しているときに、メモリーボタン（1 または 2）を押したとき
- シートが移動しているときに、シート位置を調節したとき
- メモリーボタン（1 または 2）の記憶位置が最後部であるとき

次ページに続く

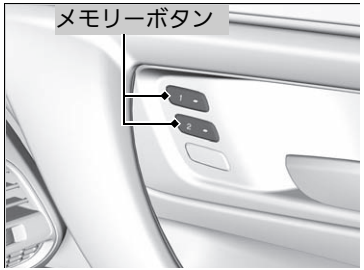
＊：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■記憶のさせかた



1. パワーモードを ON モードにし、運転席シート、ドアミラーを希望の位置に調節します。
2. セットボタンを押す。
   ▶「ピッ」と音が鳴り、メモリーボタンの表示灯が点滅します。
3. セットボタンを押してから5秒以内にメモリーボタンの[1]か[2]を「ピッピッ」と音が鳴るまで押す。
   ▶記憶されると押したボタンの表示灯が点灯します。

■記憶の呼び出しかた



1. シフトポジションを[P]にする。
2. メモリーボタン([1]または[2])を押す。
   ▶「ピッ」と音が鳴り、表示灯が点滅します。

記憶させた位置までシート、ドアミラーが自動的に移動し、移動が完了すると「ピッピッ」と音が鳴り、表示灯が点灯します。

記憶のさせかた

セットボタンを押した後、以下のような状況になったときは記憶操作がキャンセルされます。

- 5 秒経過してもメモリーボタンを押さなかったとき
- シート位置、ドアミラーを調節したとき
- パワーモードを ON モード以外にしたとき

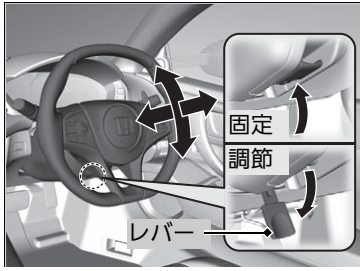
記憶の呼び出しかた

自動でシートが移動しているときに、以下のような操作を行うとシートの移動が止まります。

- セットボタン、またはメモリーボタン([1]または[2])を押したとき
- シート位置、ドアミラーを調節したとき
- シフトポジションを[P]以外にしたとき

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを押し下げる。
▶ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
▶調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルを固定する。
▶位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

ハンドルの調節

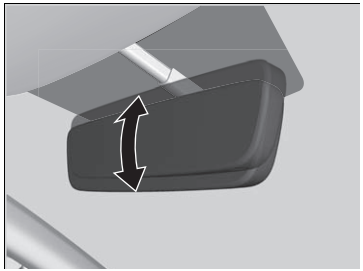
⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

■自動式防眩ミラー



夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を自動的に弱くできます。

パワーモードがONモードのときに作動します。

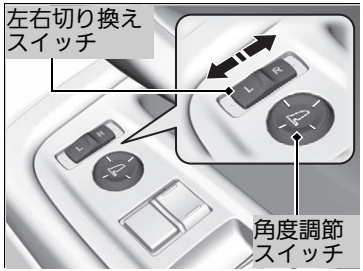
ミラー類の調節

ミラー類の調節は走行前に行ってください。

自動式防眩ミラー

シフトポジションを R に入れているときは、自動式防眩ミラーは解除されます。

ドアミラー



パワーモードがONモードのときに、ドアミラーの操作を行えます。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

次ページに続く

■リバース連動ドアミラー

ドライビングポジションシステム装備車

後退時、車両の側面の視界をよりよく確保するため、シフトポジションのRと連動して左右どちらかのドアミラーが自動的に下向きになります。



パワーモードがONモードで、ドアミラーの左右切り換えスイッチが左右どちらかにあることを確認します。

シフトポジションをRの位置にすると、ドアミラーが下向きになります。

シフトポジションをR以外の位置にすると元の位置に戻ります。

ドライビングポジションシステム非装備車

後退時、車両の左側面の視界をよりよく確保するため、シフトポジションのRと連動して助手席側ドアミラーが自動的に下向きになります。



パワーモードがONモードで、ドアミラーの左右切り換えスイッチが左側にあることを確認します。

シフトポジションをRの位置にすると、助手席側ドアミラーが下向きになります。

シフトポジションをR以外の位置にすると元の位置に戻ります。

▶▶リバース連動ドアミラー

ドライビングポジションシステム装備車

次の場合にも、ミラーが元の位置に戻ります。

- 左右切り換えスイッチを中央の位置にしたとき
- パワーモードをONモード以外にしたとき

リバース連動ドアミラーは、ドアミラーの左右切り換えスイッチが中央の位置にあるときは作動しません。作動させるには左右切り換えスイッチを左右どちらかにしてください。

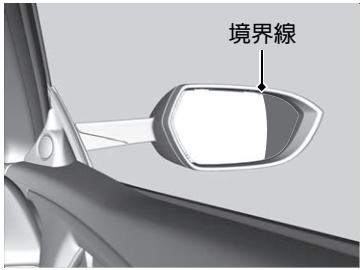
ドライビングポジションシステム非装備車

次の場合にも、ミラーが元の位置に戻ります。

- 左右切り換えスイッチを左側以外の位置にしたとき
- パワーモードをONモード以外にしたとき

リバース連動ドアミラーは、ドアミラーの左右切り換えスイッチが左側以外の位置にあるときは作動しません。作動させるには左右切り換えスイッチを左側にしてください。

■広角ドアミラー



運転席側はドアミラー面の外側部に付いている曲率を変えたミラーにより、後方をより広角に見ることができます。

»広角ドアミラー

見える範囲には限度がありますので、周囲の安全は目視などで確認してください。

境界線よりも外側に映る物は、通常のドアミラーより遠くにあるように見えます。

シート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■シートの動かしかた

■マニュアルシート*



▧シートの動かしかた

⚠注意

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

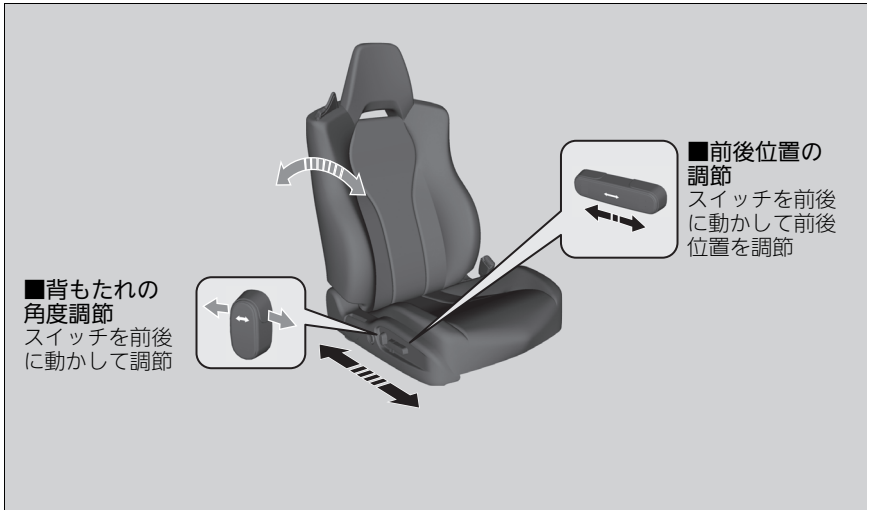
同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

▧マニュアルシート*

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■パワーシート✤



パワーシート✤

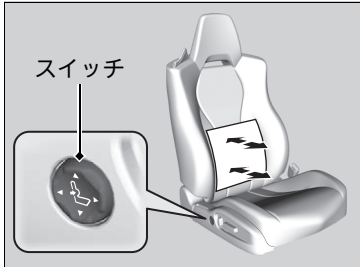
⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節すると思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行ってください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

■運転席ランバーサポートの調節*



シート腰部の固さを調節できます。
上部を硬くする：スイッチを上側に押す
下部を硬くする：スイッチを下側に押す
▶ 上部はやわらかくなります。
全体を硬くする：スイッチを前側に押す
全体をやわらかくする：スイッチを後側に押す

■シートの調節



■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。

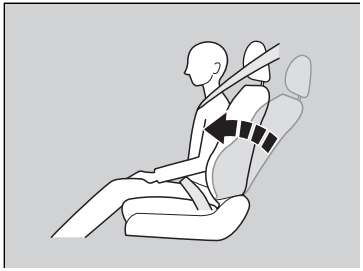
シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。

≫シートの調節

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

シートの調節

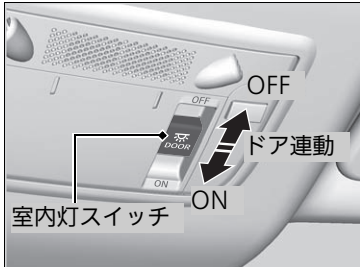
⚠警告

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

室内灯

■室内灯スイッチ



■ON
ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動
以下のときに室内灯が点灯。
- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

■OFF
ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

≫室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に減光しながら消灯します。

以下の場合も 30 秒後に消灯します。
- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードをOFFモードにしてドアを開けなかったとき

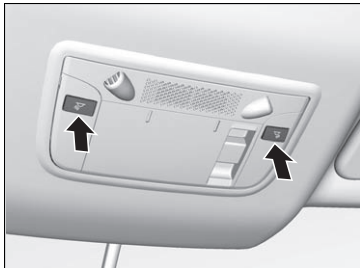
室内灯の消灯する時間をカスタマイズすることができます。

➔ **Honda インターナビシステム取扱説明書**

また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。
- 運転席ドアを施錠したとき
- パワーモードがOFFモード以外で運転席ドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードが OFF モードのときにいずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に消灯します。

■マップランプ



夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

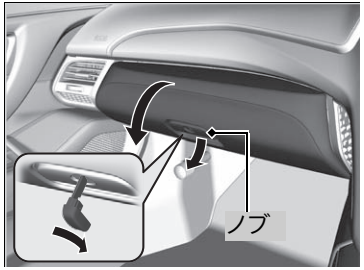
マップランプ

以下のときスイッチを押しても消灯できません。

- 室内灯スイッチが ON のとき
- 室内灯スイッチがドア連動でドアが開いているとき

室内装備品

■グローブボックス



ノブを引くと開きます。
内蔵キーで施錠、解錠できます。

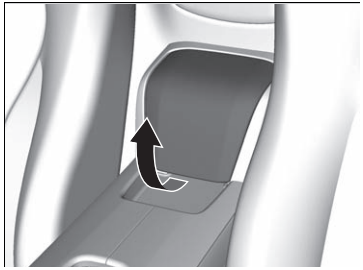
▩グローブボックス

⚠警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

ライトスイッチが OFF 以外の時、グローブボックス照明灯が点灯します。

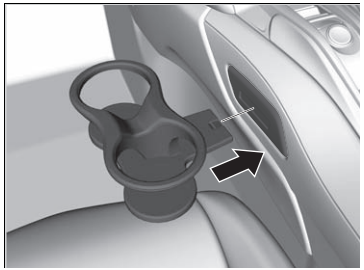
■コンソールボックス



フタを引き上げて開けます。

次ページに続く

■ドリンクホルダー



助手席側のセンターコンソールに差し込んで使います。

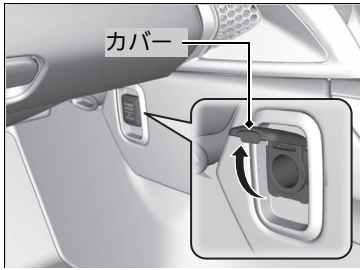
▶ドリンクホルダー

⚠注意

飲みものなどを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲みものがかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

■アクセサリーソケット



パワーモードがアクセサリーモードまたはON モードのときに使用できます。

カバーを開けて使います。

アクセサリーソケット

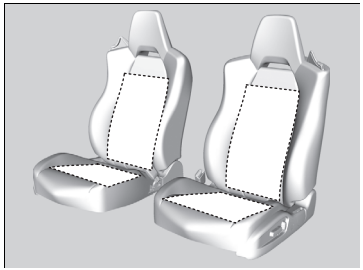
消費電力 180W(15A)以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

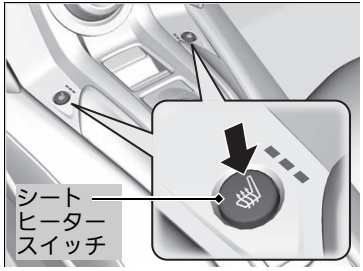
12V バッテリーあがりを防ぐため、パワーシステムが起動している状態でご使用ください。

次ページに続く

■シートヒーター*



パワーモードがONモードのときに使用できます。
運転席、助手席のシートを暖めることができます。



スイッチを押すたびに設定が切り替わります。
1回目 - 高：インジケーターが3個点灯
2回目 - 中：インジケーターが2個点灯
3回目 - 低：インジケーターが1個点灯
4回目 -OFF：インジケーターが消灯

▶シートヒーター*

⚠注意

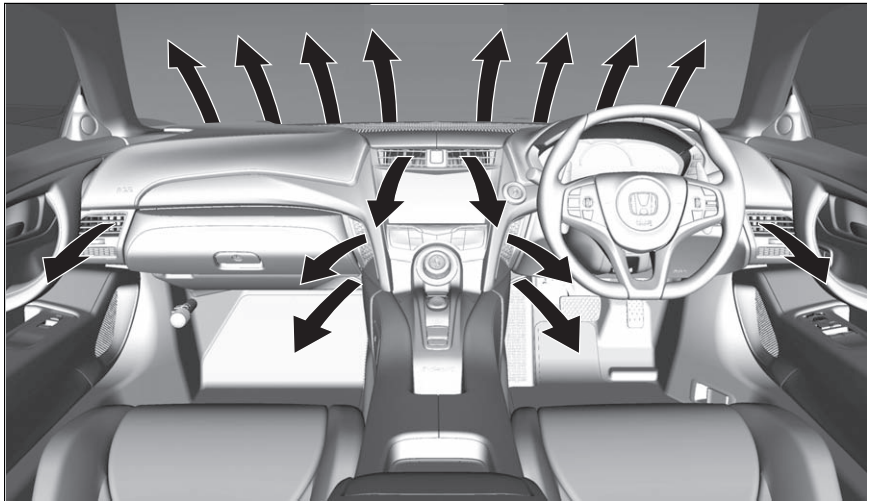
低温やけどに注意する。
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。
- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。
12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

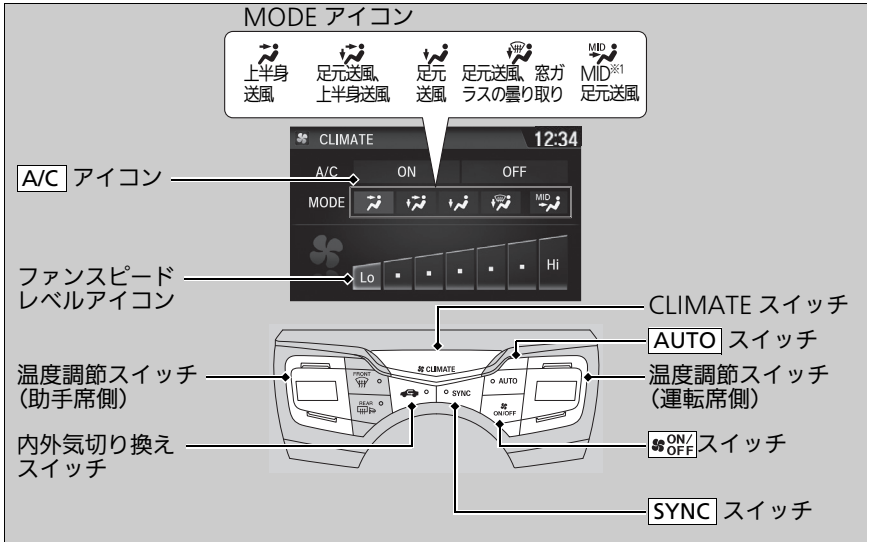
エアコンの吹き出し口



エアコン

音声操作の詳細は、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

オートエアコンの使いかた



パワーシステムを起動した状態で使用します。
1. AUTO を押す。
2. 運転席側 / 助手席側温度調節スイッチで室内の温度を設定する。
3. 停止するときは、ON/OFF を押す。

■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせて を押して、内気 / 外気を切り換えます。
- 内気（表示灯点灯）：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気（表示灯消灯）：換気を行う場合

■除湿暖房

暖房中に A/C を押すと、除湿暖房となります。

▶オートエアコンの使いかた

CLIMATE スイッチを押すとオーディオ / インフォメーションスクリーンに A/C、MODE、ファンスピードが表示されます。
アイコンを選択して、A/CのONまたはOFF、ベント（送風）モードの切り替え、ファンスピードの調節ができます。

※1：大腿部送風はデフロスター（窓ガラスの曇り取り）以外のモードが作動中に使えます。

オート（AUTO）で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。
このとき「AUTO」の表示灯は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。

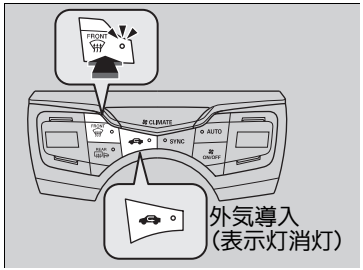
外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、 AUTO を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

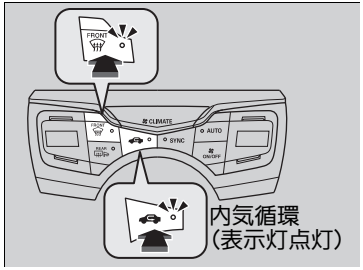
ON/OFF を押すたびに ON や OFF に切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻ります。

■前面・側面ガラスの曇り止め (デフロスター) の使いかた



FRONTを押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

FRONTをもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。



■急速に霜を取りたいとき

1. FRONTを押す。
2. を押す。

▩前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

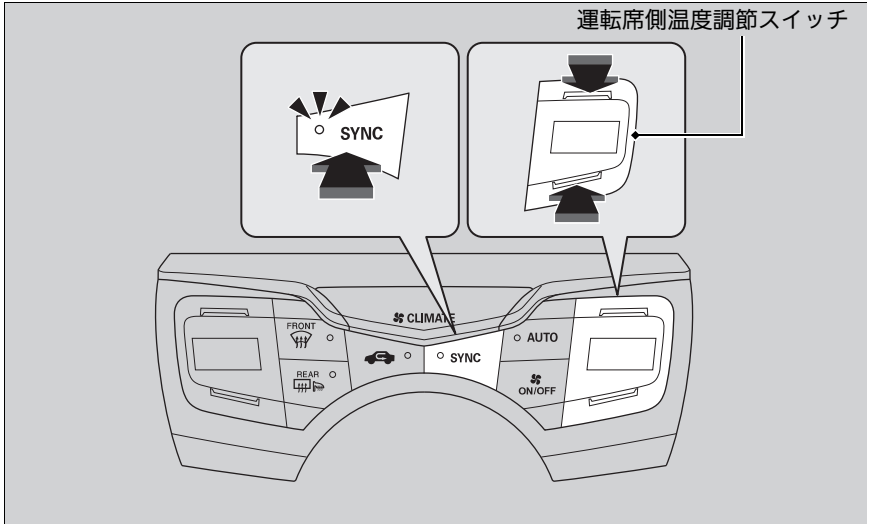
側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

▩急速に霜を取りたいとき

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

次ページに続く

■連動作動(シンクロ)モード



エアコンの設定操作を独立モードから連動作動モードに切りかえます。
運転席側と助手席側の設定温度を連動させて設定することができます。

1. SYNC を押す。
▶ 連動作動モードに切り換わります。
2. 運転席の温度調節スイッチで室内の温度を設定する。

独立モードに戻すときは、 SYNC または助手席側の温度調節スイッチを押します。

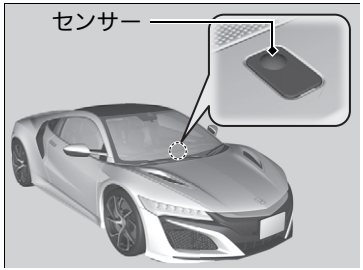
▶連動作動(シンクロ)モード

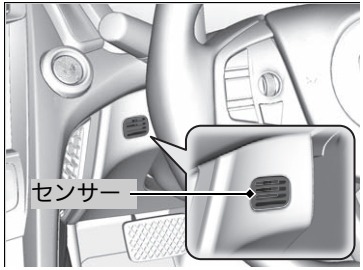
FRONT を押すと、連動作動モードに切り換わります。

独立モードの場合は、エアコンの設定温度を運転席側と助手席側で個別に設定できます。

連動作動モードにすると、運転席側の設定温度に切り換わります。

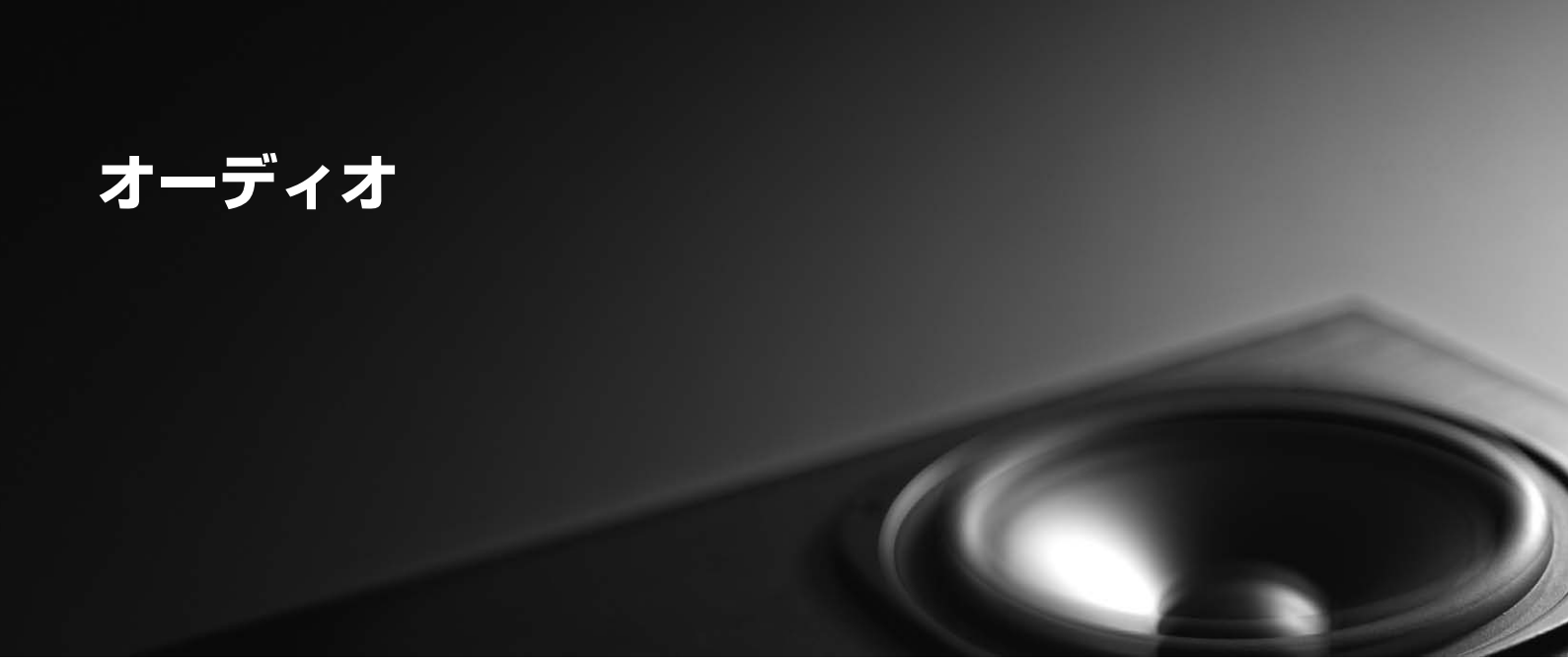
オートエアコンのセンサー





オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。

オーディオ



オーディオ装置 145

オーディオ装置

オーディオ・テレビの取り扱いについては、別冊の「Hondaインターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

運転

この章では、運転操作、給油、アクセサリーなどについて記載しています。



運転の前に 147
ハイパフォーマンス走行 149
運転操作
パワーシステムの起動 154
走行時の注意点 158
デュアルクラッチトランスミッションについて 161
シフト操作 162
インテグレーテッドダイナミクスシステム 170
ローンチコントロール 175
クルーズコントロール 177
車両接近通報装置 181
VSA（ビークルスタビリティアシスト） 182
アジャイルハンドリングアシスト 187
SH-AWD 四輪駆動力自在制御システム 188
タイヤ空気圧警報システム（TPMS） 189
高電圧バッテリーの特性 191
ブレーキ操作
ブレーキシステム 192
ABS（アンチロックブレーキシステム） 197
電子制御ブレーキアシスト 198
駐停車操作
駐車する 199
パーキングセンサーシステム 201
リヤカメラシステム 205
給油
指定燃料について 206
給油のしかた 207
ターボ車について 209

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ▶走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  ➡ **タイヤの点検と整備** P.232
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ▶運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。
- フロントバンパーダクトやサイドインタークーラーダクトに泥、枯葉などが詰まっていないか？
  ▶冷却性能低下につながる可能性があります。

■車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。

次ページに続く

車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。
凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

車内での確認項目

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。 運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットをお使いください。

- シートの足元にものを置いていないか？
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➔ **シートの調節** P.128
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
  ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔ **ミラー類の調節** P.124
  ➔ **ハンドルの調節** P.123
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔ **シートベルトの着用** P.31
- ドア、ハッチが確実に閉まっているか？
  ▶ 走行前にすべてのドア、ハッチが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.98
- パワーシステムを起動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔ **警告灯** P.57

ハイパフォーマンス走行

Honda NSXには、ハイパフォーマンス走行を含め優れた走行性能を発揮するための機能が搭載されています。しかし、高速走行を原因とする制御不能、衝突による死傷事故を含む自車および他車へのリスクがあるため、サーキットや閉鎖されたコースといった場所でのみハイパフォーマンス走行を推奨しています。
公道で走行される場合、常に速度制限やその他の交通法規を遵守し、周囲の環境や交通状況に応じて速度を抑えて走行してください。また、自車や他車、歩行者などへの危険性を高めるような走行(ローンチコントロールの使用など)は行わないでください。

インテグレーテッドダイナミクスシステムの TRACK モード、ローンチコントロール、その他のシステムは、加速やハンドリングにおいて限界近くまでパフォーマンスを向上させるためのシステムです。これらのシステムは閉鎖されたコースでの使用を目的としたものであり、公道で使用されることを目的としていません。これらのシステムの使用は、トラクションやステアリングコントロールの喪失リスクを軽減する制御の介入が遅れる場合があり、運転者の意図に反した挙動が発生する可能性があります。また、これらのシステムは運転者の経験や技術不足を補うものではなく、以下のような要因から引き起こされるリスクを低減、回避するものではありません。

- 適正なメンテナンスの不足
- 道路状況が悪い場合、もしくは、運転者が周囲の運転環境に不慣れな場合
- 他の車両や道路使用者に起因するリスク

次ページに続く

ハイパフォーマンス走行

アドバイス

本車両の保証には、ハイパフォーマンス走行、レース、自動車競技等やサーキットなどでの使用による損傷や故障は含まれておりません。詳細については保証書をご確認ください。

➔ **TRACK モード** P.174
➔ **ローンチコントロール** P.175

スピードリミッター機能の解除に関しては別冊「Honda インターナビシステム」の「車両設定」をご覧ください。

ハイパフォーマンス走行をする場合は危険性が高くなるため、特別な運転操作技術、知識や経験が必要となります。責任あるNSXユーザーとして、NSXのパフォーマンスとしては可能な場合でも、ご自身の運転技術やトレーニング成果の範ちゅうを越えての走行はお控えください。ハイパフォーマンス走行を行われる場合は、事前に以下の準備を行われることを強く推奨しております。

- あらかじめ適切なプロフェッショナルトレーニングを受けてください。
- 運転中の集中力や注意力を妨げる可能性のある機器や装置はすべてオフにしてください。

ハイパフォーマンス走行、とくにTRACKモードとローンチコントロールの使用によって、車両およびその構成部品に非常に高い負荷がかかり、結果として車両に摩耗や傷を生じさせます。このため、車両がベストコンディションにない場合、もしくはブレーキやタイヤなどが著しく摩耗している状態でのハイパフォーマンス走行において性能を十分に発揮できない、または機能しない可能性があります。このような事態を避けるため、ハイパフォーマンス走行前には、Honda指定販売店での点検を受けて必要な修理と調整は全て済ませていただくことを強く推奨いたします。上記に加え、ハイパフォーマンス走行中とその前後にはNSX特有の部品およびいくつかの項目に対し特に注意を払ってご確認いただく必要があります。以下に記載されている項目を確認したとしても、走行中の安全性を確保するには不十分な場合もありますので、最終的にハイパフォーマンス走行を行うかどうかは車両の状態などに応じてご自身でご判断ください。

運転の前に

- 水平な場所に停車した状態で、ブレーキフルードを Honda 純正ウルトラブレーキフルード DOT4 もしくは同等品に交換後、ブレーキ装置からエア抜きを行ってください。
- ブレーキパッドの残量を確認し、6.0mm以下の場合は交換してください。

- 著しく高い速度で走行する際に繰り返しかつ素早く減速することを可能とするため、ハイパフォーマンス走行前にブレーキバーニッシュを行ってください。（ハイパフォーマンス走行前のブレーキバーニッシュは、日常の運転のためのものと異なりブレーキシステムの作動に対して特別な要件が求められるため、さらに入念に行う必要があります。）
- エンジンアンダーカバーダクト、耐熱性ダクト、ブレーキダクト、ラジエーター、インタークーラーを含むすべての冷却用開口部に枯葉などの障害物が無いか確認してください。
- タイヤパンク応急修理キットをはじめ、トランク内に積載しているものをすべて降ろしてください。
- 高速で走行する際には、タイヤとホイールに強い力が加わるため、タイヤの摩耗具合と空気圧およびホイールボルトに問題が無いことを確認してください。スリックタイヤは使用しないでください。また、外気温が 7℃以下の場合は夏用タイヤや標準装着のウルトラハイパフォーマンスタイヤの使用はお控えください。
- ひび割れおよび摩耗がないか、全てのエキゾーストマウントを点検してください。
- テールパイプアクティブエキゾーストバルブを点検し、正しく機能していることを確認してください。アイドリング中にインテグレーテッドダイナミクスシステムモードスイッチで SPORT モードと TRACK モードを切り換えることで確認が可能です。

ハイパフォーマンス走行

⚠警告

スリックタイヤ / レーシングスリックタイヤの使用は、シャシーやボディ部品に、設計上想定されている以上の動的荷重が加わります。
想定外の動的荷重がかかることで部品の故障や制御不能につながり、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
NSX にスリックタイヤは装着しないでください。

次ページに続く

運転中は

- ブレーキに関する警告メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示(警告音も同時に鳴ります)またはペダル踏み込み量の増大、あるいはその両方が発生することがあります。
  上記のいずれかの状況になった場合、ただちに減速し十分な停止距離を確保してください。ブレーキが冷却され、システムが通常の作動状態に戻るとメッセージが消えます。



- ハイパフォーマンス走行後は、車両を十分にクールダウンすることが重要となります。すぐに車を停止させず、車両温度が平常に戻るまで低速かつ制動距離を長く保ちながら運転を続けてください。車両を停車し安全が確認できたら冷却効率を上げるためハッチを開けてください。また、ハイパフォーマンス走行中にエンジンオイル油温が H マークまで達した場合は、Honda 指定販売店で点検を受けてください。

運転後は

車両や関連部品が安全な運転が可能な状態にあるかどうかご確認ください(確認部品の例：ホイールボルトの締付けトルク、タイヤ空気圧など)。また、走行前のご確認を再度実施することをおすすめします。万一部品などが過度に摩耗していたり異常が見られる場合には交換するか、細心の注意を払って走行し、Honda 指定販売店で点検を受けてください。

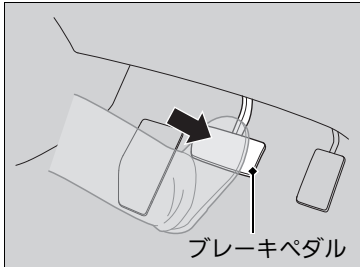
詳しくは Honda 指定販売店にご相談ください。

パワーシステムの起動



1. パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。

▶パーキングブレーキがかかっていると、電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が約 15 秒間点灯します。



2. 右足でブレーキペダルを踏む。

パワーシステムの起動

⚠注意

パワーシステムを起動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのパワーシステムの起動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。

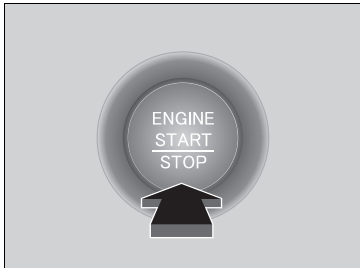
寒いときのパワーシステムの起動は、12V バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。そのため、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができません。

イモビライザーシステム P.105

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで ENGINE START/STOP に触れてください。

Honda スマートキーの電池が切れたとき P.267



3. アクセルペダルを踏まずに、
ENGINE START/STOP を押す。
▶パワーシステムが起動すると、ブザー音がなり、マルチインフォメーションディスプレイに「走行可能です」が表示され、運転することができます。
▶外気温が極端に低いときは、条件が整うまで走行することができません。このとき、「走行可能です」のメッセージが表示されず、代わりに警告メッセージが表示されます。
➡ **マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P.69

インテグレーテッドダイナミクスシステムが QUIET モードのとき

▶高電圧バッテリーの充電量が十分にあるときは、エンジンは始動しません。
▶エンジンが冷えているときや高電圧バッテリーの充電量が低下しているときはエンジンが始動します。

インテグレーテッドダイナミクスシステムが SPORT モードのとき

▶高電圧バッテリーの充電量にかかわらず、常にエンジンが始動します。
▶インテグレーテッドダイナミクスシステムが QUIET モードのときよりも大きな排気音で始動します。
エンジンが冷えているとき、高電圧バッテリーの温度が低下しているとき、高電圧バッテリーの充電量が低下しているときは、インテグレーテッドダイナミクスシステムが QUIET モードのときと同等の排気音量で始動します。

次ページに続く

パワーシステムの起動

パワーシステムが起動しない場合は、30 秒以上待ってから操作してください。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。
Honda 指定販売店で点検を受けてください。

ENGINE START/STOP は、エンジンが始動するまで押し続ける必要はありません。

パワーモードをONモードにしたときのインテグレーテッドダイナミクスシステムモードをカスタマイズ機能を使用して設定することができます。
➡ **Honda インターナビシステム**

■パワーシステムの停止

車が完全に停止しているとき、パワーシステムを停止することができます。

1. シフトポジションを P にする。

2. ENGINE START/STOP を押す。

■発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D/M にする。
▶ 後退する場合は R にします。

2. パーキングブレーキをかけたまま、ブレーキペダルを離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。
▶ 電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が消灯したことを確認してください。
▶ 運転席シートベルトを装着していないと、発進時でも電子制御パーキングブレーキは自動解除されません。
電子制御パーキングブレーキ P.192

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1 秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

発進時の操作

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、シフトポジションを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

パーキングブレーキスイッチの操作で解除することもできます。
下り坂の場合、アクセルペダルを踏まずにパーキングブレーキを手動で解除すると、よりスムーズに発進することができます。

ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

■霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。
トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

走行時の注意点

走行中はパワーシステムを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はシフトポジションを N にしないでください。
回生ブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずパワーシステムを起動してください。
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。
わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

次ページに続く

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。
車体下部の部品が損傷を受けたり脱落したりすると、車両安定性、ハンドリング、駆動系の冷却性能に悪影響をおよぼす可能性があります。

▶その他の注意点

⚠注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。
滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。
システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

アドバイス

下記のような場合には、アンダースポイラー、アンダーカバー、フロントバンパー、リヤディフューザー、ブレーキ冷却装置、サイドシルを損傷するおそれがあります。
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂からの平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ(穴)のある個所の通過
- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 減速帯を乗り越えるとき

デュアルクラッチトランスミッションについて

■クリープ現象

シフトポジションがP N以外になっていると、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

■キックダウン

アクセルペダルにはキックダウンスイッチが装備されています。走行中にアクセルペダルを素早く踏み込むと低速ギヤにシフトダウンし、力強い加速を得ることができます。

デュアルクラッチトランスミッションについて

デュアルクラッチトランスミッションは極低温時では作動できません。極低温下での駐車後は、エンジンを始動し、メーターに READY 表示灯が点灯するまで暖機を行ってください。

クリープ現象

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

キックダウン

上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより急にエンジン回転が上がり、速度が出すぎてしまうことがあります。
アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

シフト操作

走行状態に応じてシフトポジションスイッチを押して切り換えます。

■シフトポジションの名称とはたらき



P パーキング
駐車またはパワーシステムを起動するとき

R リバース
車を後退

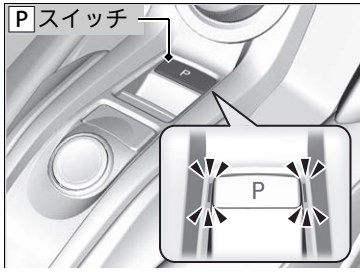
N ニュートラル
エンジンとモーターからの駆動力が伝達されない状態

D/M ドライブ / マニュアル
D/M スイッチを押すたびに、D(ドライブ)と M(マニュアル)が切り換わります。

D(ドライブ)
- 通常走行(1 速から 9 速まで自動変速)
- 一時的にシーケンシャルモードにするとき

M(マニュアル)
- シーケンシャルモードにするとき

■パーキングスイッチ

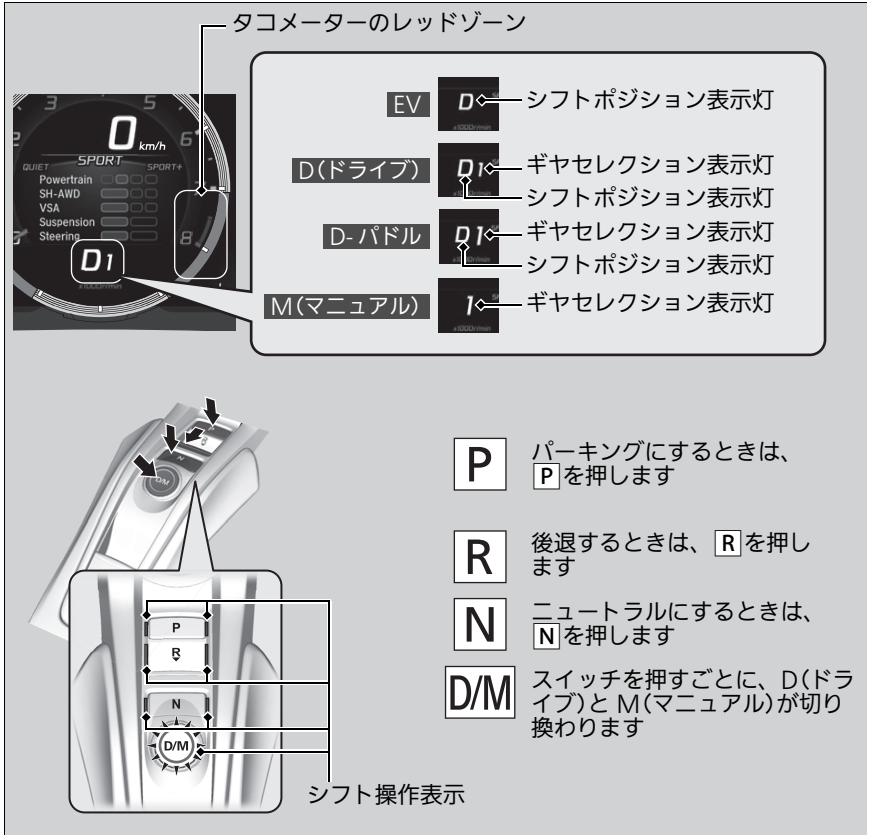


パワーモードが ON モードで車が停止しているとき、スイッチを押すとシフトポジションが P になり、スイッチのシフト操作表示が点灯します。

シフト操作

故障と予期しない作動を防止するため：
- シフトポジションスイッチに液体などをこぼさないでください。
- シフトポジションスイッチやまわりに、衝撃を与えたりものを落とさないでください。
- お子様や運転者以外の方がシフトポジションスイッチを操作しないようご注意ください。

■シフトポジションの操作



シフトポジションの操作

車両を完全に停止させ、ブレーキペダルを踏んだままシフトポジションを D/M から R または R から D/M に切り換えてください。

シフト操作をするまえに、シフトポジション表示灯とシフト操作表示を確認してください。

選択しているシフトポジションの表示灯が点滅しているときは急加速を避け、Honda 指定販売店で点検を受けてください。
全てのシフトポジションで、表示灯が点滅する場合は、ただちに安全な場所に車を停車してください。
異常なければ消灯しますが、Honda 指定販売店で点検を受けてください。

エンジンの回転をあやまってタコメーターのレッドゾーン(限界回転数)以上で運転した場合、エンジン保護装置により燃料供給が停止されます。
そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

N、P又はRを選択しているときに、エンジン回転数が高い状態が続くと、燃料供給が停止されることがあります。

次ページに続く

■自動パーキング選択制御

■ドア Open 自動パーキング選択制御

パワーモードが ON モードで車が停止、または、車速が 2 k m/h 以下のときに、P以外のシフトポジションのまま、運転席のシートベルトをはずし運転席ドアを開けるとシフトポジションが自動でPになります。

■パワーモード Off 自動パーキング選択制御

停止中にシフトポジションがP以外のまま、パワーモードを OFF モードにすると、シフトポジションが自動でPになります。

■アクセサリーモード時の N ポジション保持制御

パワーシステムが起動している状態で操作してください。

1. ブレーキペダルを踏み込む。

2. READY 表示灯の点灯を確認する。

3. Nスイッチを押し、5 秒以内に ENGINE START/STOP を押す。

▶約 15 分間シフトポジションがNの状態のまま、パワーモードはアクセサリーモードを保持した後、自動的にシフトポジションがPになり、パワーモードが OFF モードになります。

この制御中に、シフトポジションをPにすると、この制御は解除され、OFF モードになり、このときに数秒間Pが点灯します。

自動パーキング選択制御

駐車をするときは、安全のために、運転席ドアを開ける前にシフトポジションをPにし、適切な方法により行ってください。

駐停車操作 P.199

この制御によりPになった後、発進する場合は、ドアを閉めてシートベルトを装着し、シフト操作をしてください。

ドア Open 自動パーキング選択制御

この制御によりPになったときは、ドアを閉めて、改めてシフトポジションを選択してください。

■シフトポジションの選択制限

不正な操作をすると、安全のため、シフトポジションの選択が制限されます。

操作前のシフトポジション	1. 操作・走行状態	2. パーキングスイッチ・シフトポジションの操作	3. 操作後のシフトポジション	対処のしかた
P	ブレーキペダルを踏んでいない	他のシフトポジションを選択する	P	アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏む
	アクセルペダルを踏んでいる			
N	低速走行中で、ブレーキペダルを踏んでいない		N	
	低速走行中で、アクセルペダルを踏んでいる			
N D/M	前進している	R		停車する
R N	後退している	D/M		
R N D/M	走行中	P		
P N	READY 表示灯が点灯していない	P N以外を選択する	P N	READY 表示灯の点灯を確認する
N D/M	ブレーキペダルを踏んでいない	R	N	ブレーキペダルを踏む

次ページに続く

■シーケンシャルモードとは

ハンドルにあるシフトスイッチで、ハンドルから手を離さずに手動で1～9速まで変速することができます。走行中にシフトスイッチを引くと、シーケンシャルモードへ切り換わります。エンジンブレーキが必要なときにも、使用してください。

■シフトポジションが D(ドライブ)のとき

シフトスイッチを引くと、一時的にシーケンシャルモードとなり、ギヤセレクション表示灯が大きな表示になります。

以下の状態になると、シーケンシャルモードは自動的に解除され、ギヤセレクション表示灯がもとの大きさに戻ります。

- [+]のシフトスイッチ(右側)を数秒間引き続けたとき
- 定速走行の状態になったとき
- 車両が完全に停止したとき
- インテグレーテッドダイナミクスシステムのモードを切り換えたとき

以下の状態になると、自動的に変速します。

- アクセルペダルを節度感のある位置以上に踏み込んだとき
- エンジンの回転がタコメーターのレッドゾーン(限界回転数)近くに達したとき
- 減速してエンジン回転がアイドリング状態になったとき

シーケンシャルモードとは

以下の走行状態のときに、シフトスイッチを引くと変速せずギヤセレクション表示灯が点滅します。

- 操作後のエンジン回転数が許容範囲外のとき
- 車速が各ギヤの許容範囲外のとき

また、車両状態によって、変速ができないこともあります。

エンジンやトランスミッションを保護するために、自動的にシフトアップやシフトダウンすることがあります。このとき該当する表示灯が点灯します。

以下のとき、自動的にシーケンシャルモードを解除することがあります。

- トランスミッション保護が必要なとき
- 高電圧バッテリーの残量が低下したとき
- モード作動中に、滑りやすい路面でタイヤがロックしたとき

■シフトポジションが M(マニュアル)のとき

シフトスイッチを引くと、シーケンシャルモードとなり、シフトポジション表示灯が消灯し、ギヤセレクション表示灯のみの表示になります。
モードを解除する場合は、D/M スイッチを押すか、＋のシフトスイッチ(右側)を数秒間引き続けてください。また、インテグレーテッドダイナミクスシステムのモードを QUIET モードにしてもシーケンシャルモードが解除され、ギヤセレクション表示灯のみの表示から、シフトポジション表示灯とギヤセレクション表示灯の同時表示になります。

1 速から 2 速へは自動的にシフトアップしますが、2 速から 9 速の間は自動的にシフトアップしません。

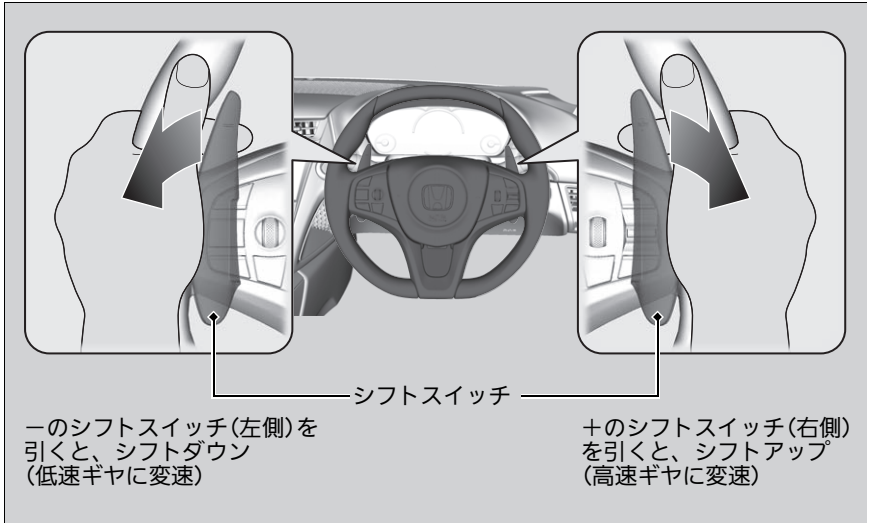
次ページに続く

トランスミッション制御モード [メーター表示]	Auto モード 	D- パドルモード 	マニュアルモード 
作動方法▶	初期状態	EV 時または Auto モード時にパドルスイッチを操作	D/M を押す
自動シフトアップ	○	×	×
自動シフトダウン	○	×	×
キックダウンクリック	○	○	×
減速時シフトダウン	○	○	○
レッドゾーン到達時シフトアップ	○	○	×

トランスミッション制御モード [メーター表示]		D- パドルモード 	マニュアルモード 
作動方法▶		EV 時または Auto モード時にパドルシフトを操作	D/M を押す
Auto モードへの復帰	定速走行後	○	×
	+側パドルスイッチを数秒間引き続ける	○	○
	完全に停車する	○	×
	インテグレーテッドダイナミクスシステムのモードを変更する	○	QUIET モードに変更したときのみ Auto モードへ復帰

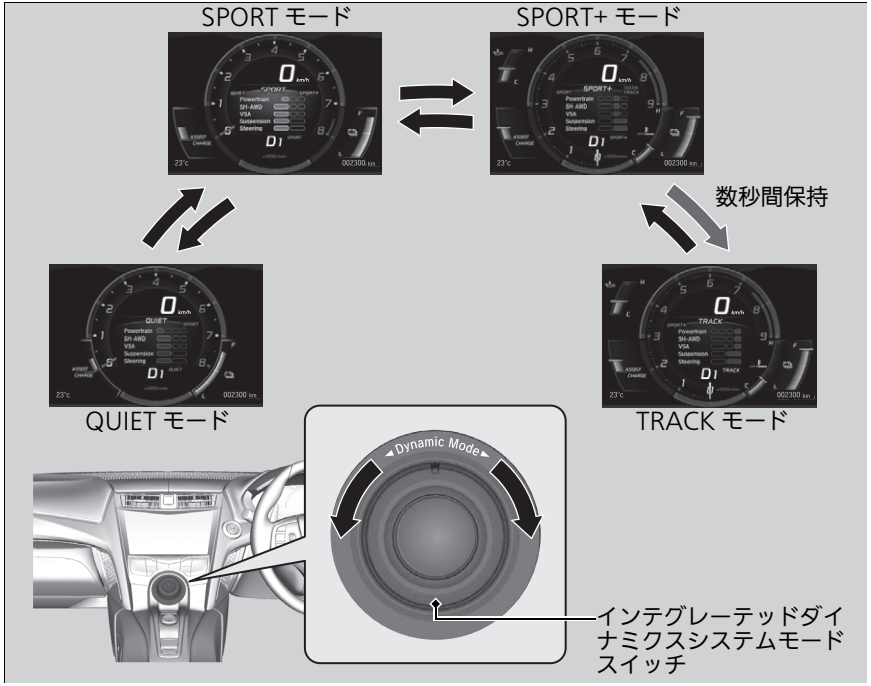
■シーケンシャルモードの操作

1回のシフトスイッチ操作で、ギヤは1段変速します。



インテグレーテッドダイナミクスシステム

選択したモードに応じて、エンジン、トランスミッション、高電圧バッテリー、EPS、ダンパー、ブレーキ、VSA、SH-AWD などを制御します。
センターコンソール中央のスイッチでQUIETモード、SPORTモード、SPORT+モード、TRACK モードの 4 つのモードから走行モードを切り換えることができます。
選択しているモードはマルチインフォメーションディスプレイに表示され、それぞれのモードに応じて表示の内容が変化します。

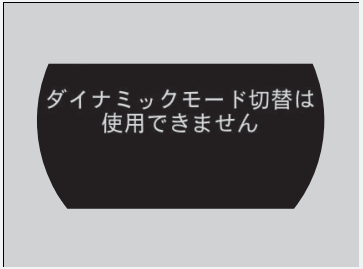


インテグレーテッドダイナミクスシステム

パワーモードをONモードにしたときのインテグレーテッドダイナミクスシステムのモードをカスタマイズ機能を使用して設定することができます。

➔ Honda インターナビシステム

車速が速すぎるなど、運転状況などによってはモードの変更ができない場合があります。
また、車両に異常があるときなども下記のメッセージが表示され、モードの変更ができません。



制御項目		QUIET	SPORT	SPORT+	TRACK
メーター表示	マルチインフォメーションディスプレイ	必要最小限の情報を表示	日常的な走行に関する情報をわかりやすく表示	さらに走行に関する情報が追加表示(エンジンオイル油温、SH-AWD システム温度、タコメーター表示をエンジンの高回転表示が見やすくなるよう切り換え)	
シャシー制御	ステアリング	市街地走行や高速道路走行に適した操舵性		運転者の操作に対して忠実に反応する設定	
	サスペンション	日常走行に適したバランスの取れたサスペンション設定		ハイパフォーマンス走行のための、より高次元の車体制御を実現するサスペンション設定	
	ブレーキ	公道走行に適したバランスの取れたブレーキ設定			サーキット走行時のブレーキ高熱化を想定した設定
	VSA	あらゆる状況下で VSA とトラクションコントロールをバランス良く制御する設定		ハイパフォーマンス走行中にアジャイルハンドリングアシスト、VSA、トラクションコントロールをより強く制御する設定	運転者の操作の自由度を向上するためのサーキット向けの設定

次ページに続く

制御項目		QUIET	SPORT	SPORT+	TRACK
パワートレイン制御	パワートレイン始動	EV走行を優先、素早い始動	力強い始動音		
	パワートレイン作動音	静かな走行に適した最小限の作動音	市街地走行や高速道路走行に適した作動音	迫力ある作動音	サーキット走行向けの最大作動音
	高電圧バッテリー制御	効率と静音性を優先した制御	効率とレスポンスのバランスが取れた制御	加速性能向上のためのアシストを重視した制御	サーキット走行向けの充電制御
	高電圧バッテリーエアコン冷却	エアコンによる冷却は行わない	エアコンによる冷却を行うが、室内の空調を優先		室内の空調よりも高電圧バッテリー冷却を優先
	EV 走行	可	可	不可	不可
	原動機制御	快適な走行を優先した制御	あらゆる走行シーンにおいて出力をバランスよく制御	レスポンスを最大限向上した制御	コーナリング走行を重視した制御
	DCT シフト制御	快適かつエンジン回転を抑えることを優先した制御	あらゆる走行シーンにおいてバランスよく制御	シフトダウン操作に素早く反応し低速ギヤのレスポンスを最大限向上する制御	変速スピードを速め、サーキット走行時にパフォーマンスを最大限発揮する制御
	SH-AWD	静かで快適な走行を優先した制御	日常走行に適したバランスの取れた制御	ワインディングロードにおけるトラクション性能とレスポンスを向上させた制御	ドライ路面でのコーナリング時の操作性を最適化した制御

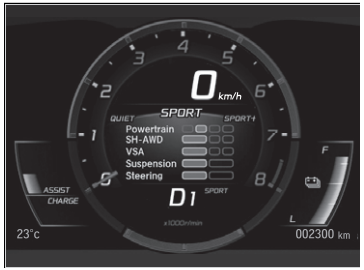
■ QUIET モード



QUIETモードは静音性と快適性を最優先させたモードです。
始動を含むすべての走行において、EV走行、静音性、エンジンの低回転を優先する制御となります。

- エンジン回転数は 4,000rpm までに制限されます。
- スピードリミッター機能を解除した場合、車速はおよそ193km/hまでに制限されます。

■ SPORT モード



SPORTモードはこれまでになくバランスの取れたスポーツ走行(New Sports eXperience-NSX)が可能となります。
システムの走行性能制御により、スポーツ性とツーリング走行のバランスを最適化したモードです。

インテグレーテッドダイナミクスシステム

スピードリミッター機能の解除に関しては別冊「Honda インターナビシステム」の「車両設定」をご覧ください。

次ページに続く

■ SPORT+ モード



SPORT+モードはエンジン、トランスミッション、シャシーのレスポンスを最大限向上させた制御となるモードです。

- SPORT+モード中はEV走行を行いません。

■ TRACK モード



TRACK モードはサーキットでのみ使用してください。

TRACK モードでは、サーキット走行時に車両の持つ性能を最大限引き出します。

走行中、高電圧バッテリーの充電は、走行性能を引き出すために調整されます。

- TRACKモード時は通常より操舵の安定性を抑制しており、VSA 警告灯が点灯します。これにより、サイドスリップ量やホイールスピン量が多くなります。
- インテグレーテッドダイナミクスシステムのモードを TRACK モードにするためには、インテグレーテッドダイナミクスシステムモードスイッチを右へ回してから数秒間保持してください。

»TRACK モード

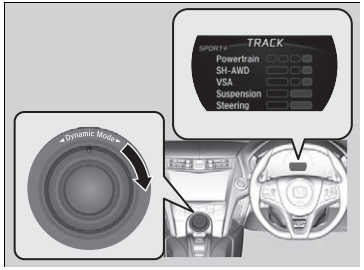
TRACK モードを選択する前に、ハイパフォーマンス走行についての注意点を良くお読みください。

➡ ハイパフォーマンス走行 P.149

TRACKモード中は、高電圧バッテリーの冷却が優先されるため、エアコンの効きが悪くなることがあります。

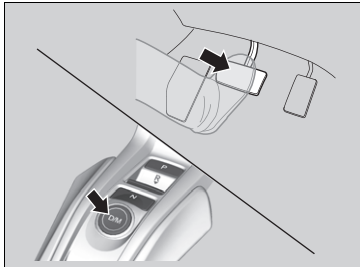
ローンチコントロール

発進加速性能が最大となるようにエンジンやトランスミッションなどを制御します。



1. インテグレーテッドダイナミクスシステムモードスイッチを操作してインテグレーテッドダイナミクスシステムのモードを TRACK モードにする。

➡ **インテグレーテッドダイナミクスシステム** P.170



2. ブレーキペダルをしっかりと踏んでシフトポジションを D/M にする。



3. パーキングブレーキを解除する。

次ページに続く

≫ローンチコントロール

⚠警告

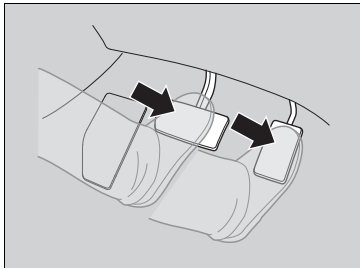
このシステムを一般公道で使用しない。
他車や歩行者などとの衝突により、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

車のコントロールを失う可能性がありますので、ぬれた路面や滑りやすい路面の場所でこのシステムを使用しないでください。

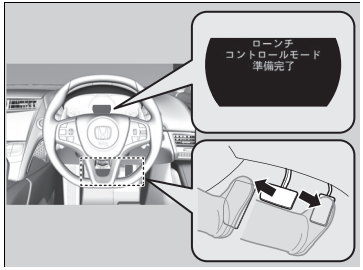
このシステムはエンジンやトランスミッションに大きな負荷がかかりますので、多用すると故障などにつながるおそれがあります。

以下の条件のときは、システムが作動しません。

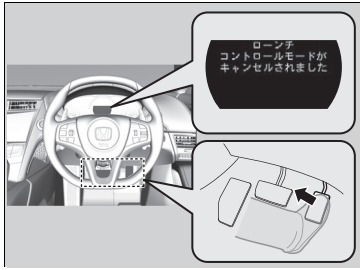
- VSA が OFF のとき
- シフトポジションが D/M 以外のとき
- シフトポジションが M(マニュアル)のときはギヤが 1 速以外のとき
- パーキングブレーキがかかっているとき
- 急な上り坂または下り坂
- 車両が停止していないとき
- トランスミッションの温度が低すぎるときまたは高すぎるとき
- 何らかのシステムに異常があるとき



4. ブレーキペダルをしっかりと踏んだままアクセルペダルをいっぱいまで踏み込む。



5. マルチインフォメーションディスプレイに「ローンチコントロールモード準備完了」と表示されたらブレーキペダルを一気に離す。



6. アクセルペダルから足を離すと、マルチインフォメーションディスプレイに「ローンチコントロールモードがキャンセルされました」と表示され、ローンチコントロールが解除される。

クルーズコントロール

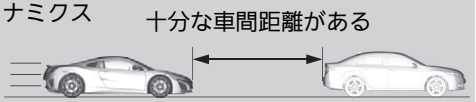
高速道路のような加速 / 減速操作の少ない自動車道などで、定速運転をするときアクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つための装置です。クルーズコントロールは手元のスイッチ操作で、車速の上げ / 下げなどが行えます。

こんなときに

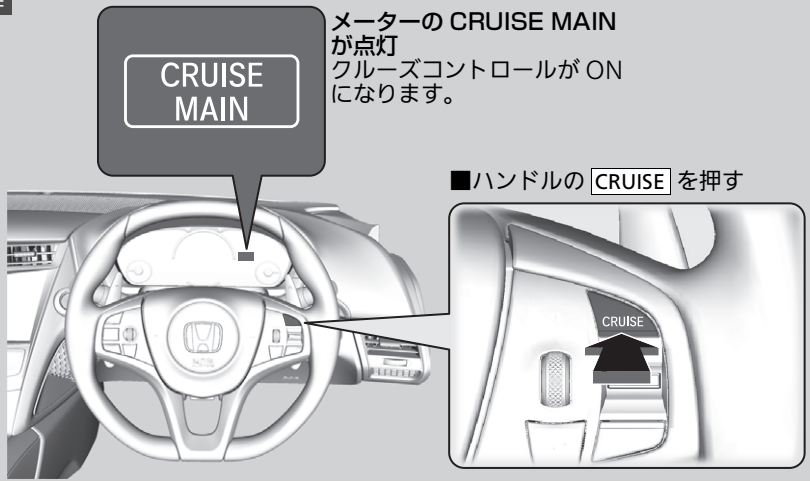
■使用できるシフトポジション
D/M のとき

■使用できる車速
約 30km/h ～ 100km/h の希望値

■使用できるインテグレーテッドダイナミクスシステムのモード
QUIET モード、SPORT モード、SPORT+ モード



操作



次ページに続く

クルーズコントロール

⚠警告

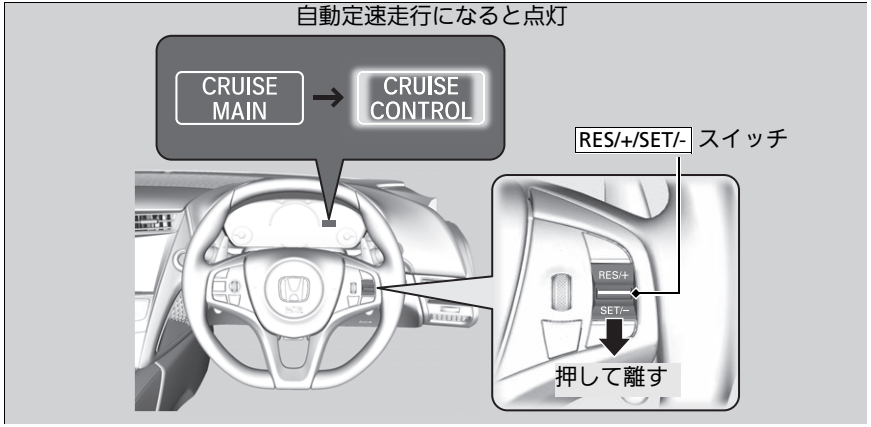
下記のような道路で、クルーズコントロールを使用しない。
道路状況によっては、思わぬ事故につながります。

- **混んでいて、車間距離が十分にとれない道路**
  道路状況に合った速度で走行できません。
- **急な下り坂のある道路**
  回生ブレーキが十分効かず、セットした速度を超えてしまうことがあります。
- **凍結や積雪などで滑りやすい道路**
  タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにするとクルーズコントロールは自動的に OFF になります。

上り坂や下り坂では、条件により一定速度を保てない場合があります。

■車速をセットするには



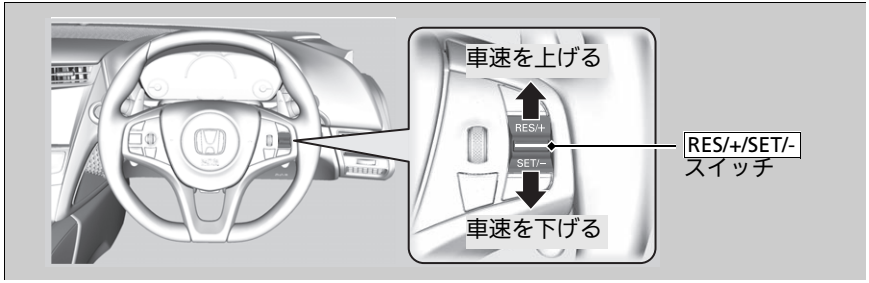
希望の車速になったらペダルから足を離し、 RES/+/SET/- を下に押して離します。
RES/+/SET/- を離すと、離したときの車速にセットされ自動定速走行になります。同時に、**CRUISE CONTROL** 表示灯が点灯します。

▶車速をセットするには

自動定速走行をしないとき
安全のため CRUISE を押して OFF にしてください。
パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにすると、 CRUISE は自動的にOFFになります。

■車速を調節するには

手元の RES/+/SET/- の操作で、車速を上げ / 下げすることができます。



RES/+ 側

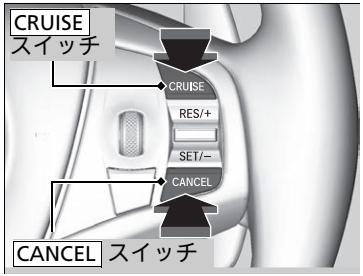
- 1 回押すごとに約 1.5km/h ずつ車速が上がる
- 押し続けると車速が上がり、手を離したときの車速に固定

SET/- 側

- 1 回押すごとに約 1.5km/h ずつ車速が下がる
- 押し続けると車速が下がり、手を離したときの車速に固定

次ページに続く

■解除するには



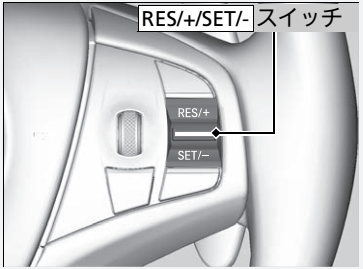
次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。同時に、**CRUISE CONTROL** 表示灯が消灯します。

- CANCEL を押す
- CRUISE を押す
- ブレーキペダルを踏む

≫解除するには

解除前の設定車速に復帰させる

自動定速走行を解除したあとでも、30km/h 以上の車速で走行中に RES/+/SET/- スイッチを上に押すと、解除前の設定車速の自動定速走行に戻すことができます。



ただし、下記の場合は復帰できません。

- 解除後、車速が 30km/h 未満になったとき
- CRUISE で OFF 操作をしたとき

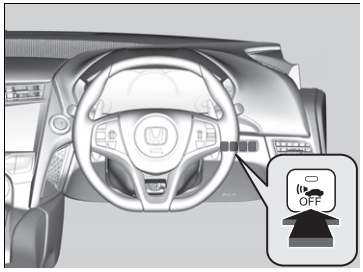
車速が 25km/h 以下になると

自動的に自動定速走行が解除になります。

車両接近通報装置

約 20km/h 以下で走行しているときに、歩行者に車両の接近を知らせるため、走行音を発生させるシステムです。

■車両接近通報装置の ON と OFF



車両接近通報を停止(OFF)状態にするには、を押してください。
車両接近通報が停止状態になります。

再度使用 (ON)するには、を押します。

車両接近通報装置

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的に ON になります。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 P.197

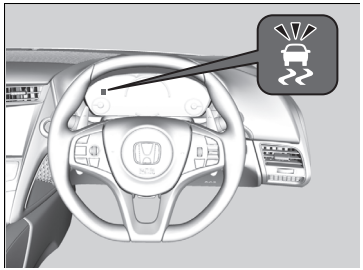
■TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。
さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。
電子制御ブレーキアシスト P.198

■ VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

アドバイス

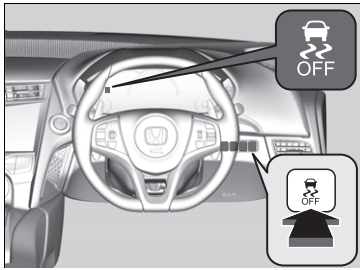
種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。
タイヤとホイールの交換 P.234

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤを装着し控えめな速度で運転する

VSA 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。
通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。

■ VSA OFF スイッチ



VSA OFF スイッチを押すと、VSA のモードが切り換わります。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的にONになります。

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのため車両前方からモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

次ページに続く

■インテグレーテッドダイナミクスシステムモードが QUIET、SPORT、SPORT+ モードのとき



VSA OFF スイッチを押すと、ブザーが鳴り VSA OFF 警告灯が点灯し、VSA がスタックアシストモードになります。

▶ マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが数秒間表示されます。

インテグレーテッドダイナミクスシステムのモードを変更してもスタックアシストモードのままとなります。

もう一度押すと、ブザーが鳴り VSA OFF 警告灯が消灯し、VSA が ON モードになります。

VSA（ビークルスタビリティアシスト）

VSA のモードをスタックアシストモードにしても通常のブレーキ性能やカーブでの安定性は確保されていますが、VSA によるトラクション性能や安定化の制御が若干弱くなります。

新雪やぬかるみから脱出したいときに、VSA をスタックアシストモードにすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON モードにしてください。
VSA をスタックアシストモードにしたままでの走行は、お勧めしません。

■インテグレーテッドダイナミクスシステムモードが TRACK モードのとき

インテグレーテッドダイナミクスシステムのモードを TRACK モードにすると、VSA がトラックモードになり VSA OFF 警告灯が点灯しますが、VSA の機能が停止するわけではなく制御の閾値が高くなります。TRACK モードはサーキットで使用し、通常より慎重に運転操作を行ってください。

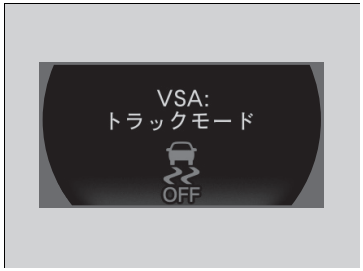


VSA OFF スイッチを押すと、ブザーが鳴り VSA OFF 警告灯が点灯し、VSA がスタックアシストモードになります。

▶ マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが数秒間表示されます。

インテグレーテッドダイナミクスシステムのモードを変更してもスタックアシストモードのままとなります。

もう一度押すと、ブザーが鳴りVSA OFF警告灯が消灯し、VSA が ON モードになります。



▶ マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが数秒間表示されます。

インテグレーテッドダイナミクスシステムモードが TRACK モードのとき

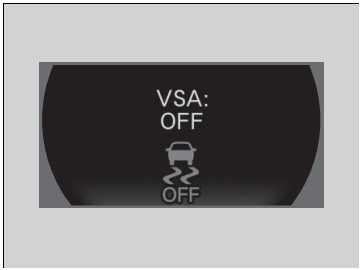
VSA のモードを OFF モードにしても通常のブレーキ性能やカーブでの安定性は確保されていますが、VSA によるトラクション性能や安定化の制御が停止されます。

VSA を停止させると、アジャイルハンドリングアシストも停止します。

VSA、TCS、アジャイルハンドリングアシストが停止している状態での走行は、お勧めしません。

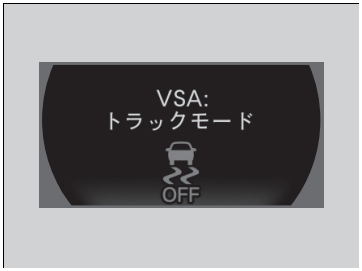
タイヤ空気圧警報システム警告灯が点灯または点滅しているときは、VSA は自動的に復帰します。この場合、VSA OFF スイッチを押して VSA のモードをスタックアシストモードにすることはできますが、OFF モードにすることはできません。

次ページに続く



VSA の機能を完全に停止するには、VSA がトラックモードになっている必要があります(スタックアシストモードのときは停止できません)。
VSA OFF スイッチを押すとブザーが鳴り、そのまま押し続けるともう一度ブザーが鳴り VSA が OFF モードになります。

▶ マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



VSA の機能を復帰させるには、VSA OFF スイッチを押します。ブザーが鳴り VSA がトラックモードになります。

▶ マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

VSAがOFFモードのときにインテグレーテッドダイナミクスシステムを TRACK モード以外にすると、VSA の機能が完全に復帰し、VSA OFF 警告灯が消灯します。

アジャイルハンドリングアシスト

運転者のハンドル操作に応じて、4 輪それぞれに軽いブレーキをかけることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能とするシステムです。

アジャイルハンドリングアシスト

アジャイルハンドリングアシストはすべての走行条件で安定性を向上させるものではありません。
安全のために、カーブ走行時は状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとって走行してください。

走行中に VSA 警告灯が点灯したままのときは、アジャイルハンドリングアシストが作動しません。

アジャイルハンドリングアシスト作動中に、車両前方から音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

SH-AWD 四輪駆動力自在制御システム

SH-AWD 四輪駆動力自在制御システムとは、運転状況に合わせて、エンジンやモーターの駆動力を制御して各車輪に伝達します。

SH-AWD 四輪駆動力自在制御システムは、滑りやすい路面において、2WD 車(二輪駆動車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

SH-AWD 四輪駆動力自在制御システム

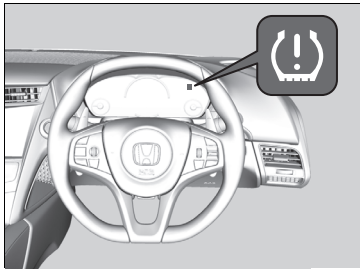
冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、SH-AWD 四輪駆動力自在制御システムが正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

タイヤの点検 P.232

タイヤ空気圧警報システム(TPMS)



タイヤ空気圧警報システムとは、走行中にタイヤの空気圧を監視するシステムです。空気圧が著しく下がっている場合は、タイヤ空気圧警報システム警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

タイヤ空気圧警報システム(TPMS)

タイヤ空気圧警報システムが正常に機能しないことがあるので、タイヤを交換する場合は、指定サイズ、同一種類のタイヤを使用してください。

➡ **タイヤとホイールの交換** P.234

外気温が低いときや気圧の変化があるようなタイヤの空気圧に直接影響がある状況によっては、タイヤ空気圧警報システム警告灯が点灯する場合があります。

➡ **タイヤ空気圧警報システム警告灯が点灯 / 点滅した** P.277

タイヤ空気圧の変化について：

- 気温が高くなると、空気圧は高くなります
- 気温が低くなると、空気圧は低くなります

タイヤ空気圧警報システム警告灯は、指定より高い空気圧になっても点灯しません。

専用のタイヤ空気圧警報システムセンサーを装備したホイールを使用していますので、純正ホイールを使用してください。
タイヤ空気圧警報システムセンサーを装着せずに一定時間走行すると、タイヤ空気圧警報システム警告灯が約1分間点滅した後に点灯します。

➡ **タイヤとホイールの交換** P.234

次ページに続く

■タイヤ空気圧警報モニター



タイヤ空気圧モニターを表示するには、パワーシステムを起動し、タイヤ空気圧画面が表示されるまで、インフォメーション（ⓘ）ホイールを回してください。



空気圧が著しく下がっている場合は、「タイヤの空気圧が低下しています」がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、該当するタイヤが表示されます。



高速で走行しているときに「高速走行するにはタイヤ空気圧が不十分です」がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、該当するタイヤが表示されることがあります。

▶ 表示が消えるまで速度を落としてください。

タイヤ空気圧警報モニター

マルチインフォメーションディスプレイに表示された空気圧は、空気圧測定器で測定した数値と異なることがあります。
測定した空気圧と表示された空気圧が極端に異なるときや指定空気圧になるまで空気を注入してもタイヤ空気圧警報システム警告灯とマルチインフォメーションディスプレイに表示されたメッセージが消えないときは、故障のおそれがあります。
Honda 指定販売店で点検を受けてください。
システムに異常があると、タイヤ空気圧警報システム点検がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

高電圧バッテリーの特性

長期間駐車をすると、高電圧バッテリーは少しずつ放電をします。
長期間走行をしないと、高電圧バッテリー充電容量が低下したり、寿命が縮む原因となります。

バッテリーの性能を維持するために、少なくとも 3ヶ月に一度、30 分以上走行をしてください。走行によりバッテリーに充電されます。
バッテリーの寿命を長くするために、夏場は日陰への駐車をおすすめします。

➔ **保管** P.247

ブレーキシステム

■電子制御パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。自動での解除および手動での操作ができます。

■手動で操作するとき

パーキングブレーキスイッチの操作で、パーキングブレーキをかけたり解除したりできます。

急な下り坂の発進時などに、手動でパーキングブレーキを解除すると、スムーズな発進を行うことができます。



■手動でパーキングブレーキをかける

パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げてください。

▶パーキングブレーキが作動すると、電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が点灯します。



■手動でパーキングブレーキを解除する

1. パワーモードがONモードのときに、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. パーキングブレーキスイッチを押す。

▶パーキングブレーキが解除され、電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が消灯します。

»ブレーキシステム

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキ装置の作動のため、モーター音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

»電子制御パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけたり解除したときに作動音が聞こえます。
これはブレーキシステムが作動している音で異常ではありません。

パーキングブレーキをかけたり、解除するとブレーキペダルが動くことがあります。
これはブレーキシステムの作動によるもので異常ではありません。

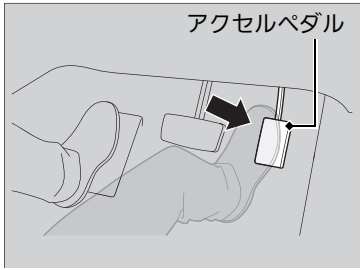
12V バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキをかけたり、解除することはできません。
➔ ジャンプスタート P.269

走行中にパーキングブレーキスイッチを引き続けている間、4輪すべてにブレーキがかかります。
車両が停止するとパーキングブレーキがかかります。

10 分以上オートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で停車していると、自動でパーキングブレーキがかかります。

■自動解除するとき

アクセルペダルの操作とパーキングブレーキの解除が連動します。
渋滞や上り坂での発進に便利です。



アクセルペダルをゆっくりと踏んでください。

▶パーキングブレーキが解除され、電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が消灯します。

パーキングブレーキの自動解除は、次の条件が揃ったときに行えます。

- 運転席シートベルトを着用しているとき
- パワーシステムが起動しているとき
- シフトポジションが P、N以外のとき

»電子制御パーキングブレーキ

オートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でシートベルトを外したとき、自動でパーキングブレーキがかかります。

オートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でパワーモードを OFF モードにしたとき、自動でパーキングブレーキがかかります。

パーキングブレーキを自動で解除できないときは、手動で解除してください。

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できません。

- PGM-FI 警告灯
- トランスミッション警告灯

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。

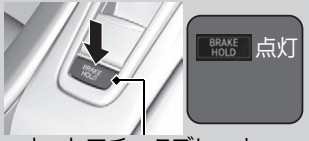
- 電子制御パーキングブレーキシステム警告灯
- VSA 警告灯
- ABS 警告灯
- エアバッグシステム警告灯

次ページに続く

■オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくても、自動的にブレーキを保持する機能です。保持中にアクセルペダルを操作すると、自動でブレーキが解除され発進することができます。信号待ちなどの一時的に停止したいときの使用に適しています。

■機能を ON させるには

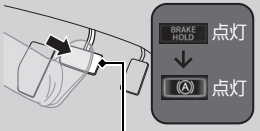


オートマチックブレーキホールドスイッチ

シートベルトを着用し、パワーシステムを起動してからオートマチックブレーキホールドスイッチを押す。

- オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が点灯し、機能がONになります。

■ブレーキを保持させるには

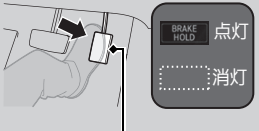


ブレーキペダル

シフトポジションがP R以外のときにブレーキペダルを踏んで停車する。

- オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯し、自動でブレーキが10分間保持されます。
- オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯後、ブレーキペダルから足を離してください。

■車両を発進させるには



アクセルペダル

シフトポジションがD/Mのときにアクセルペダルを踏むと機能が解除し、発進します。

- オートマチックブレーキホールド表示灯が消灯し、自動でブレーキが解除されます。

オートマチックブレーキホールド

⚠警告

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

駐車をする目的でオートマチックブレーキホールドを作動させない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールドシステム作動中は絶対に車から離れないでください。駐車する際はシフトポジションをPにしてパーキングブレーキをかけてください。

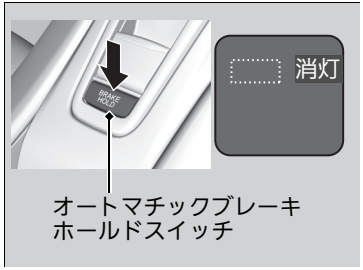
■オートマチックブレーキホールドが自動的に解除されるとき

- シフトポジションがPもしくはRで、ブレーキペダルを踏んでいるとき
- パーキングブレーキスイッチを引いたとき

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動した後、オートマチックブレーキホールドシステムによるブレーキ保持が解除されます。

- 10 分以上ブレーキを保持したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

■機能を OFF させるには



機能がONのときにオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

▶オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が消灯します。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯中にOFFにしたいときは、ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

次ページに続く

オートマチックブレーキホールド

⚠警告

オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

システムが作動していても通常と同じ手順でパワーシステムの停止が行えます。

➡ **駐停車操作** P.199

パワーシステムを停止すると、システムは自動的に OFF になります。

自動洗車機を使用するときは、システムが OFF になっていることを確認してください。

ブレーキ保持中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を強めるために作動音が発生する場合があります。

■フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

➔ **電子制御ブレーキアシスト** P.198

また、ブレーキのロックを防止する ABS（アンチロックブレーキシステム）で、安全性の向上を図っています。

➔ **ABS（アンチロックブレーキシステム）** P.197

カーボンセラミックブレーキ非装備車

■ブレーキ鳴き

ブレーキをかけた時、ブレーキの鳴きが発生する事がありますが、高性能ブレーキシステムの特徴であり、故障ではありません。

≫フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

カーボンセラミックブレーキ非装備車

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

Honda 指定販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。

アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンブレーキが強くなります。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。
なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯
パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

⩺ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。
➔ **タイヤとホイールの交換** P.234

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。
通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。
ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。
ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、過信せず安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

ブレーキアシストが作動すると、作動音が聞こえることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➔ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.182

駐車する

1. シフトポジションは D/M のまま、ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
3. シフトポジションを P にする。
4. パワーシステムを停止する。
▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。

インテグレーテッドダイナミクスシステムが QUIET モードまたは SPORT モードのとき

自動でエンジンが停止しているときに以下の条件でシフトポジションが P になり、自動的にエンジンが再始動します。

- 運転席のシートベルトを外してドアを開けたとき。

次ページに続く

駐停車操作

⚠注意

駐車時はパワーシステムを停止する。
万一、シフトポジションが P N 以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で P N 以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

車が完全に止まらないうちに P に入れないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

仮眠するときは、パワーシステムを停止してください。
▶ 無意識にシフトポジションを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐車する

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

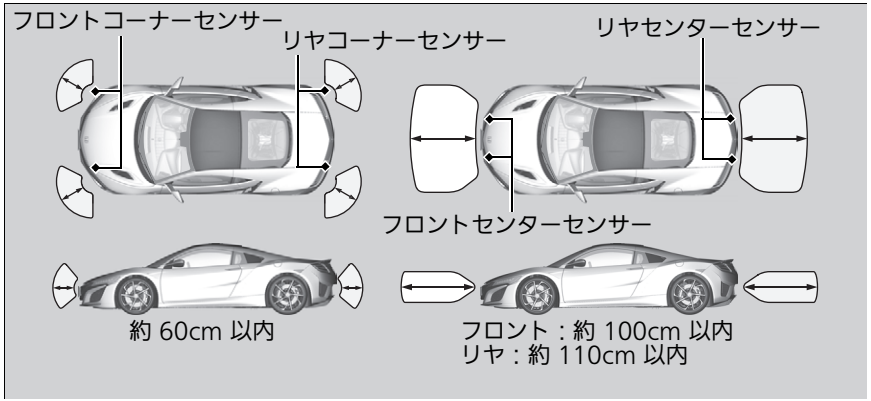
車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。
車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

パーキングセンサーシステム

車両前方のフロントセンターセンサーおよびフロントコーナーセンサーと車両後方のリヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離をブザーとオーディオインフォメーション画面で知らせます。

■パーキングセンサーの取付位置と検知範囲



パーキングセンサーシステム

駐車する前に車両の廻りに障害物がないことを確認してください。

次のようなときは、システムが正常に働かないことがあります。

- センサーが雪、氷、泥などで覆われているとき
- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 近くに超音波を発する電子機器があるとき
- 悪天候のとき

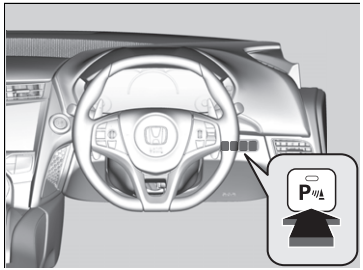
次のようなときは、システムが検知できないことがあります。

- 障害物が薄いとき、または低いとき
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- バンパーの真下に障害物があるとき

センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

次ページに続く

■パーキングセンサーの ON と OFF



パワーモードがONモードのときに、パーキングセンサーシステムスイッチを押して、システムの ON と OFF を切り換えます。
パーキングセンサーシステムをONにしたとき、スイッチのインジケーターが点灯します。

リヤセンサーは、シフトポジションが R で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。

フロントセンサーは、シフトポジションが P 以外で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。

パーキングセンサーの ON と OFF

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

■障害物を検知したときの作動状態

ブザー音の間隔	障害物との距離		インジケーター	オーディオ インフォメーション画面
	コーナーセンサー	センターセンサー		
長い	—	フロント：約 100-60 cm リヤ：約 110-60 cm	点滅（イエロー）※	
短い	約 60-45 cm	約 60-45 cm	点滅（オレンジ）	
非常に短い	約 45-35 cm	約 45-35 cm		
連続	約 35 cm 以下	約 35 cm 以下	点滅（レッド）	

※：このときは、センターセンサーのみが障害物を検知します。

次ページに続く

■リヤセンサーの OFF

1. パーキングセンサーシステムが OFF になっていることを確認する。パワーモードを OFF モードにする。
2. パーキングセンサーシステムスイッチを押しながら、パワーモードを ON モードにする。
3. パーキングセンサーシステムスイッチを 10 秒間押し続け、スイッチのインジケーターが点滅したら手を離す。
4. 再度パーキングセンサーシステムスイッチを押すと、スイッチのインジケーターが消える。
▶ ブザーが 2 回鳴り、リヤセンサーが OFF になります。

リヤセンサーを再度ONにするときは、上記の手順を行ってください。センサーが ON になると、ブザーが 3 回鳴ります。

リヤセンサーの OFF

シフトポジションが R のとき、パーキングセンサーシステムスイッチのインジケーターが点滅し、リヤセンサーが OFF になっていることを知らせます。

リヤカメラシステム

リヤカメラの取り扱いについては、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

指定燃料について

■指定燃料

無鉛プレミアムガソリン
プレミアムバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量

59 リットル

▶指定燃料について

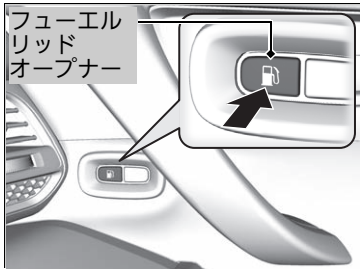
指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油など)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンが入手できない場合には、一時的にレギュラーガソリンをお使いになることもできますが、この場合エンジン性能を十分に発揮できません。またエンジン始動時やアクセルペダルを踏み込んだときに、異音が聞こえることがあります。無鉛レギュラーガソリンの長期使用はエンジン破損に結びつく場合があります。

給油のしかた

給油口にフューエルキャップがない燃料タンクです。フューエルリッドを開けて、給油ノズルを直接差し込むことにより給油することができます。給油ノズルを引き抜くと、給油口が密閉します。



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. シフトポジションを[P]にする。
3. パワーシステムを停止させる。
4. 運転席ドアにあるフューエルリッドオープナーを押してフューエルリッドを開ける。

給油のしかた

⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。
- パワーシステムは常に止める
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

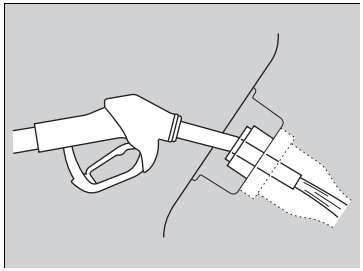
⚠警告

燃料補給作業は、フューエルリッドを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。
静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

燃料蒸気を吸わないでください。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

次ページに続く



5. 給油ノズルをゆっくりとしっかり奥まで差し込み、給油する。
▶給油中はノズルを動かさないでください。
6. 給油ノズルの自動停止後、約5秒待ってから給油ノズルを抜く。
7. フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉める。

給油のしかた

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

フューエルリッドが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

携行缶を使って給油しなければならない場合は、工具セットに添えつけの給油用じょうごをお使いください。
携行缶から給油するとき P.289

ターボ車について

取り扱い

ターボ装置は、排気ガスの圧力でタービンを回してエンジンに大量の空気を圧縮して送り込み、より大きな馬力を引き出す非常に精密に作られた装置です。
ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

- **エンジン始動直後のエンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速はしない**

- **エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期を必ず守る**
  タービンは毎分 10 万回転以上の高回転で回り、かつ 700 ℃以上の高温になります。その潤滑と冷却はエンジンオイルにより行われます。したがって、定められた距離または期間でエンジンオイル、オイルフィルターの交換を行わないと、劣化したエンジンオイルによりタービン軸受部の固着や異音の発生など、故障の原因になります。

»ターボ車について

エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示にしたがって交換を行ってください。
➔ **オイルモニターシステム** P.213
➔ **推奨エンジンオイル** P.222

高速走行や山道走行などの高負荷で走行したあと、エンジンを再始動すると水温計の針が H の目盛まで上がることがありますが、機能的に問題はありません。
約1分間アイドリング運転を行うか、走行すると水温計の針は下がります。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に
- 点検整備について 211
- メンテナンスを安全に行うために 212
- メンテナンスに関する注意事項..... 212

オイルモニターシステム
- オイルモニターシステムの表示..... 213

ハッチ / ボンネット内のメンテナンス
- ハッチ / ボンネット内のメンテナンス項目....217
- ハッチを開ける 219
- ボンネットを開ける 220
- エンジンルームカバーの取り外し 221
- 推奨エンジンオイル..... 222
- エンジンオイル量の点検 223
- エンジンオイルの補充 226
- ウィンドウォッシャー液の補給..... 226

電球の交換..... 227

ワイパーブレードラバーの点検と整備 229

タイヤの点検と整備
- タイヤの点検 232
- タイヤとホイールの交換 234
- タイヤのローテーション 235
- 冬期のタイヤ 236

Honda スマートキー
- Honda スマートキーの取り扱いと電池交換..... 237

エアコンのお手入れ
- エアクリーンフィルター 239

清掃
- 車内の清掃 240
- 車外の清掃 242

アクセサリーと改造
- アクセサリー 245
- 改造や部品交換について 245

保管
- 車両の保管 247

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 指定販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■点検整備の種類

■日常点検
長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検
12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は Honda 指定販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- ハッチ / ボンネット内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
  ▶ エンジンをかけるときは必ず十分な換気を行ってください。

■車についての安全事項

- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
  ▶ 指示されたとき以外は、パワーモードを OFF モードにして作業してください。ONモードでは、ガソリンエンジンが自動的に動きだしたり、エンジン停止中でも冷却ファンが回りだすことがあります。

メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

メンテナンスを安全に行うために

⚠警告

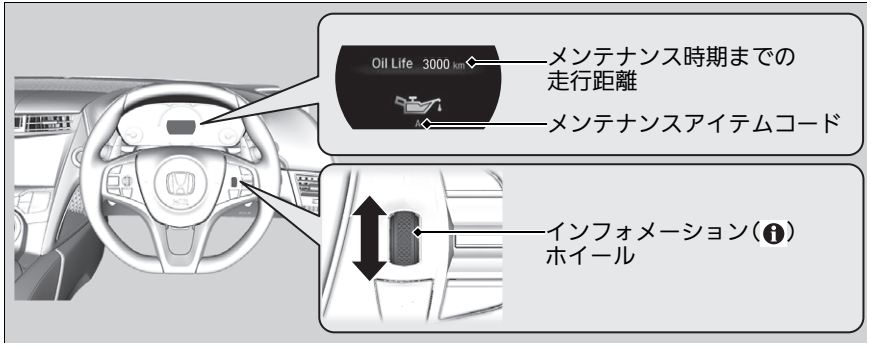
適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、この取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、この取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

メンテナンスが必要な場合は、パワーモードをONモードにするたびにオイルモニターシステムのメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。メッセージが表示されたときは、Honda 指定販売店でメンテナンスを受けてください。

オイルモニターシステムの表示

パワーモードを ON モードにし、オイルモニターシステム情報画面が表示されるまで、インフォメーション（ⓘ）ホイールを回してください。



オイルモニターシステムの表示

エンジンの運転状態とエンジンオイルの状態をもとに、次のメンテナンス時期までの残距離を計算しています。

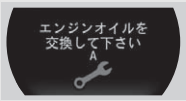
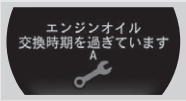
走行条件によっては、表示された残距離より実際の走行距離は短くなる場合があります。

メンテナンスアイテムコードは、以下の項目についてのメンテナンスを指しています。
A：エンジンオイル交換
B：エンジンオイル、オイルフィルター交換

残距離表示が十分残っていても、前回のオイル交換から1年が経過していたら、メンテナンスを実施してください。詳しくはメンテナンスノートを確認してください。

次ページに続く

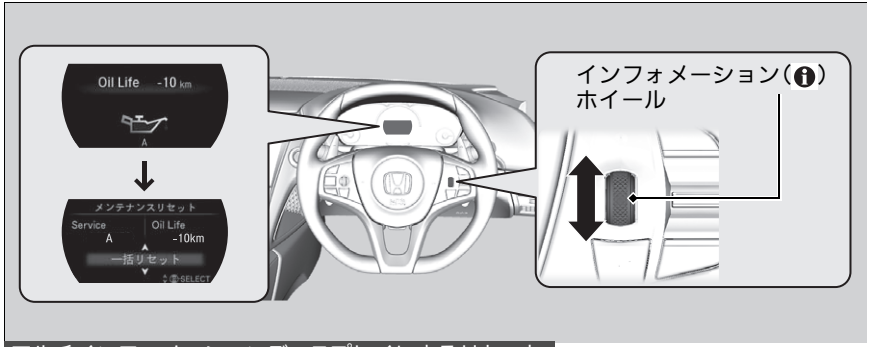
■マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージとオイルモニターシステム情報

警告表示	オイルモニターシステム情報	説明	情報
		メンテナンス時期までの走行距離が 1,500km 未満になったとき	メンテナンス時期が近くなっています。
		メンテナンス時期までの走行距離が 500km 未満になったとき	できるだけ早めにメンテナンスを受けてください。
		メンテナンス時期を過ぎている項目があるとき	メンテナンス時期を過ぎています。メンテナンスを受けたら、オイルモニターシステムをリセットしてください。

インフォメーション表示灯(ⓘ)が警告表示と同時に点灯します。

■リセットのしかた

メンテナンスを行った後は、オイルモニターシステムの表示をリセットします。



マルチインフォメーションディスプレイによるリセット

1. パワーモードを ON にする。
2. インフォメーション(i)ホイールを回し、オイルモニターシステム情報画面を表示する。
3. 全てのドアを閉め、インフォメーション(i)ホイールを 10 秒間押し続ける。
▶ オイルモニターシステム情報リセット画面が表示されます。
4. インフォメーション(i)ホイールを回し、「一括リセット」を選択する。
5. インフォメーション(i)ホイールを押す。
▶ メンテナンスアイテムコードと残距離表示がリセットされます。
▶ キャンセルするときは、インフォメーション(i)ホイールを回して「キャンセル」を選択し、インフォメーション(i)ホイールを押します。

次ページに続く

リセットのしかた

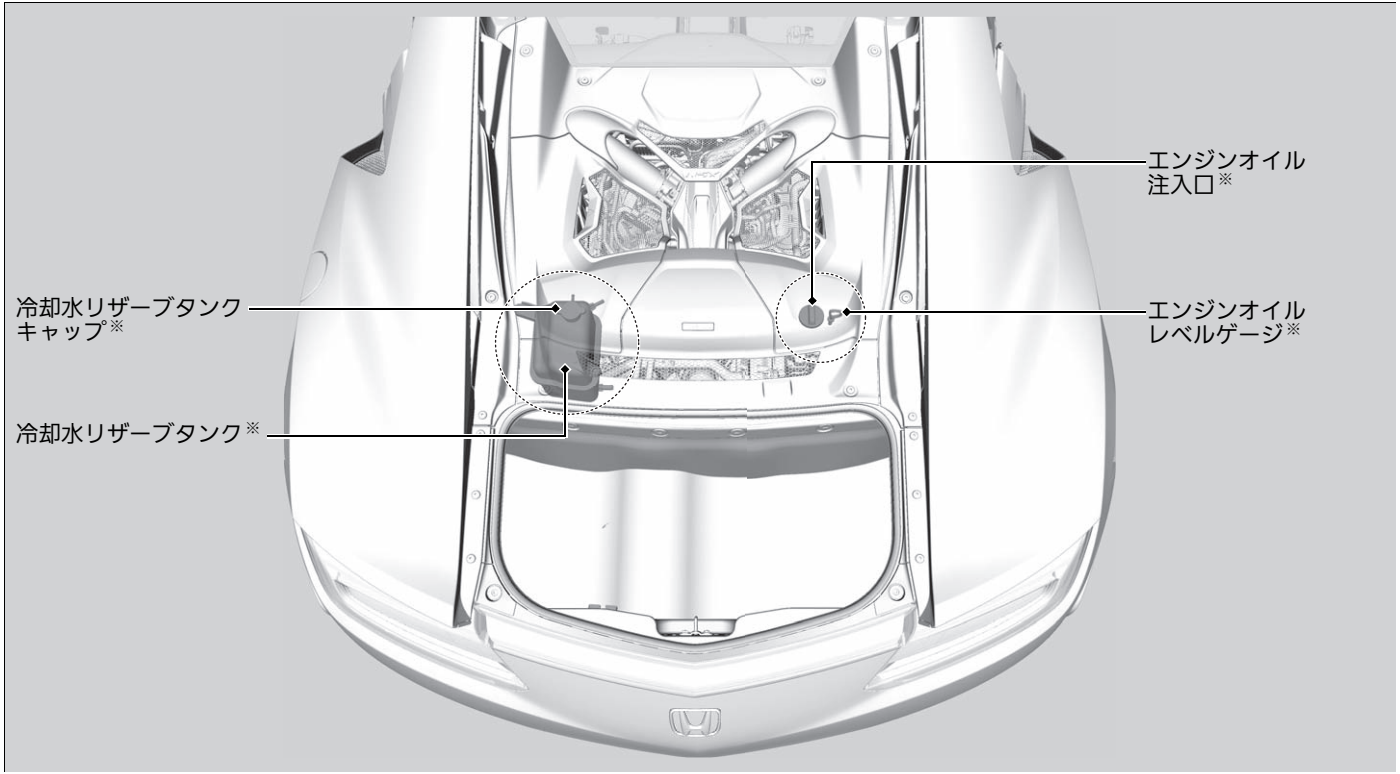
アドバイス

メンテナンス後にオイルモニターシステムをリセットしないと、メンテナンス時期を正しくお知らせできないため、故障につながる可能性があります。

オーディオインフォメーション画面によるリセット

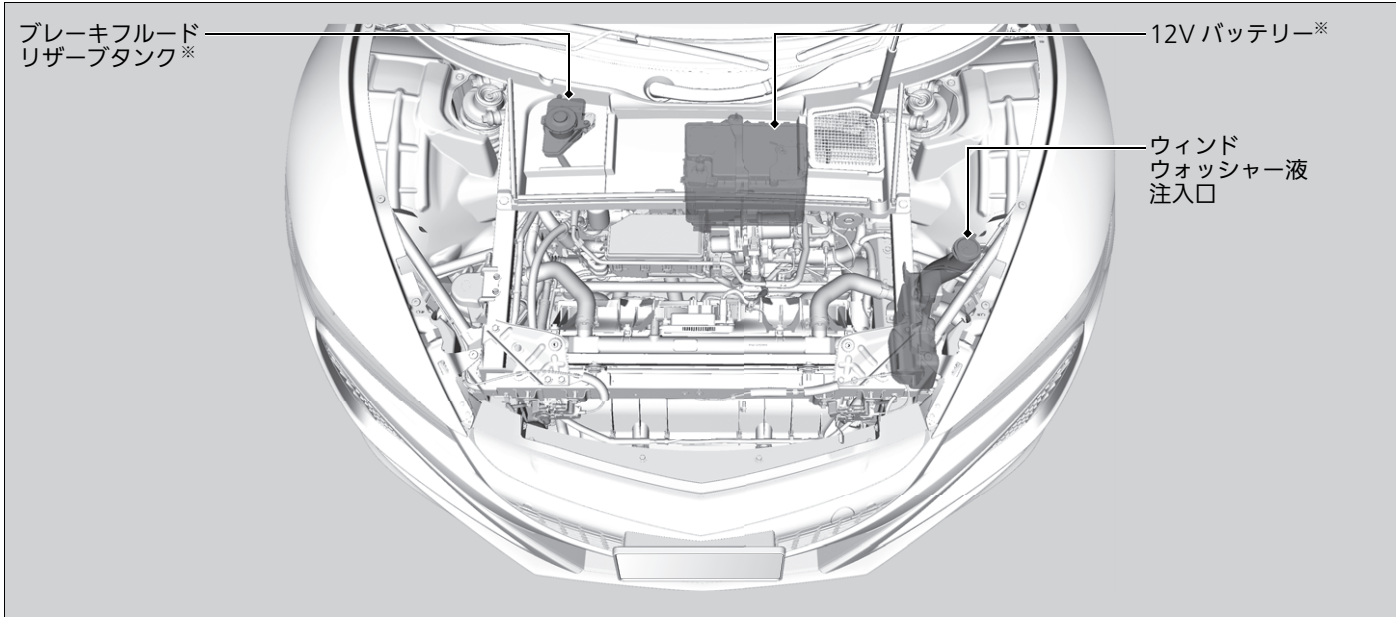
1. パワーモードを ON にする。
2. HOME 画面で「設定」を選択する。
3. 「車両設定」を選択し、「メンテナンスリセット」を選択する。
4. 「リセット」を選択する。
▶ メンテナンスアイテムコードと残距離表示がリセットされます。
▶ キャンセルするときは「キャンセル」を選択します。

ハッチ / ボンネット内のメンテナンス項目



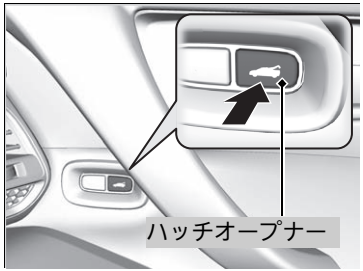
※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

次ページに続く



※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ハッチを開ける



1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席ドアにある、ハッチオープナーを押す。
▶ハッチが解錠され浮き上がります。



3. ハッチを開ける。

閉めるときは、ハッチを静かに下げて、手で押さえつけるように閉めます。

ハッチを開ける

⚠注意

ハッチを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

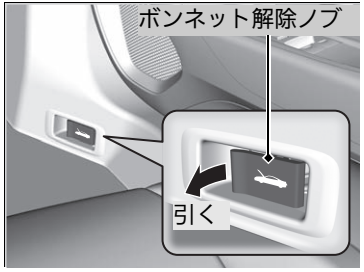
アドバイス

ハッチを閉めたときは、ハッチが確実にロックされていることを確認してください。

ハッチは、スマートスイッチでも開けることができます。

➔ **ハッチの開閉** P.101

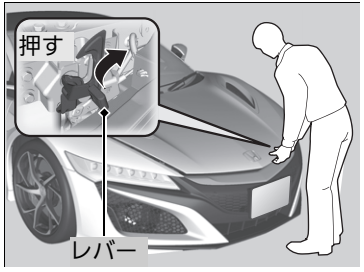
ボンネットを開ける



1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。

2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。

▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット左側のレバーを押しロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



閉めるときは、ボンネットを下げ、ボンネット左右前端のロック部を手でおさえつけるように閉めます。

▶ ボンネットを閉めたときは、左右のロック機構が確実にロックされていることを確認してください。

▶▶ボンネットを開ける

⚠注意

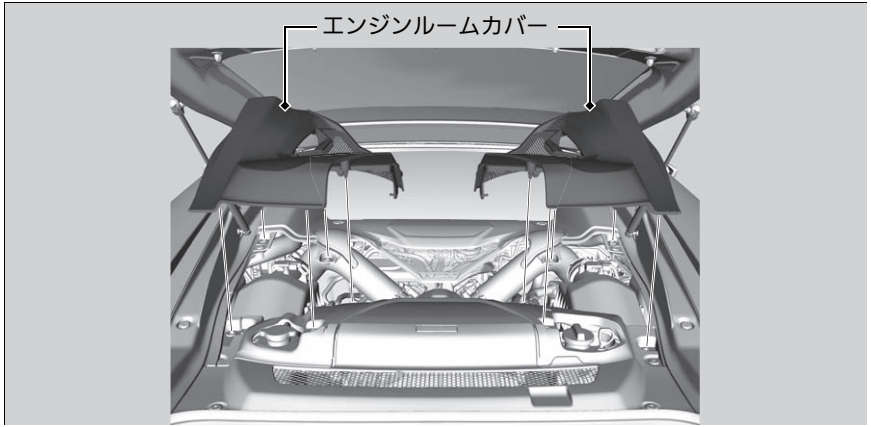
ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。
ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、左右のロック機構が確実にロックされていることを確認してください。

エンジンルームカバーの取り外し

エンジンルーム内にカバーがついています。メンテナンスを行う際に、カバーを取り外すことがあります。
取り外すには、エンジンルームカバーを上に持ち上げて、エンジンルームから引き抜きます。

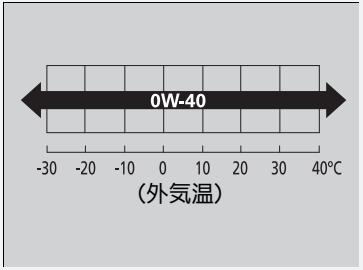


推奨エンジンオイル

エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。

推奨エンジンオイル：
エクソンモービル　Mobil 1 0W-40

推奨エンジンオイル



冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

エンジンオイル量の点検

点検時期の目安としては長距離走行前や洗車時、給油時などに実施します。



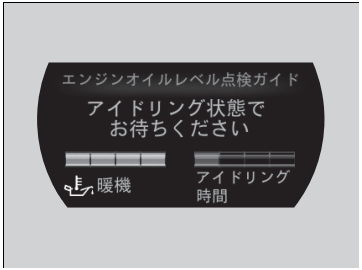
1. マルチインフォメーションディスプレイに「エンジンオイルレベル点検ガイド」画面を表示させます。

マルチインフォメーションディスプレイ
P.84



2. 「エンジンオイルレベル点検ガイド」画面の「暖気」バーグラフがいっぱいになるまで暖気を行います。

3. 「暖気」バーグラフが緑色に点灯したら、水平な場所に停車し、シフトポジションを[P]にします。



4. 「エンジンオイルレベル点検ガイド」画面の「アイドリング時間」バーグラフがいっぱいになるまでアイドリングを継続します。

▶「アイドリング時間」中にアクセルペダルを踏むと、「アイドリング時間」がリセットされるため、アクセルペダルを踏まないでください。

次ページに続く

エンジンオイル量の点検

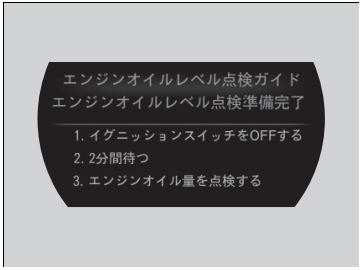
アドバイス

「エンジンオイルレベル点検ガイド」が完了するまで、ドアやハッチを開けないでください。

ドアやハッチ(トランク)が閉まっていないメッセージ表示が優先されるため、「エンジンオイルレベル点検ガイド」画面が表示されません。

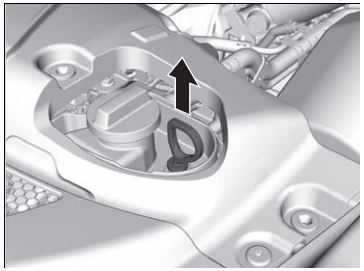


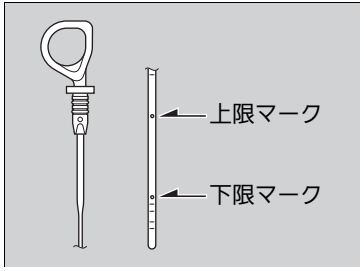
5. 「アイドリング時間」バーグラフがいっぱいになると、「エンジンオイルレベル点検準備完了」画面が表示されます。



6. マルチインフォメーションディスプレイの表示を「エンジンオイルレベル点検ガイド」画面以外の画面にしてください。
マルチインフォメーションディスプレイ P.84

7. パワーモードを OFF モードにしてください。





8. ハッチを開けます。
➡ **ハッチを開ける** P.219

9. 右側のエンジンルームカバーを取り外します。
➡ **エンジンルームカバーの取り外し** P.221

10. エンジンオイルレベルゲージ(オレンジ)を引き抜きます。

11. エンジンオイルレベルゲージをきれいな布やペーパータオルで拭きます。

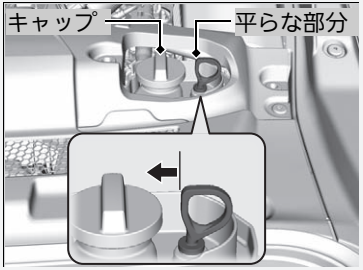
12. もう一度、エンジンオイルレベルゲージをしっかりと差し込みます。

13. エンジンオイルレベルゲージを引き抜いて、エンジンオイルが上限マークと下限マークの間にあることを確認します。
▶ エンジンオイル量の確認は、パワーモードをOFFモードにしてから2分後に行ってください。
▶ 必要に応じてエンジンオイルを補給します。
▶ エンジンオイルの補給を行った場合は、手順 1 から 13 を再度実施してください。

14. オイルチェックが完了したら、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「エンジンオイルレベル点検ガイド」以外になっていることを確認してください。
➡ **マルチインフォメーションディスプレイ** P.84

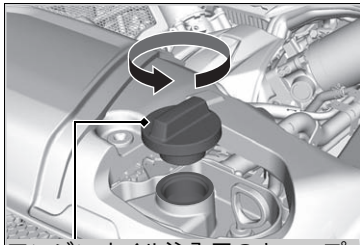
エンジンオイル量の点検

エンジンオイルレベルゲージは、差し込み方向が決まっています。エンジンオイルレベルゲージハンドルの平らな部分を、エンジンオイル注入口のキャップ側にして差し込んで下さい。



エンジンオイル消費量は、運転、気候、道路などの状況で異なります。エンジンオイル消費の割合は、1,000kmあたり最大で1リットルです。エンジンが新しい場合、消費量が多い傾向にあります。

エンジンオイルの補充


エンジンオイル注入口のキャップ

1. エンジンオイル注入口のキャップを回して外します。
2. エンジンオイルをゆっくりと入れてください。
3. エンジンオイル注入口のキャップを取り付け、しっかりと閉めてください。
4. エンジンオイル量の点検を再度実施してください。

エンジンオイル量の点検 P.223

ウィンドウォッシャー液の補給

ウィンドウォッシャー液が少なくなると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

エンジンオイルの補充

アドバイス

エンジンオイルは、エンジンオイルレベルゲージの上限マークより上には入れないでください。

エンジンオイルの入れすぎは、エンジンオイル漏れやエンジン損傷につながるおそれがあります。

エンジンオイルなどをこぼしたときは、すぐに拭き取ってください。エンジンルームの部品を損傷するおそれがあります。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

ロービームヘッドライト、ハイビームヘッドライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 指定販売店に依頼してください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯、車幅灯電球

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯、車幅灯はLEDを使用しています。点検、交換は Honda 指定販売店に依頼してください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 指定販売店に依頼してください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 指定販売店に依頼してください。

制動灯 / 尾灯電球

制動灯 / 尾灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda指定販売店に依頼してください。

尾灯電球

尾灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda指定販売店に依頼してください。

後退灯電球

後退灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda指定販売店に依頼してください。

番号灯電球

番号灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda指定販売店に依頼してください。

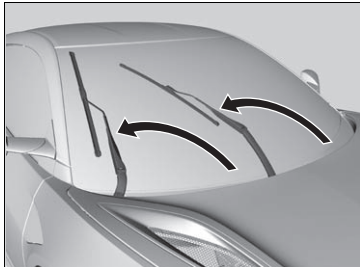
ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda指定販売店に依頼してください。

ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、フロントガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

ワイパーブレードラバーの交換





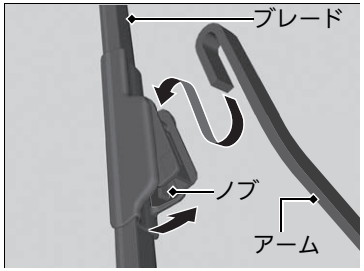
1. パワーモードを OFF モードにする。
2. ワイパースイッチのレバーを**MIST**の位置に押し上げたまま、パワーモードを ON モードにし、すぐにパワーモードを OFF モードにする。
   ▶両方のワイパーアームが、ワイパーメンテナンスポジションにセットされます。
3. 両方のワイパーアームを起こす。

»ワイパーブレードラバーの交換

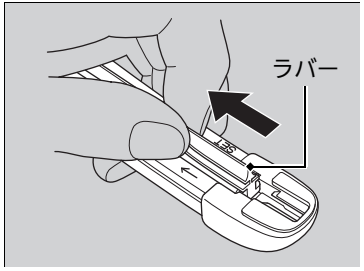
アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

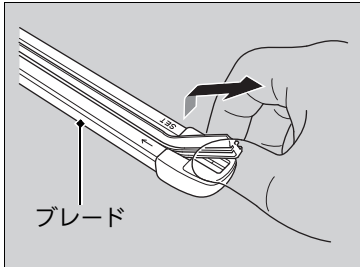
次ページに続く



4. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。



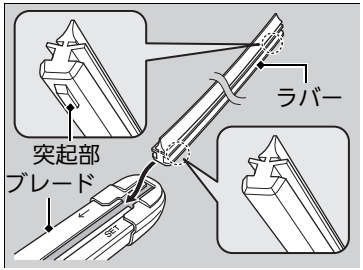
5. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。



ワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



6. ラバーを突起部のない側を下にしてブレードに沿って差し込む。
▶ブレードをワイパーアームに取り付け、ラバーの突起部がブレード先端の溝に挿入されるまで差し込み、確実に固定します。
7. 両方のワイパーアームを戻す。
8. パワーモードを ON モードにする。
9. ワイパースイッチのレバーを**MIST**の位置に押し上げて、両方のワイパーアームを通常の位置に戻す。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

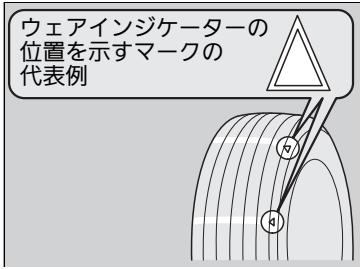
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

➡ **仕様** P.292

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター（摩耗限界表示）

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

この取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての 4 つのタイヤを交換することをお奨めします。

専用のタイヤ空気圧警報システムセンサーを装備したホイールを使用していますので、純正ホイールを使用してください。
タイヤやホイールを交換するときは、付け替えたホイールにタイヤ空気圧警報システムセンサーを装着してください。
センサー装着に関しては Honda 指定販売店にご相談ください。

タイヤとホイールの交換

⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

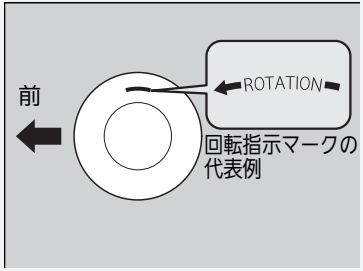
タイヤのローテーション

前後輪で、タイヤサイズが異なり、回転方向が指定されています。

この車はタイヤローテーションできません。

タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。
図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



締め付けトルク
170 N・m (17.3 kgf・m)

冬期のタイヤ

■スノータイヤ

指定の Honda 販売店にご相談ください。

■タイヤチェーン

タイヤチェーンは使用できません。
タイヤチェーンを使用すると、ボディやサスペンション、ブレーキ配管などを破損するおそれがあります。

冬期のタイヤ

純正タイヤはハイグリップタイヤを装備しています。
外気温度が約7℃以下のときは、制動力の低下など本来の性能を発揮できません。

外気温が -20 ℃以下のときは純正タイヤを使用しない。
タイヤの表面(トレッド)に、ヒビ割れなど損傷を負う可能性があります。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■取り扱いについて

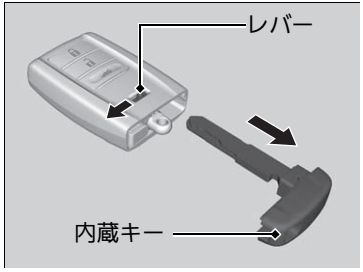
Honda スマートキーの取り扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信器を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

■電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

■Honda スマートキー



ボタン電池 CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。

取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 指定販売店へご連絡ください。

電池交換のしかた

⚠注意

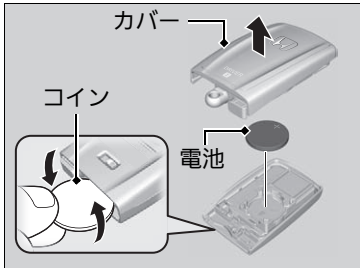
電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。
飲み込むと傷害を受けるおそれがあります。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda 指定販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 指定販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

次ページに続く



2. カバーを外す。
▶ カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。

3. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。

エアクリーンフィルター

■エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。
粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

エアクリーンフィルター

芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。
フィルター交換は、Honda 指定販売店にご相談ください。

アレルフリー高性能脱臭フィルターは、空気中の花粉・粉じんを集じんし、アレルゲンを処理、排気ガス臭も低減します。

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

■シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

≫車内の清掃

室内に水をかけないでください。
オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 指定販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

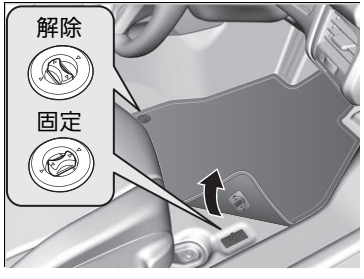
ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■フロアマット



フロアマットが前方にずれるのを防止するため、フロアアンカーで確実に固定してください。
掃除のときなどにフロアマットを外すときは、フロアアンカーのノブを解除の位置に回します。取り付けるときは、ノブを固定の位置に回します。

フロアアンカーで固定されているフロアマットの上に、他のフロアマットを重ねないでください。

■本革のお手入れ

本革シートなどは、ウール用中性洗剤の 10% 水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布で洗剤分を拭き取り、風通しをよくして乾燥させます。濃色のデニムなど、衣類の染料が本革に移ってしまうことがあります。
汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

■カーボンファイバー* のお手入れ

メーターバイザーとハンドルにカーボンファイバーを使用しています。カーボンファイバーに研磨剤は使用しないでください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ガラスのお手入れ

ハッチガラスは、ガラスの内側に電熱線やアンテナ線が装着されています。
傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

フロアマット

他のフロアマットをご使用の際は、フロアアンカーでしっかりと固定できるものをご使用ください。

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。
飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。
以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

■自動洗車機を使うとき

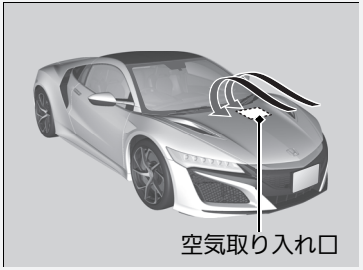
自動洗車機を使用することはできません。

■高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
  ▶ 近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- エンジンルームには水をかけない

≫車外の清掃

故意に空気取り入れ口に水をかけないでください。
故障の原因になります。



フューエルリッドを開けた状態で、給油口に水をかけないでください。
燃料システムもしくはエンジンを損傷する可能性があります。

■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面温度が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 指定販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

次ページに続く

■アルミホイールのお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、柔らかい布やスポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。
洗車後は、水が乾かないうちに拭きとってください。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。
これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は Honda 指定販売店で点検を受けてください。

■カーボンセラミックブレーキ*

制動力を低下させるおそれがある為、ブレーキパッドとローターを研磨剤や油脂類にさらさないでください。
ブレーキのメンテナンスは、特別な知識が必要です。ブレーキのメンテナンスは Honda 指定販売店にご相談ください。

▶アルミホイールのお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換は、Honda 指定販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。
変色やしみ、光沢の変化の原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
  ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響を及ぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

次ページに続く

≫改造や部品交換について

⚠警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

⚠警告

高電圧バッテリーは、純正品の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用した場合、過充電や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 指定販売店にご相談ください。
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

改造や部品交換について

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。
純正部品には下記のマークが付いています。



お求め、装着に際しては、Honda 指定販売店にご相談ください。

車両の保管

車両を長期間(1 か月以上)に渡って駐車する場合、保管の準備が必要です。この手順を踏むことで車両状態やその構成部品の劣化を減らし、最短で運転再開できる手助けになります。実際に行っていただく準備には以下のものがあります :

- 可能であれば、車庫または密閉された場所に車両を保管してください。
- 燃料を満タンまで給油してください。
- エンジンオイルとエンジンオイルフィルターを交換してください。
- 洗車をし、完全に乾かしてください。
- 車内を清掃してください。カーペットやマットが完全に乾いていることを確認してください。
- シフトポジションを P にしてください。
  パーキングブレーキを解除してください。
- いずれか一箇所の窓を少し開けておいてください。(屋内で保管する場合)
- 12V バッテリーの状態保持のため、自動車用充電器に繋いでください。12V バッテリーの保持方法について、詳しくは Honda 指定販売店にご相談ください。
- さらに長期間に渡り車両を保管する予定があるときは、タイヤのフラットスポット予防のため、ジャッキスタンドを使用しタイヤが接地しないようにしてください。

  ジャッキの取り扱い P.262
- 折り重ねたタオルまたは布切れを挟み、ワイパーアームとフロントガラスが接しないようにしてください。
- コットンなどの多孔性素材でできた、通気性の良いカバーで車両を覆ってください。多孔性でない素材(プラスチックシート等)は水分を閉じ込める可能性があり、車の塗装を傷める恐れがあります。

次ページに続く

- 可能であれば、定期的に車両を車庫または密閉された保管場所から出し、カバーを取り除いて、エンジンがフル稼働の温度に達するまで(冷却ファンがオン、オフを 2 回繰り返すまで)回してください。
  この作業を月に一度は行っていただくことをおすすめします。
- 高電圧バッテリーの保持のため、最低でも 3 か月に一度、30 分以上の運転を行ってください。

路面状況が運転するのに不適切または望ましくない場合に、お住まいの地域のアイドリングに関する条例が許す範囲内で、代替として以下の方法で高電圧バッテリーを保持できます。

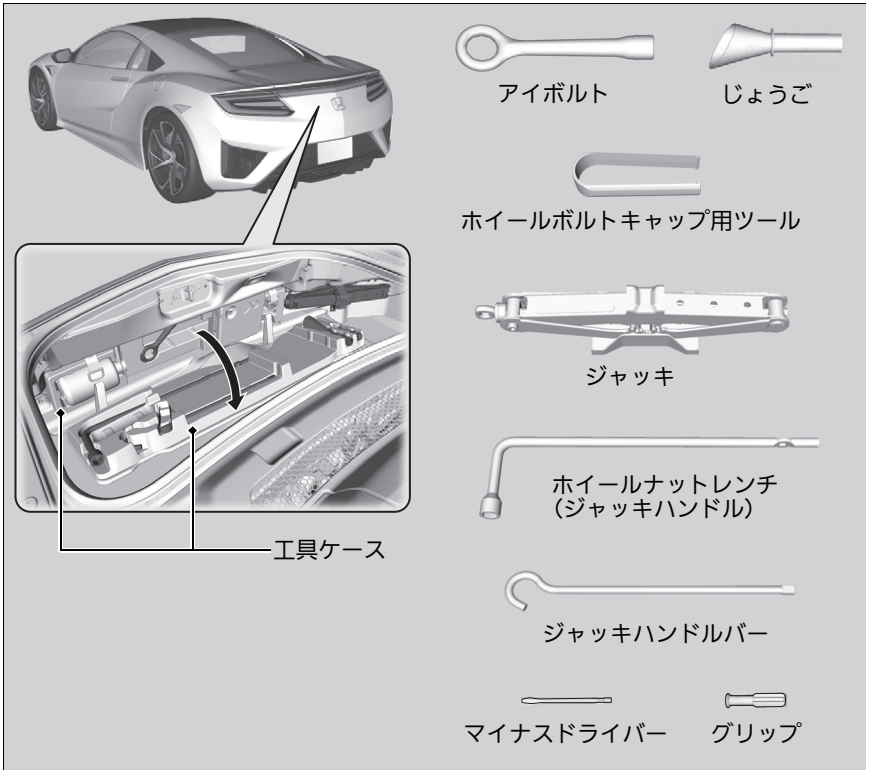
1. 一酸化炭素の蓄積を避けるため、車庫または密閉した場所から車両を出してください。
➡ **一酸化炭素について** P.55
2. 通常の方法と同じように、右足でブレーキペダルを踏み、
ENGINE START/STOP を押してパワーシステムを起動してください。
3. 30 分間パワーシステムを起動したままにしてください。アイドリングストップ作動中もこの 30 分間に含まれます。

万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、非常信号灯 250
パンクしたとき 252
ジャッキの取り扱い.....262
パワーシステムが起動しない
パワーシステムの確認.....265
Honda スマートキーの電池が切れたとき.....267
緊急時のパワーシステム停止方法.....268
ジャンプスタート 269
オーバーヒート 272
警告灯の点灯 / 点滅.....274
ヒューズ
ヒューズの設置場所 279
ヒューズの点検と交換..... 285
けん引..... 286
フューエルリッドが解錠できないとき 287
ハッチが開かないとき 288
給油 289

工具の種類



工具の種類

工具類はトランクルーム内に収納されています。

非常信号灯

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
非常信号灯に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意

➔ **非常信号灯** P.2

非常信号灯

電池が消耗していないか、ときどき作動させて点灯状態を確認してください。電池が切れていたり発光が弱いときは電池を交換してください。
電池を交換しても点灯しなかったり、発光が弱いときは、最寄の Honda 指定販売店で点検を受けてください。

パンクしたタイヤの応急修理

タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの Honda 指定販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. シフトポジションを[P]にする。
3. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

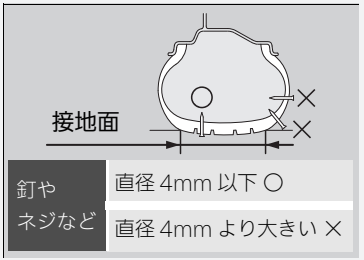
▶▶パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 指定販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき



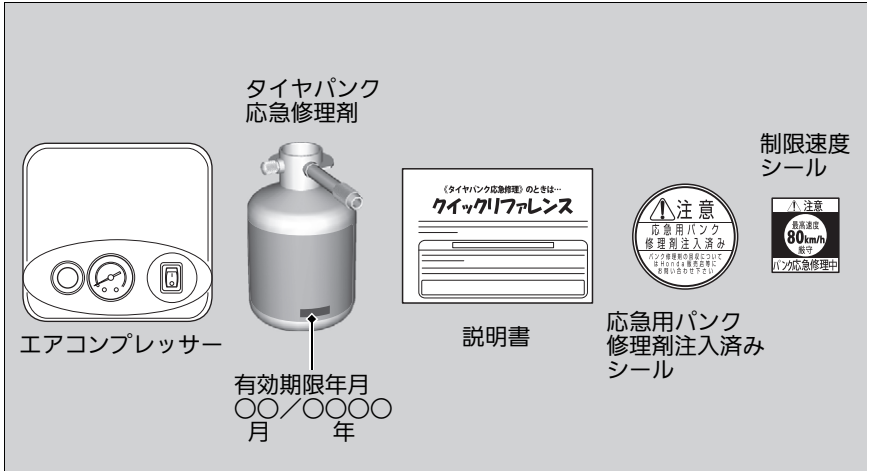
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき

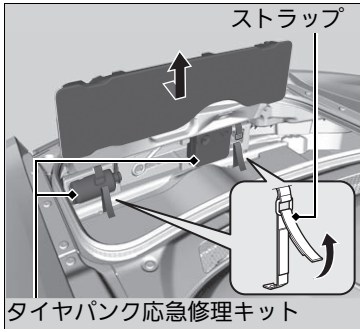


- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

■タイヤ応急修理の準備





1. ハッチを開ける。
2. ストラップを外す。
3. 工具ケースを開ける。
4. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
5. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

次ページに続く

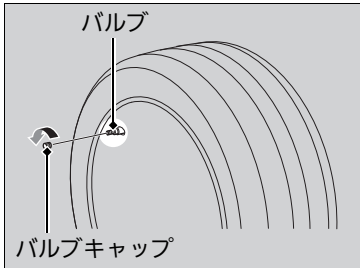
タイヤ応急修理の準備

アドバイス

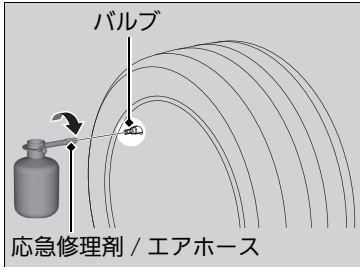
車両に付属したタイヤパンク応急修理剤以外を使用しないでください。使用するとタイヤ圧センサーを破損するおそれがあります。

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

■応急修理剤とエアの注入



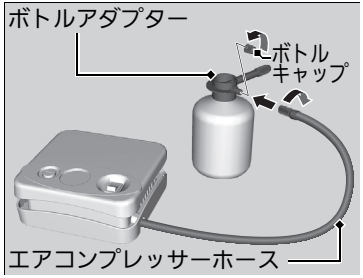
1. バルブからバルブキャップを取り外す。



2. 応急修理剤のボトルをよく振る。

3. タイヤのバルブに応急修理剤 / エアホースをきつく締め付ける。

▶ 応急修理剤がすべてタイヤに流れ込むようにボトルを垂直にする。



4. ボトルアダプターからボトルキャップを外す。

5. ボトルアダプターにエアコンプレッサーのエアホースをきつく締め付ける。

▶▶応急修理剤とエアの注入

⚠注意

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

誤って飲用した場合、

- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

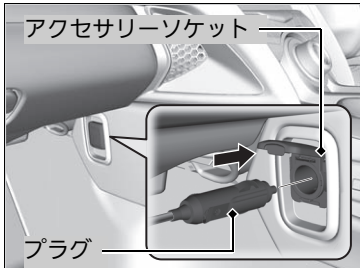
目に入ったり皮膚に付いた場合

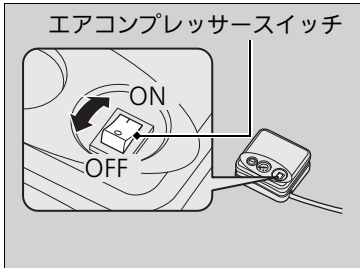
- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。
ボトル・キャップを外した後、ボトルを振らないでください。修理剤がホースから飛び出るおそれがあります。

外気温が氷点下以下のときは応急修理剤は容易に流れないかもしれません。使用前に約5分間暖めてください。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。





6. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。

▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

➔ **アクセサリーソケット** P.137

7. パワーシステムを起動する。

➔ **一酸化炭素について** P.55

8. エアコンプレッサーのスイッチを ON にする。

➔ **指定空気圧** P.292

▶ コンプレッサーはタイヤに応急修理剤と空気を注入し始めます。

9. 指定の空気圧に達したら、エアコンプレッサーの電源を OFF にする。

▶ エアコンプレッサーの空気圧計を確認してください。

応急修理剤とエアの注入

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

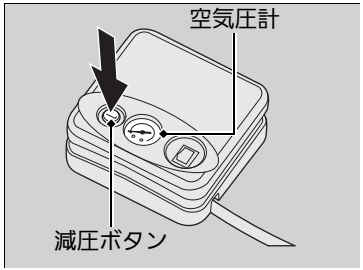
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

アドバイス

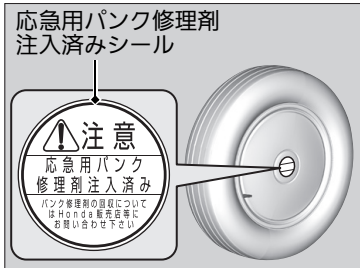
15 分以上コンプレッサーを使用しないでください。

エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。

次ページに続く



10. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。
11. タイヤバルブから応急修理剤 / エアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
12. 減圧ボタンを押して、空気圧計が 0kPa になるまで空気を抜く。



13. 修理が完了したタイヤに、応急用パンク修理剤注入済みシールを貼る。
▶ タイヤのホイールの平らな部分に貼ってください。

応急修理剤とエアの注入

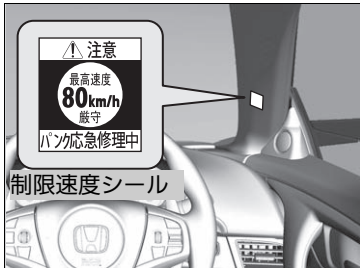
応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。
正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にコンプレッサーの電源 OFF してください。

指定空気圧は、運転席側横の車体にある空気圧ラベルを確認してください。

10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。
Honda 指定販売店やロードサービスに連絡してください。

タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については Honda 指定販売店にお尋ねください。

■点検走行



1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。

2. 点検走行を開始する。

▶法定速度を守ってください。高速道路では 80km/h 以下を厳守してください。

3. 10分または5km走行したあと安全な場所に車を停める。

≫点検走行

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

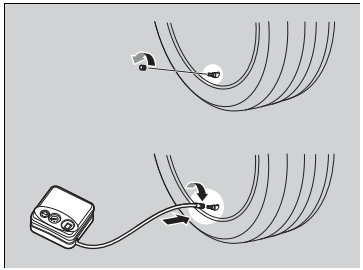
降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

⚠注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。

次ページに続く

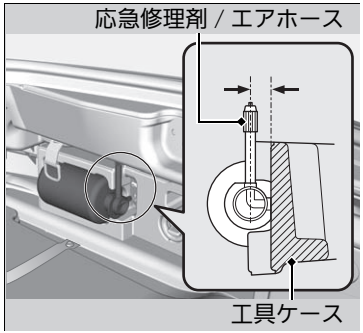


4. タイヤのバルブにエアコンプレッサーホースをきつく締め付ける。
5. エアコンプレッサーに付属の圧力計で空気圧を測定する。
▶ エアコンプレッサーの電源を ON にしないでください。
6. 空気圧が 130 k Pa 未満の場合：
応急修理剤では修理できません。
運転を中止して Honda 指定販売店またはロードサービスに連絡してください。
- 空気圧が 220 k Pa の場合：
応急修理は完了です。
- 空気圧が 130 kPa 以上、220 k Pa 以下の場合：
エアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高める。
Honda 指定販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 5 までを繰り返す。

▶ 高速道路では 80km/h 以下で、法定速度を守って Honda 指定販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。
7. タイヤバルブからエアコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。

▶▶点検走行

走行前に、エアコンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。



8. 減圧ボタンを押して、圧力計が 0kPa になるまでエアを抜く。

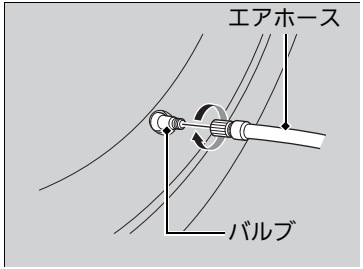
9. キットを車両に戻す。

▶ 応急修理剤のボトルが破損するおそれがありますので、図のようにホースの向きが工具ケースと平行になるように収納してください。

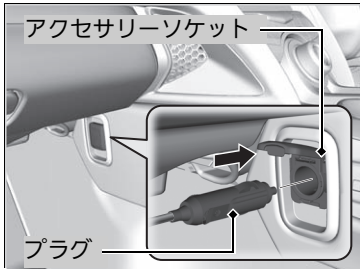
次ページに続く

■タイヤ空気圧の補充

装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



1. エアコンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. バルブにエアコンプレッサーのホースを確実に取り付ける。



5. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
➔ **アクセサリーソケット** P.137
6. パワーシステムを起動する。
➔ **一酸化炭素について** P.55

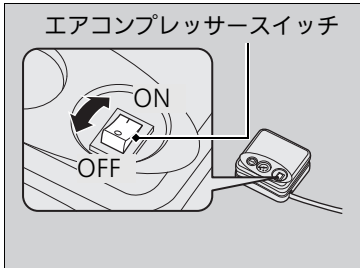
▶タイヤ空気圧の補充

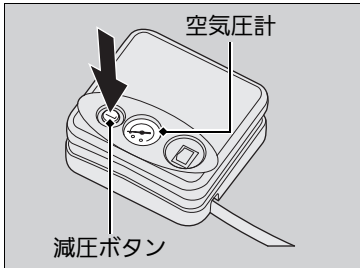
アドバイス

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用　12V 専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。





7. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。
▶ コンプレッサーはタイヤに空気を注入し始めます。
▶ もしパワーシステムを起動させたなら完了するまで停止させないでください。

8. エアコンプレッサーのスイッチを OFF します。
▶ エアコンプレッサーの空気圧計を確認してください。
▶ もし空気圧が高ければ、減圧ボタンを押して減圧します。

9. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。

10. タイヤバルブからエアコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。

11. 減圧ボタンを押して空気圧計が 0kPa になるまで空気を抜く。

12. キットを車両に戻す。

タイヤ空気圧の補充

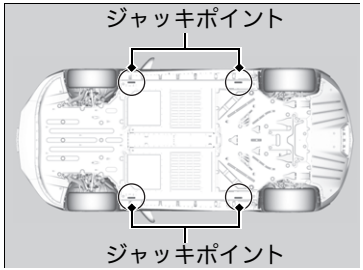
⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

エアコンプレッサーの電源をONにすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

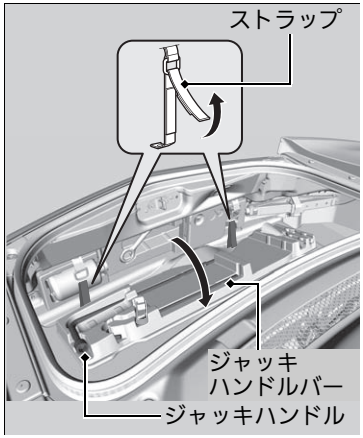
ジャッキのかけかた



以下の場合は、Honda 指定販売店へお問い合わせください。

- 左記のジャッキポイントを使用する場合
- タイヤ交換を行う場合

この車に搭載されているジャッキを使用するときは、以下の手順で行ってください。



1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. シフトポジションを[P]にする。
3. パーキングブレーキをかける。
4. パワーモードを OFF モードにする。
5. ハッチを開ける。
6. ストラップを外す。
7. 工具ケースを開ける。
8. ジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。

▶ジャッキのかけかた

⚠警告

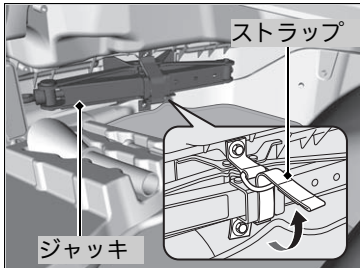
車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

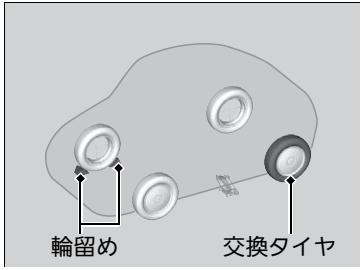
ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

- パワーシステムを起動したままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下に物を入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。
他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。



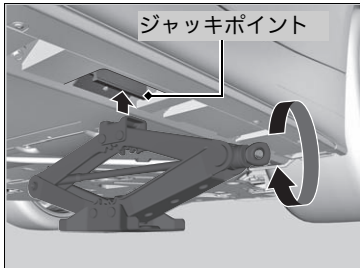
9. ストラップを外してジャッキを取り出す。



10. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留めをする。

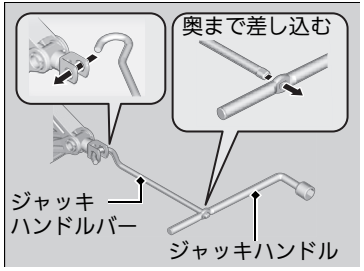
11. 交換するタイヤに最も近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

次ページに続く



12. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。

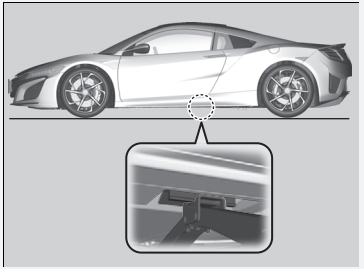
▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



13. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

ジャッキのかけかた

ジャッキポイントは、下記の通りです。



パワーシステムの確認

READY 表示灯が点灯せず、「走行可能です」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されない場合、以下のことが考えられます。項目を確認し、適切な処置を行ってください。

パワーシステムの確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

ジャンプスタートの方法 P.269

項目	状況	対処のしかた
関連した警告灯か警告メッセージが表示されるかどうかを確認する	「外気温が低いために起動できません」と表示される	**マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P.69
	「キーでスイッチに触れて下さい」と表示される ▶Honda スマートキーの作動範囲を確認します。 **POWER スイッチの作動範囲** P.111	**Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.267
	パワーシステム警告灯が点灯する	Honda 指定販売店で点検を受けてください。
	トランスミッション警告灯が点滅し、「トランスミッション点検：停車時はパーキングブレーキを確実にかけて下さい」のメッセージが表示されているとき	応急的にパワーシステムを起動できる場合があります。 **トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した** P.278
室内灯の明るさを確認する	室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合	Honda 指定販売店で 12V バッテリーの点検を受けてください。
	室内灯などの明るさに問題がない場合	全てのヒューズを確認するか、Honda 指定販売店で点検を受けてください。 **ヒューズの点検と交換** P.285
シフトポジションを確認する	P 以外のシフトポジションが選択されている	シフトポジションを P にしてください。

次ページに続く

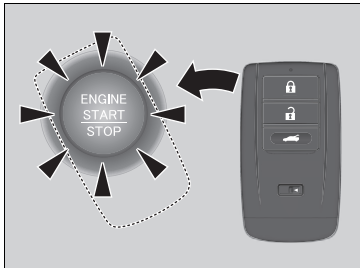
項目	状況	対処のしかた
イモビライザーシステム表示灯を確認する	イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、パワーシステムの起動ができません。	➔ **イモビライザーシステム** P.105 ➔ **イモビライザーシステム表示灯** P.67

以上の確認をしてもパワーシステムが起動しない場合は、Honda 指定販売店で点検を受けてください。

Honda スマートキーの電池が切れたとき

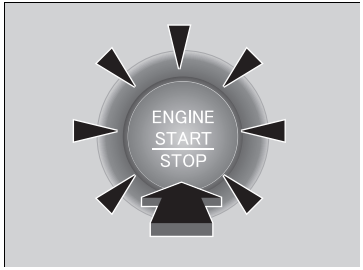
ブザーが鳴り、 ENGINE START/STOP が点滅しているときは、READY 表示灯が点灯しません。また、マルチインフォメーションディスプレイに「キーでスイッチに触れて下さい」とメッセージが表示されます。

以下の手順でパワーシステムを起動してください。



1. ENGINE START/STOP を押す。
▶「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、 ENGINE START/STOP が約30秒間点滅します。

2. ENGINE START/STOP が点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
▶「ピッ」とブザーが鳴り、 ENGINE START/STOP が約10秒間点滅から点灯に変わります。



3. ENGINE START/STOP が点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、 ENGINE START/STOP を押す。
▶ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

緊急時のパワーシステム停止方法

ENGINE START/STOP スイッチは走行中、緊急事態の場合にパワーシステムを停止するために使用することができます。
パワーシステムを停止しなければならない場合は、次のいずれかを行ってください：

- ENGINE START/STOP を約 2 秒以上押す
- ENGINE START/STOP を 3 回連続して押す

このときハンドルはロックしません。

パワーシステムが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。
車が停止すると、自動的にシフトポジションが P になり、パワーモードが OFF モードになります。

緊急時のパワーシステム停止方法

緊急時など必要な場合以外は、走行中に ENGINE START/STOP を押さないでください。

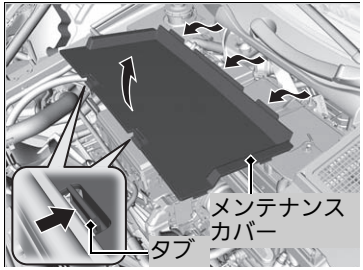
ジャンプスタートの方法

■処置のしかた

まず、ボンネットを開け、12V バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。

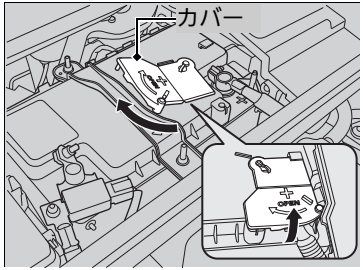
次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。

ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モードにする。

2. タブを押して、メンテナンスカバーを外す。



3. 12V バッテリーの ⊕ 端子のカバーを開ける。

次ページに続く

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。

ジャンプスタートの操作を間違えると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

タバコの火、火花、炎を 12V バッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所に 12V バッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。

バッテリー液が凍結した 12V バッテリーでジャンプスタートすると、12V バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、12V バッテリーの性能が低下します。

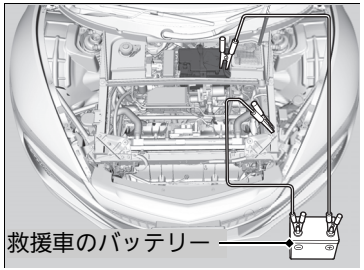
エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

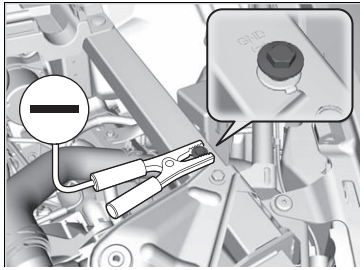
金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。

ケーブルをアース端子以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。

12V バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。





4. ブースターケーブルを、自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子に接続する。

5. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。

▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。

▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。

6. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。

7. ケーブルの反対側を、自車のアース端子に接続する。

8. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。

9. 自車のパワーシステムを起動する。

■システム起動後の作業

自車のパワーシステムが起動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のアース端子からケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。
5. 12V バッテリーの電圧が回復するまでアイドリングしてください。
- ▶ READY 表示灯が点灯すれば走行可能です。
- ▶ ブレーキ、ブレーキシステム、ABS、VSA の警告灯が点灯し消灯しない場合は、パワーシステムを OFF にして、再度、自車のパワーシステムを起動してください。警告灯が消灯しない場合は、異常が考えられますので、Honda 指定販売店で点検してください。
- ▶ パワーシステムが起動しないときは、ジャンプスタートを繰り返してください。

Honda 指定販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

システム起動後の作業

⚠警告

12V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
12V バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
12V バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 指定販売店で 12V バッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。
- 水温計の針が H の目盛に入ったり、エンジンの力が急に落ちる
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。
▶ パーキングスイッチを押し、パーキングブレーキをかけます。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

2. 蒸気が出ていない場合：パワーシステムを起動させたままハッチを開ける。
蒸気が出ている場合：パワーシステムを停止させ、蒸気が出なくなってからハッチを開ける。

≫オーバーヒートしたときの対処方法

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでハッチを開けない。
冷却水リザーブタンクから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

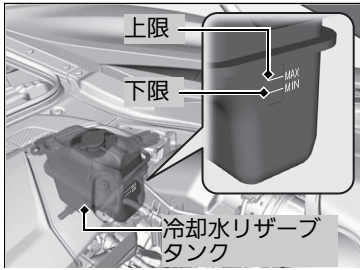
エンジンが熱いうちに冷却水リザーブタンクキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ず冷却水リザーブタンクが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

水温計の針が H の目盛まで上がった状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 指定販売店に修理を依頼してください。

■次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、水温計の針が下がってきてからパワーシステムを停止させる。
▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにパワーシステムを停止します。

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
➔ **エンジンルームカバーの取り外し** P.221
▶ 冷却水量が不足していたら、冷却水リザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、パワーシステムを起動し水温計を確認する。水温計の針が下がった場合は、運転を再開します。下がらないときは、Honda指定販売店に修理を依頼します。

12V バッテリー充電警告灯が点灯した



■点灯の理由
12V バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること
電気の消費を減らすため、エアコン、リヤデフロスターなどを OFF にして、ただちに Honda 指定販売店に修理を依頼してください。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由
エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは
高速走行を避けて、ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは
枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

≫12V バッテリー充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、パワーシステムを停止させないでください。
パワーシステムの起動は、12V バッテリーを使用しますので、再起動できなくなるおそれがあります。

≫PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

点灯したときは
PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

点滅したときは
エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 指定販売店まで走行し点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

EPS が異常のときに点灯します。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、パワーシステムを再起動する

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

ただちに、Honda 指定販売店に修理を依頼してください。
ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。
ABS 警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。
ただちに、Honda 指定販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 指定販売店で点検を受けてください。

電子制御パーキングブレーキシステム警告灯が点灯した



■点灯の理由

電子制御パーキングブレーキが異常のときに点灯します。

■点灯したときは

パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。

■電子制御パーキングブレーキ作動警告灯の点灯または、点滅と同時に点灯したときは

手動または自動でパーキングブレーキを解除してください。

➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.192

- 電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が一緒に点灯または点滅し続けているときは、ただちに安全な場所に停車し Honda 指定販売店へご連絡ください。
  ▶ 車両が動き出さないように、シフトポジションを P にしてください。
- 電子制御パーキングブレーキ作動警告灯だけが消灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。

≫電子制御パーキングブレーキシステム警告灯が点灯した

パーキングブレーキを使用すると、パーキングブレーキが解除できなくなることがあります。

電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が一緒に点灯しているときは、パーキングブレーキが作動しています。
電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が一緒に点滅しているときは、システムの点検中でパーキングブレーキが作動していない可能性があります。

タイヤ空気圧警報システム警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

タイヤの空気圧が著しく低いときに点灯します。タイヤ空気圧警報システムに異常があるときに約 1 分間点滅したあと、点灯します。

■点灯したらすること

急ハンドルや急ブレーキを避け注意深く運転してください。

- 安全な場所に停車します。タイヤの空気圧を点検し、指定空気圧までエアを注入します。
- タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。
  ➔ **仕様** P.291

■点滅のあと点灯したらすること

ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。

» タイヤ空気圧警報システム警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

タイヤの空気圧が低い状態で走行するとタイヤが過熱する場合があります。過熱した状態で走行を続けるとタイヤが損傷することがあります。タイヤは常に適正空気圧を保つようにしてください。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。
この取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した



■点滅の理由
トランスミッションが故障すると表示します。



■点滅したらすること
- ただちに Honda 指定販売店で点検を受けてください。
- パワーシステムを起動するときは、シフトポジションを N にします。
  ▶ 表示灯の N が点灯 / 点滅しているのを確認してください。
  ▶ パーキングブレーキがかかっていないと起動しません。

パワーシステムの起動 P.154

エンジンオイルレベル警告メッセージが表示した



■表示の理由
エンジン内部を潤滑しているオイルの量が低下すると表示します。

■表示したらすぐにすること
1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること
エンジンオイルの量を確認する。
▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。

エンジンオイル量の点検 P.223

トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した

システムを起動できないことがあります。

停車するときは、確実にパーキングブレーキをかけてください。

走行できないときは、専門業者に連絡してください。

非常時のけん引 P.286

エンジンオイルレベル警告メッセージが表示した

アドバイス

エンジンオイルの量が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

このシステムは暖機を十分にした状態で作動します。外気温が極端に低い場合は、車両が動き出してからシステムが作動するまでに時間がかかることがあります。

メッセージが再び表示した場合は、パワーシステムを停止して、ただちに Honda 指定販売店に修理を依頼してください。

ヒューズの設置場所

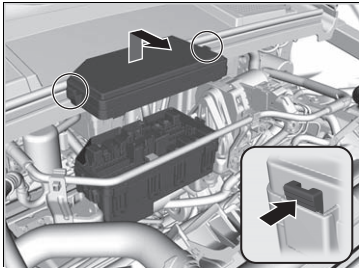
電気装置が作動しない場合、パワーモードをOFFモード にして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、ボンネット下と室内のヒューズボックスに入っています。

■ボンネット下のヒューズボックス

■ヒューズボックス A

ボンネット下には 2 つのヒューズボックスがあります。
ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

ボンネット下のラジエーターの後ろにあります。タブを押して開けてください。



■各ヒューズの装備と容量

容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
		EPS	70 A
		ラジエーターファン	50 A
		ABS/VSA モーター	40 A
1		ABS/VSA FSR	20 A
		助手席側ヒューズボックスメイン	30 A
		メインヒューズ	200 A

次ページに続く

	表示	装備	容量
2	—	—	(50 A)
		運転席側ヒューズボックスメイン 1	60 A
	—	—	(60 A)
	—	—	(50 A)
	L	左側電子制御パーキングブレーキモーター	30 A
	R	右側電子制御パーキングブレーキモーター	30 A
	—	—	(40 A)
	2	ヒーターモーター2	30 A
	1	ヒーターモーター1	30 A
	—	—	(40 A)
3		E-OP	30 A
	—	—	(30 A)
		ADS	30 A
		オーディオアンプ	30 A
4		車幅灯メイン	10 A
5		IGPS PCS	7.5 A
6	L	左側ヘッドライトハイビーム	10 A
7		VFP2	7.5 A
8	L	左側ヘッドライトロービーム	10 A

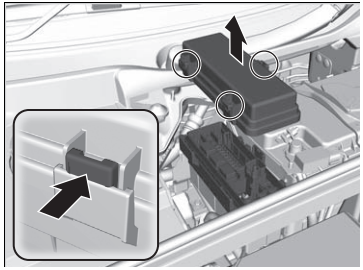
	表示	装備	容量
9	R	右側ヘッドライトハイビーム	10 A
10	R	右側ヘッドライトロービーム	10 A
11		IGPS FAN	7.5 A
12		FI メイン	15 A
13		FI サブ	20 A
14		バックアップ	7.5 A
15		シフトバイワイヤーECU	7.5 A
16		ドライブバイワイヤー1	15 A
17		イグニッションコイル	15 A
18		ドライブバイワイヤー2	15 A
19		車幅灯 / ヘッドライトメイン	20 A
20		リヤデフロスター	20 A
21		フロントウォッシャー	20 A
22		ISC	15 A
23	—	—	—
24		ACC/IG2 メイン	10 A
25		—	(10 A)

	表示	装備	容量
26		ホーン	10 A
27		室内灯	7.5 A
28		IGP2	15 A
29		オーディオ	10 A

■ヒューズボックス B

ボンネット下の12Vバッテリーの隣にあります。メンテナンスカバーを取り外し、タブを押して開けてください。

➡ **メンテナンスカバーの取り外し** P.269



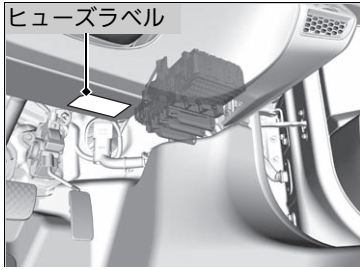
■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		シフトバイワイヤー	60 A
	—	—	—
		運転席側ヒューズボックスメイン 2	60 A
		ワイパー	30 A
	AS	助手席側パワーウィンドー	30 A
		イグニッションメイン 1	30 A
	DR	運転席側パワーウィンドー	30 A
		ESB	40 A
2		イグニッションメイン 2	30 A
3		IMA モーター	20 A
4		BMS	7.5 A
5		制動灯	7.5 A
6		TURBO W/G	20 A
7		非常点滅表示灯	7.5 A
8		エアコンウォーターポンプ	10 A
9	—	—	—
10		AEV	7.5 A
11		バックアップ FI ECU	7.5 A
12	—	—	—
13	—	—	—
14	—	—	—
15	—	—	—
16	—	—	—
17		IMA モーター	10 A

次ページに続く

■室内運転席側のヒューズボックス

ダッシュボードの下にあります。



アンダーパネルに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		—	(10 A)
2		ドアロック	15 A
3		Honda スマートキーシステム	7.5 A
4	—	—	—
5		アクセサリーソケット	20 A
6		フューエルポンプ	20 A
7		ミッションソレノイド	15 A
8		ENG	7.5 A
9		VSA/ABS	7.5 A
10		SRS エアバッグ	10 A
11		パワーシステム 2	10 A
12	—	—	—
13		パワーシステム 1	10 A
14		フューエルリッド	7.5 A
15	DR	運転席パワーシート(リクライニング)✤	(20 A)
16		—	(7.5 A)
17		シートヒーター✤	(20 A)
18		—	(10 A)
19		運転席側ドアアンロック	(7.5 A)
20		助手席側ドアアンロック	7.5 A
21		—	(7.5 A)
22		ACC キーロック	7.5 A
23		エアコン	7.5 A
24		IG1A フィードバック	7.5 A
25		インストルメントパネル照明	7.5 A
26		運転席ランバーサポート✤	(7.5 A)
27	(EXTR)	車幅灯	7.5 A
28		IG1B サブメイン	15 A
29		メーター	10 A
30		IG1B DR2	7.5 A
31		サブフューエルポンプ	15 A
32		SRS エアバッグ	10 A
33		助手席側ドアロック	7.5 A
34		運転席側ドアロック	7.5 A
35		—	(7.5 A)
36	DR	運転席パワーシート(前後スライド)✤	(20 A)
37	R	—	(7.5 A)

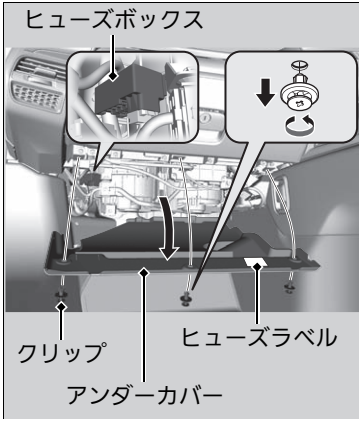
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

	表示	装備	容量
38		—	(7.5 A)
39		IG1B フィードバック	7.5 A
40		ACC	7.5 A
41	—	—	—
42	—	—	—

■室内助手席側のヒューズボックス

助手席側アンダーカバーの中にあります。

プラスドライバーでクリップを外し、アンダーカバーを下にめくってください。



アンダーカバーに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

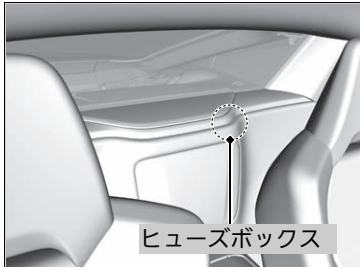
	表示	装備	容量
a		パワーシステム 3	7.5 A
b		IG1B DR1	7.5 A
c		EPS	7.5 A
d		ワイパー	7.5 A
e	—	—	—
f		—	(10 A)
g		助手席パワーシート(リクライニング)✤	(20 A)
h		助手席パワーシート(前後スライド)✤	(20 A)

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

■室内後部のヒューズボックス

室内後部のセンタースピーカーの近くにあります。

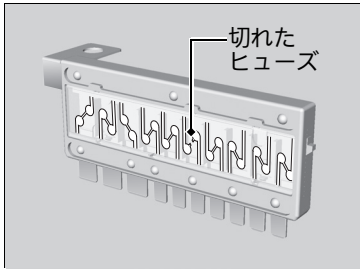


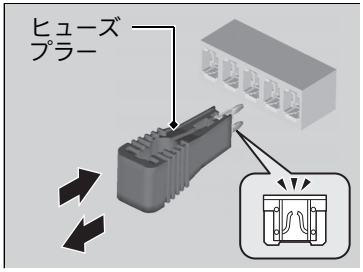
ボンネット下のヒューズボックスAのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。
このヒューズの交換については、指定のHonda 指定販売店にお問い合わせください。

■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1	📖	HCA-2	20 A
2	—	—	—
3	—	—	—
4	—	—	—
5	📖	HCA-1	20 A
6	📖	インジェクター	20 A
7	—	—	—
8	📖	TCU	30 A

ヒューズの点検と交換





1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。
2. ヒューズボックスのフタを取り外す。
3. ボンネット下の大きいヒューズを点検する。
▶切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
4. ボンネット下と、室内の小さいヒューズを点検する。
▶切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

ヒューズの設置場所

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 指定販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。
規定容量はヒューズの設置場所に記載している一覧で確認してください。
➡ **ヒューズの設置場所** P.279

ボンネット下のヒューズボックスAには、フタの裏にヒューズプラーがついています。
ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 指定販売店にご連絡ください。

けん引は、専門業者に依頼して四輪を持ち上げて行ってください。

≫非常時のけん引

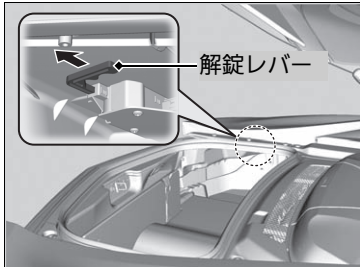
アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。

バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

■解錠できないときの対処方法

万一、フューエルリッドが解錠できなくなったときは、応急処置として次の方法で解錠してください。



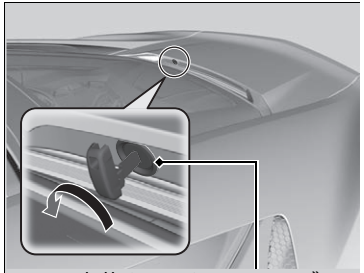
1. ハッチを開ける。
2. 解錠レバーを図の方向に引く。
▶解錠レバーを引くとフューエルリッドが開きます。

»解錠できないときの対処方法

応急処置後は、Honda 指定販売店で点検を受けてください。

■開かないときの対処方法

万一、ハッチを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



内蔵キー/ キーシリンダー

内蔵キーをキーシリンダーに差し込み、キーを左に回して解錠する。

≫開かないときの対処方法

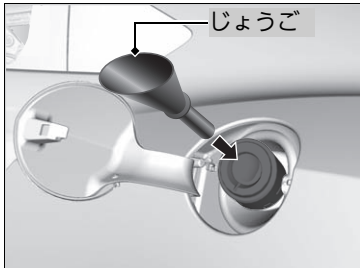
応急処置後は、Honda 指定販売店で点検を受けてください。

セキュリティアラームシステムがセットされている場合、内蔵キーでハッチを解錠すると警報装置が作動します。

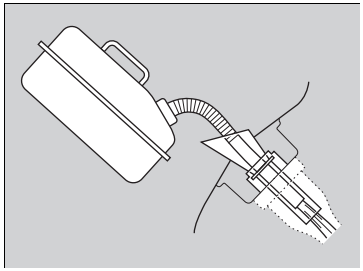
➔ **セキュリティアラームシステム** P.105

携行缶から給油するとき

携行缶を使って給油をするときは、車載のじょうごを使用してください。



1. パワーシステムを停止する。
2. 運転席ドアにあるフューエルリッドオープナーを押す。
   ▶フューエルリッドが開きます。
3. 工具ケースから、じょうごを取り出す。
   ➡ **工具の種類** P.250
4. 図のようにじょうごを給油口へ差し込む。
   ▶じょうごの先端が給油口の奥までしっかりと差し込まれていることを確認してください。



5. 携行缶から燃料を補給する。
   ▶まわりにこぼさないように注意して補給してください。
6. 給油が終わったらじょうごを給油口から引き抜く。
   ▶じょうごに付いた燃料はしっかり拭き取ってください。
7. フューエルリッドを手で閉める。

携行缶から給油するとき

⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- エンジンは停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

アドバイス

車載のじょうご以外を使用して給油しないでください。給油口を損傷することがあります。
工具などを使用して給油口やシールをこじ開けたり押し開けたりしないでください。
給油口やシールを損傷することがあります。

給油するときは、携行缶の中身がガソリンであることを確認してください。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。



仕様 291

仕様

■仕様

名称	NSX
排気量	3,492 cm³
車体形状	2 ドアクーペ
乗車定員	2 名

■調整

点火プラグ	NGK	SILZKAR8F7S
電極のすき間	基準値	0.65-0.7mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
・交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	0.4-3.0mm
	床板とのすき間	ベースペダル装備車 151.4mm 以上 { 約 196N(20kgf) の力 }
		スポーツペダル装備車 155.8mm 以上 { 約 196N(20kgf) の力 }
	カーペットとのすき間 (参考値)	ベースペダル装備車 114.1mm 以上 { 約 196N(20kgf) の力 }
		スポーツペダル装備車 110.0mm 以上 { 約 196N(20kgf) の力 }

■燃料

燃料種類	無鉛プレミアムガソリン プレミアムバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	59 ℓ

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■ 12V バッテリー

容量 / タイプ	70AH (20) /EN-L3

■ウォッシャー液

タンク容量	2.5 ℓ

■電球

ヘッドライト (ロービーム)	LED
ヘッドライト (ハイビーム)	LED
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯、車幅灯	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	LED
制動灯 / 尾灯	LED
尾灯	LED
後退灯	LED
番号灯	LED
ハイマウントストップランプ	LED
トランク照明灯	LED
室内灯 / マップランプ	LED
アンビエントランプ	LED
ドア開閉灯	LED
グローブボックス照明灯	LED
フットランプ	LED

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ ブレーキフルード DOT4

■デュアルクラッチトランスミッションフルード

トランスミッション		
指定液	Honda 純正 GO Type-2	4.6 ℓ (交換時)
クラッチ		
指定液	Honda 純正 ウルトラ ATF DW-1	2.6 ℓ (交換時)

■ツインモーターユニットフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ ATF DW-1	
規定量	オイル交換時	2.42 ℓ

■推奨エンジンオイル

エクソンモービル Mobil 1 0W-40		
規定量	オイル交換時	7.3 ℓ
	オイル、オイルフィルター同時交換時	7.9 ℓ

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	15.5 ℓ (交換時 : リザーブタンク、ヒーター 1.29 ℓ 含む)

■パワードライブユニット冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
指定濃度	50%
規定量	1.90 ℓ (交換時 : リザーブタンク 0.46 ℓ 含む)

仕様

■タイヤ

サイズ	前輪	245/35ZR19 (93Y)
	後輪	305/30ZR20 (103Y)
空気圧 (kPa[kgf/cm²])	前輪	220 (2.2)
	後輪	220 (2.2)
リムサイズ	前輪	19X8 1/2J
	後輪	20X11J

数字

12Vバッテリー充電警告灯 60, 274

A

A/C(エアコン) 140
ABS(アンチロックブレーキシステム) 197
ABS警告灯 63, 197

C

CRUISE CONTROL(クルーズコントロール) 177

E

ENGINE START/STOPスイッチ 111
EPS警告灯 64, 275

H

Hondaインターナビシステム ..... 別冊
Hondaスマートキー 92, 93
ENGINE START/STOPスイッチ 111
Hondaスマートキーシステム警告灯 62
Hondaスマートキー持ち去り警告 113
電池交換のしかた 237

M

MIST 117

P

PGM-FI警告灯 59, 274

R

READY表示灯 68

S

SH-AWDシステム温度表示 83
SH-AWD四輪駆動力自在制御システム 5, 188
SRSエアバッグ 34
エアバッグシステム警告灯 43, 63

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト) 182
VSA OFF警告灯 64, 183
VSA OFFスイッチ 183
VSA警告灯 63, 182

W

W(ワット数) 291

Z

後面方向指示器/後面非常点滅表示灯 227

ア

アクセサリーソケット 137
アクティブダンパーシステム警告灯 65
アシスト/チャージメーター表示 82
アジャイルハンドリングアシスト 187
安全に関する表示 23
安全のための確認事項 27
アンチロックブレーキシステム(ABS) 197
ABS警告灯 63, 197

イ

一酸化炭素の危険性 55
イモビライザーシステム 105
イモビライザーシステム表示灯 67
イルミネーションコントロール 119
インテグレーテッドダイナミクスシステム 170
インフォメーション表示灯 67

ウ

ウィンカースイッチ(方向指示器) 114
ウィンドーの開閉 108
ウィンドウォッシャー
ウィンドウォッシャー液の補給 226
ウィンドウォッシャースイッチ 117
ウェアインジケーター 233
運転
クルーズコントロール 177
シフト操作 162
パワーシステムの起動 154
ブレーキ操作 192
運転席ランバーサポート 130

エ

エアコン 139, 239
エアクリーンフィルター 239
エアコンの使いかた 140
窓の曇りや霜の取りかた 141
モード切り換えスイッチ 140
エアバッグ 34
SRSエアバッグ 34
運転席ニーエアバッグ 37
エアバッグシステム警告灯 43, 63
エアバッグシステム故障診断記録装置 23
エアバッグのお手入れ 43
サイドエアバッグ 39
サイドカーテンエアバッグ 41
エアバッグシステム故障診断記録装置 23
エンジンオイル 222
推奨エンジンオイル 222
補充 226
油圧警告灯 59
量の点検 223
エンジンオイル油温計 83
エンジンオイルレベル点検ガイド表示 88
エンジンの始動
ジャンプスタート 269
エンジンルーム内のメンテナンス
冷却水の点検と補給 273
エンジン冷却水 291

オ

追越合図(パッシング) 115
オイル(エンジン)
点検 223
補充 226
オイルモニターシステム 213
オイルモニターシステム表示 88
応急修理剤(タイヤパンク) 252
オーディオ装置 145
オートエアコン 140
オートマチックブレーキホールド 194
オートマチックブレーキホールドシステム 表示灯 68
オートマチックブレーキホールド 表示灯 68
オートライトコントロール 115
オーバーヒート 272
オドメーター 85, 86
温度センサー 88

カ

外気温表示 85, 88
鍵(かぎ) 91
ガソリン 206, 291

キ

キー
Hondaスマートキー 92, 93
キー閉じ込み防止装置 97
キーナンバータグ 92
キーの種類と機能 91
キーレスエントリーでドアが開かない 21
電池交換のしかた 237
内蔵キー 91
キー閉じ込み防止装置 97
キーナンバータグ 92
キーレスエントリー 96
電池交換のしかた 237
キックダウン 161
給油 206, 289
給油のしかた 207
携行缶から給油するとき 289
指定燃料 206, 291
燃料計 81
燃料残量警告灯 62

ク

空気圧 292
クリープ現象 161
クルーズコントロール 177
クルーズコントロール表示灯 68
クルーズメイン表示灯 68
グローブボックス 134

ケ

経過時間表示 84, 87
計器 56
警告灯 57
12Vバッテリー充電警告灯 60, 274
ABS警告灯 63, 197
EPS警告灯 64, 275
Hondaスマートキーシステム 警告灯 62
PGM-FI警告灯 59, 274
VSA OFF警告灯 64, 183
VSA警告灯 63, 182
アクティブダンパーシステム警告灯 65
エアバッグシステム警告灯 43, 63
シートベルト非着用警告灯 62
電子制御パーキングブレーキシステム 警告灯 58, 276
トランスミッション警告灯 61, 278
燃料残量警告灯 62
パワーシステム警告灯 59
ブレーキ警告灯(レッド) 57, 275
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 57
ブレーキパッド磨耗警告灯 65
油圧警告灯 59
けん引 286

コ

広角ドアミラー..... 127
交換
後退灯電球..... 228
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球..... 227
制動灯/尾灯電球..... 228
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球..... 227
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球..... 227
ハイマウントストップランプ電球..... 228
番号灯電球..... 228
尾灯電球..... 228
ヘッドライト電球..... 227
ワイパーブレードラバー..... 229
工具..... 250
交差点案内表示..... 84, 88
航続可能距離表示..... 84, 87
後退灯..... 228
高電圧バッテリー..... 191
高電圧バッテリーの特性..... 191
高電圧バッテリー残量計..... 82
コンソールボックス..... 135
コンパス表示..... 84, 88

サ

サービス診断記録装置..... 23
データの開示について..... 24
サイドエアバッグ..... 39
サイドカーテンエアバッグ..... 41
サンバイザー..... 3

シ

シーケンシャルモード..... 166
シート..... 128
シートヒーター..... 138
シートの調節..... 128
メモリーボタン..... 122
シートヒーター..... 138
シートベルト..... 28
アンカーポイント..... 33
シートベルトの着用..... 31
シートベルトの点検..... 33
シートベルト非着用警告灯..... 62
シートベルトプリテンショナー..... 30
シートベルトリマインダー..... 29
妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた..... 32
時刻の設定..... 90
室内装備品..... 134
室内灯..... 132
シフトスイッチ..... 169
シフト操作..... 162
シフトポジション..... 162
シフトポジション表示灯/ギヤセレクション表示灯..... 66
車外の清掃..... 242
ジャッキ..... 262
ジャッキハンドル(ホイールナットレンチ)..... 262
ジャッキハンドルバー..... 262
車内の清掃..... 240
車両接近通報装置..... 181
車両の保管..... 247
ジャンプスタート..... 269
瞬間燃費表示..... 84, 86
仕様..... 291

ス

水温計 81
スイッチ操作
イルミネーションコントロール 119
インテグレーテッドダイナミクスシステム モードスイッチ 170
オートマチックブレーキホールド スイッチ 194
パーキングブレーキスイッチ 192
ヒーテッドドアミラースイッチ 120
方向指示器(ウィンカー)スイッチ 114
リヤデフロスタースイッチ 120
ワイパー/ウォッシャースイッチ 117
ステアリング 123
スノータイヤ 236
スパークプラグ 291
スピードメーター 81

セ

清掃 240
制動灯 228
セキュリティシステム 105
イモビライザーシステム 105
セキュリティアラームシステム 105
セキュリティアラームシステム作動 表示灯 68

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 227

タ

ターボ車 209
タイヤ 232
TPMS 189
ウェアインジケーター 233
空気圧警報システム空気圧モニター 88
空気圧警報システム警告灯 64, 277
指定空気圧 292
タイヤの点検 232
タイヤのローテーション 235
タイヤパンク応急修理キット 252
冬期のタイヤ 236
パンク 252
タイヤ空気圧警報システム(TPMS) 189
タイヤチェーン 236
タコメーター 81

チ

チェーン 236
チャイルドシート 47
ジュニアシート 54
乳児のチャイルドシート 48
幼児のチャイルドシート 48
駐停車操作 199
超音波センサー 107
OFFスイッチ 107

テ

デフロスター
リヤデフロスタースイッチ 120
点火プラグ 291
電子制御パーキングブレーキ 192
電子制御パーキングブレーキシステム 警告灯 58, 276
電子制御ブレーキアシスト 198
電池交換 237

ト

ドアの施錠と解錠
Hondaスマートキー 92, 93
キー閉じ込み防止装置 97
キーナンバータグ 92
キーの種類と機能 91
キーレスエントリーシステム 96
キーレスエントリーでドアが開かない 21
車外でのドアの施錠/解錠 94
車内での施錠/解錠 98
ドアミラー 125
冬期のタイヤ 236
スノータイヤ 236
タイヤチェーン 236
時計 90
ドライビングポジションシステム 121
トラブルシューティング
アクセルペダルを踏んでもパーキング ブレーキが自動で解除できない 22
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 21
オーバーヒートした 272
キーレスエントリーでドアが開かない 21
警告灯が点灯/点滅した 274
けん引してもらいたい 286
ジャンプスタートしたい 269
走行するとブザーが鳴る 21
パーキングブレーキスイッチを押しても パーキングブレーキが解除できない 21
パワーシステムが起動しない 265
パンクした 252
ヒューズが切れた 279
ブレーキを踏むと音がする 21
トランスミッション警告灯 61, 278
トランスミッションフルード 291
トリップメーター 85, 86
ドリンクホルダー 136

ナ

内蔵キー 91

ニ

ニーエアバッグ 37

ネ

燃料 206, 291
燃料計 81
燃料残量警告灯 62

ハ

パーキングセンサーシステム 201
排気ガスの危険性 55
ハイパフォーマンス走行 149
ハイビーム 115
電球の交換 227
ハイビーム表示灯 66
ハイマウントストップランプ 228
ハザードスイッチ ..... **表紙ウラ**
パッシング 115
ハッチ
ハッチオープナー 102
ハッチが開かないとき 288
ハッチの開閉 101
ハッチ/ボンネット内のメンテナンス 217
ウィンドウォッシャー液の補給 226
推奨エンジンオイル 222
ハッチ/ボンネット内のメンテナンス 項目 217
ハッチを開ける 219
ボンネットを開ける 220
バッテリー
12Vバッテリー充電警告灯 60, 274
高電圧バッテリー 191
ジャンプスタート 269
容量 291

発話スイッチ 1
パワーウィンドーの開閉 108
パワーシステム警告灯 59
パワーシステムの起動 154
パワーシステムが起動しない 265
パワーモード 111
パワーモード警告ブザー 112
パンク 252
番号灯 228
ハンドル 123
ハンドル位置調節スイッチ 123

ヒ

ヒーテッドドアミラー 120
非常信号灯 251
非常点滅表示灯スイッチ ..... **表紙ウラ**
尾灯 228
ヒューズ
各ヒューズの装備と容量 279, 281, 282, 283, 284
ヒューズの設置場所 279
ヒューズの点検と交換 285
表示灯
クルーズコントロール表示灯 68
クルーズメイン表示灯 68
READY表示灯 68
イモビライザーシステム表示灯 67
インフォメーション表示灯 67
シフトポジション表示灯/ギヤセレクション表示灯 66
セキュリティアラームシステム作動表示灯 68
ハイビーム表示灯 66
方向指示器表示灯 66
ライト点灯表示灯 66

フ

ブースターケーブル 269
ブザー
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 21
走行するとブザーが鳴る 21
フューエルリッド
フューエルリッドが解錠できないとき ... 287
フューエルリッドの開けかた 207
フューエルリッドの開けかた 207
ブレーキシステム 192
ABS(アンチロックブレーキシステム) 197
アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない 22
オートマチックブレーキホールド 194
電子制御パーキングブレーキ 192
電子制御ブレーキアシスト 198
パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない 21
フットブレーキ 196
ブレーキ警告灯(レッド) 57, 275
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 57
ブレーキを踏むと音がする 21
ブレーキパッド磨耗警告灯 65
ブレーキフルード 291
ブレーキ警告灯(レッド) 57, 275

へ

平均車速表示 84, 87
平均燃費表示 84, 86
ヘッドライト
追越合図(パッシング) 115
ハイビーム 115
ハイビーム表示灯 66
ライト点灯表示灯 66
ロービーム 115
ヘッドライトオートオフ機能 116

ホ

ホーンスイッチ 1
ホイールナットレンチ(ジャッキハンドル) 262
方向指示器(ウィンカースイッチ) 114
方向指示器表示灯 66
保管 247
ポップアップフードシステム 44

マ

マスタードアロックスイッチ 98
マップランプ 133
マルチインフォメーションディスプレイ 84
表示の切り換えかた 84
メッセージ 69

ミ

ミラー 124
ドアミラー 125
ルームミラー 124

メ

メーター 81
SH-AWDシステム温度表示 83
アシスト/チャージメーター表示 82
エンジンオイル油温計 83
高電圧バッテリー残量計 82
水温計 81
スピードメーター 81
タコメーター 81
燃料計 81
マルチインフォメーションディスプレイ 84
メモリーボタン 122
メンテナンス 210
Hondaスマートキー 237
エアコンのお手入れ 239
オイル 223
清掃 240
タイヤの点検と整備 232
ハッチ/ボンネット内のメンテナンス 217
メンテナンスに関する注意事項 212
メンテナンスを安全に行うために 212
ライト類の点検と整備 227
ワイパーブレードラバーの点検と整備 229

モ

モード切り換え(エアコン) 140

ユ

油圧警告灯 59

ラ

ライトスイッチ 115
追越合図(パッシング) 115
ハイビーム 115
ハイビーム表示灯 66
ライト点灯表示灯 66
ロービーム 115
ライト類の点検と整備 227
後退灯電球 228
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球 227
制動灯/尾灯電球 228
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球 227
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球 227
ハイマウントストップランプ電球 228
番号灯電球 228
尾灯電球 228
ヘッドライト電球 227
ランバーサポート 130

リ

リザーブタンク 273
リバース連動ドアミラー 126
リムサイズ 292
リヤカメラシステム 205
リヤデフロスタースイッチ 120

ル

ルームミラー 124

レ

冷却水 273
オーバーヒート 272
補給 273
レベルゲージ(エンジンオイル) 225

ロ

ロービーム 115
ローンチコントロール 175

ワ

ワイパー/ウォッシャー 117
ワイパーブレードラバー 229

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8ー1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、原動機の型式、登録番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名